

Inbound Refinery

管理ガイド

10g リリース 3 (10.1.3.3.1)

部品番号: E05641-01

2007 年 11 月

Inbound Refinery 管理ガイド, 10g リリース 3 (10.1.3.3.1)

部品番号 : E05641-01

原本名 : Inbound Refinery Administration Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.1)

原本部品番号 : A00088-01

原本協力者 : Eric Raney, Bruce Silver, Brian Bergstrom, Alex Sanchez

Copyright © 2007 Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章：はじめに

概要	1-1
このガイドについて	1-1
表記規則	1-2
Inbound Refinery のドキュメント	1-3
オンライン・ヘルプ・システム	1-3
PDF ドキュメント	1-3

第 2 章：新機能

概要	2-1
製品の変更点	2-1
ドキュメントの変更点	2-2

第 3 章：Inbound Refinery の概要

概要	3-1
Inbound Refinery について	3-1
Inbound Refinery のインストールと設定の概要	3-4
Inbound Refinery プロセスの概要	3-5

第 4 章：リファイナリの起動と停止

概要	4-1
Windows サービスとしてのリファイナリの起動、停止および再起動	4-2
Windows アプリケーションとしてのリファイナリの起動と停止	4-4
UNIX でのリファイナリの起動と停止	4-5
リファイナリへのログオン	4-6
管理サーバーの使用によるリファイナリの起動と停止	4-7

Windows でのサービスとしての管理サーバーの起動、停止および再起動	4-7
Windows でのアプリケーションとしての管理サーバーの起動と停止	4-8
UNIX での管理サーバーの起動と停止	4-9
管理サーバーの使用によるリファイナリの起動、停止および再起動	4-9
管理サーバーへのリファイナリの追加	4-10

第 5 章：Content Server とリファイナリの通信の構成

概要	5-1
Content Server とリファイナリの構成のシナリオ	5-2
シナリオ A	5-4
シナリオ B	5-5
シナリオ C	5-6
シナリオ D	5-7
シナリオ E	5-8
リファイナリ・プロバイダの構成	5-9
コンテンツ・サーバーとリファイナリ・プロバイダについて	5-9
リファイナリ・プロバイダの追加	5-10
リファイナリ・プロバイダの編集	5-11
リファイナリ・プロバイダの無効化および有効化	5-11
リファイナリ・プロバイダの削除	5-12
「Providers」 ページ	5-12
「Add Outgoing Provider」 または 「Edit Outgoing Provider」 ページ	5-14
「Provider Information」 ページ	5-17
コンテンツ・サーバーの IP セキュリティ・フィルタの編集	5-18

第 6 章：ジョブをリファイナリに送信するためのコンテンツ・サーバーの構成

概要	6-1
概要	6-2
変換について	6-4
コンテンツ・アイテムのリファイナリ通過と変換失敗	6-7
MIME タイプについて	6-7
File Formats ウィザードの使用	6-8
構成マネージャの使用	6-9
構成マネージャの起動	6-9
ファイル・フォーマットの追加	6-10

ファイル・フォーマットの編集	6-10
ファイル拡張子の追加	6-11
ファイル拡張子の編集	6-11
PassThru ファイルに関するコンテンツ・サーバーの構成	6-12
コンテンツ・サーバーのリファイナリ変換オプションの構成	6-13
チェックイン時の変換の上書き	6-14
サムネイルのサイズ変更	6-17
File Formats ウィザード・ページ	6-18
「File Formats」画面	6-20
「Add New File Formats」または「Edit File Formats」画面	6-21
「Add File Extensions」または「Edit File Extensions」画面	6-22
「Refinery Conversion Options」ページ	6-23
「Refinery Conversion Job Status」ページ	6-25
「IBR Provider Status」ページ	6-26

第7章：リファイナリの変換設定の構成

概要	7-1
変換設定について	7-2
サムネイルについて	7-3
タイムアウトの計算	7-5
受け入れられる変換の設定	7-6
プライマリの Web 表示可能レンディションとしてのマルチページ TIFF ファイルの設定	7-7
サムネイルの設定	7-7
UNIX でのレンダリング・オプションの構成	7-9
内部グラフィック・コードを使用したレンダリング (デフォルト・オプション)	7-9
ネイティブ・グラフィック・サブシステムを使用した レンダリング	7-10
サード・パーティ・アプリケーション設定の構成	7-11
グラフィック変換のタイムアウト設定の構成	7-11
「Conversion Listing」ページ	7-12
「Primary Web-Viewable Rendition」ページ	7-14
「Additional Renditions」ページ	7-16
「Thumbnail Options」ページ	7-17
「Third-Party Application Settings」ページ	7-21

「Timeout Settings」 ページ	7-22
------------------------	------

第 8 章：リファイナリの状態の監視

概要	8-1
エージェントについて	8-2
リファイナリ・ログについて	8-2
リファイナリの状態の表示	8-4
リファイナリ・ログの表示	8-4
コンソール出力の表示	8-4
エージェントの状態の表示	8-5
エージェント・キューの表示	8-5
変換履歴の表示	8-5
エージェント・ログの表示	8-6
「Refinery Status」 ページ	8-6
「Refinery Logs」 ページ	8-8
「Console Output」 ページ	8-9
「Agent Status」 ページ	8-10
「Items In Queue」 ページ	8-11
「Conversion History」 ページ	8-12
「Conversion Detail」 ページ	8-13
「Agent Logs」 ページ	8-14

第 9 章：リファイナリ管理の実行

概要	9-1
ユーザー管理の実行	9-2
リファイナリのユーザーについて	9-2
ユーザー・プロファイルの編集	9-3
リファイナリの認証およびユーザーの管理	9-3
リファイナリの変換キューの管理	9-5
エージェント管理の実行	9-9
詳細ロギングの有効化	9-9
エージェントの削除	9-9
リファイナリ構成情報の表示	9-10
リファイナリのシステム監査情報の表示	9-11
リファイナリ・プロバイダの管理	9-12

Web サーバー・フィルタの構成	9-12
管理サーバーの使用	9-12
動的および静的なレイアウト・ファイルのパブリッシュ	9-13
管理ユーティリティの使用	9-13
システム・プロパティ・ユーティリティの使用	9-14
コンポーネント・ウィザード・ユーティリティの使用	9-14
アクティブ・ウイルス・スキャンと Inbound Refinery	9-15
日付フォーマットの変更	9-16
タイムゾーンの設定	9-17
「User Profile」 ページ	9-18
「Agent Management」 ページ	9-19
「Delete Agent」 ページ	9-20
「Configuration Information」 ページ	9-21
「System Audit Information」 ページ	9-22
「Providers」 ページ	9-24
「Configure Web Server Filter」 ページ	9-25
管理サーバー	9-26

第 10 章：Inbound Refinery の問題のトラブルシューティング

概要	10-1
リファイナリの問題のトラブルシューティング・プロセス	10-2
リファイナリのインストールの問題	10-4
リファイナリの設定と実行の問題	10-5
Inbound Refinery がアプリケーションまたはサービスとして 実行されない	10-5
Inbound Refinery がアプリケーションとして実行されるが サービスとしては実行されない	10-6
Inbound Refinery サービスが停止する	10-7
インストール後にリファイナリにログインできない	10-8
ファイルが断続的に WWW 生成状態になる	10-9
リファイナリ・エラー：Unable to convert, native application reported: "Permission denied"	10-10
サムネイル作成の問題	10-10
ファイル表示の問題	10-10

付録 A: Outside In Image Export で変換される ファイル・フォーマット

概要	A-1
文書作成のフォーマット	A-2
デスクトップ・パブリッシングのフォーマット	A-4
データベース・フォーマット	A-5
スプレッドシートのフォーマット	A-6
プレゼンテーションのフォーマット	A-7
グラフィックのフォーマット	A-8
圧縮のフォーマット	A-11
電子メールのフォーマット	A-11
その他のフォーマット	A-13

付録 B: サード・パーティ・ライセンス

概要	B-1
Apache Software License	B-1
W3C® Software Notice and License	B-2
Zlib License	B-4
一般的な BSD ライセンス	B-5
一般的な MIT ライセンス	B-5
Unicode ライセンス	B-6
その他の帰属	B-7

索引

1

はじめに

概要

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [このガイドについて](#) (1-1 ページ)
- ❖ [表記規則](#) (1-2 ページ)
- ❖ [Inbound Refinery のドキュメント](#) (1-3 ページ)

このガイドについて

この管理ガイドでは、Microsoft Windows または UNIX を実行しているコンピュータで Inbound Refinery 10g リリース 3 を設定および管理するために必要なすべての情報を説明します。サポートされるオペレーティング・システムや Inbound Refinery のインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。







重要: このドキュメントに含まれる情報は、製品テクノロジーの発展や、ハードウェア、オペレーティング・システムおよびサード・パーティ・ソフトウェアの作成および変更に伴って変更される可能性があります。

表記規則

このガイドでは次の表記規則を使用します。

- ❖ スラッシュ (/) は、インターネット・アドレスの構成要素の区切りとして使用されます。たとえば、`http://www.google.com/maps` のように表記します。インターネット・アドレスの末尾には、スラッシュが付く場合と付かない場合があります。
- ❖ 円記号 (¥) は、Windows サーバー、ディレクトリ、またはファイルへのパスのレベルの区切りとして使用されます。たとえば、`C:¥ibr¥refinery¥` のように表記します。Windows サーバー、ディレクトリまたはファイル・パスの末尾には、常に円記号が付きます。
- ❖ スラッシュ (/) は、UNIX サーバー、ディレクトリ、またはファイルへのパスのレベルの区切りとしても使用されます。たとえば、`/usr/ibr/refinery` のように表記します。
- ❖ 文章内でファイル名とファイル・パスを示す場合は、`<path_to_directory>` ディレクトリの `<filename>` ファイル、のように表記します。
- ❖ `<refinery_install_dir>` という表記は、Inbound Refinery のメイン・インストール・ディレクトリの場所を参照するために使用されます。
- ❖ `<content_server_install_dir>` という表記は、Content Server のメイン・インストール・ディレクトリの場所を参照するために使用されます。
- ❖ 注意、技術ヒント、重要な通知、および警告には、次の表記規則が使用されます。

記号	説明
	これは注意です。情報に対し、特に注意を喚起するために使用されます。
	これは技術ヒントです。タスクを容易にするために使用できる情報を示すために使用されます。
	これは重要な通知です。必要な手順または必要な情報を示すために使用されます。
	これは警告です。データの損失または重大なシステム問題の原因となる可能性がある情報を示すために使用されます。

INBOUND REFINERY のドキュメント

Inbound Refinery には、広範なオンライン・ヘルプ・システムと、詳細な PDF ドキュメントが付属しています。

オンライン・ヘルプ・システム

Inbound Refinery のヘルプには、Inbound Refinery 管理インタフェースまたはリファイナリ・コンピュータのファイル・システムから次のようにアクセスできます。

- ❖ Inbound Refinery の管理インタフェースからヘルプを表示するには、「Help」リンクをクリックします。
- ❖ リファイナリ・コンピュータ・ファイル・システムからリファイナリ製品のヘルプを起動するには、次のディレクトリの `wh_start.htm` ファイルを開きます。

Windows: `<refinery_install_dir>\weblayout\help¥`

UNIX: `<refinery_install_dir>/weblayout/help`



注意: コンテンツのオンライン・ヘルプ・システム表の「Welcome」リンクから、ヘルプ・システムの使用に関する有用な情報が表示されます。

PDF ドキュメント

Inbound Refinery のドキュメントは、一連の PDF ファイルでも利用できます。すべての PDF ファイルは、Inbound Refinery ソフトウェアのインストール・ファイルに収められています。PDF ファイルのガイドも、Inbound Refinery ソフトウェアとともにインストールされます。

- ❖ リファイナリ製品のヘルプ・システムから PDF 版のガイドを表示するには、ヘルプ・ページの右上隅にある PDF アイコンをクリックします。
- ❖ リファイナリ・コンピュータ・ファイル・システムから PDF ファイルを表示するには、次のディレクトリに移動します。

Windows: `<refinery_install_dir>\weblayout\help¥documentation¥`

UNIX: `<refinery_install_dir>/weblayout/help/documentation`

はじめに

2

新機能

概要

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [製品の変更点](#) (2-1 ページ)
- ❖ [ドキュメントの変更点](#) (2-2 ページ)

製品の変更点

Inbound Refinery 10g リリース 3 での製品の変更点を次に示します。

- ❖ **Inbound Refinery が Content Server ベースに変更**
Inbound Refinery は、10g リリース 3 では再開発されています。Inbound Refinery の基本機能は前のリリースと同じですが、**Content Server** をベースとするようになりました。これにより多くの利点が得られますが、特に、容易かつ迅速なパッチ適用の対象となるコンポーネント使用や変換アドオンの開発が実現します。
- ❖ **新しい管理インターフェース**
Inbound Refinery の管理インターフェースが新しく Web ベースに変更されました。この新しいインターフェースでは、**Content Server** インターフェースのすべての機能を利用できます。
- ❖ **コンテンツ・サーバーのプロバイダとしてのリファイナリの使用**
リファイナリを、1つ以上のコンテンツ・サーバーの送信プロバイダとして使用できるようになりました。

❖ 新しいキュー機能

Inbound Refinery のキュー管理機能が改善されています。リファイナリとコンテンツ・サーバーが、同じキューから読み取ることはなくなり、キュー競合の可能性が非常に低くなりました。現在は、コンテンツ・サーバーがジョブのすべての転送を管理するようになりました。これは以前のアーキテクチャとはまったく異なります。新旧のアーキテクチャの重要な違いの 1 つは、WWW 生成のままになっているドキュメントによって、すべての変換が停止されないことです。たとえば、大規模な Digital Media Video 変換が必要なときに、ジョブを処理できる空いたリファイナリがなくても、キュー内の Word 変換をリファイナリに転送できます。

❖ Outside In Image Export の新バージョン

Inbound Refinery には、Outside In Image Export 8.1.9 が含まれます。これは、サムネイルの作成やマルチページ TIFF ファイルへの変換に使用されます。

ドキュメントの変更点

Inbound Refinery 10g リリース 3 でのドキュメントの変更点を次に示します。

❖ ドキュメント・セットの再編成

Inbound Refinery ドキュメント・セットが再編成され、現在は次のドキュメントが含まれています。

- 『**Inbound Refinery インストール・ガイド**』: Microsoft Windows または UNIX を実行しているコンピュータに Inbound Refinery 10g リリース 3 をインストールするために必要なすべての情報を説明します。
- 『**Inbound Refinery 管理ガイド**』(このガイド): Microsoft Windows または UNIX を実行しているコンピュータで Inbound Refinery 10g リリース 3 を設定および管理するために必要なすべての情報を説明します。
- 『**DAM and Conversion 製品リリース・ノート**』: 10g リリース 3 のすべての Digital Asset Management (DAM) および変換製品 (Inbound Refinery など) をインストールおよび管理するための最新の考慮事項を説明します。

❖ リファイナリの再開発と新インターフェースに対応するドキュメントの更新

Inbound Refinery ドキュメント・セットは、再開発されたリファイナリと新しい管理インターフェースに対応するように更新されています。

3

INBOUND REFINERY の概要

概要

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [Inbound Refinery について](#) (3-1 ページ)
- ❖ [Inbound Refinery のインストールと設定の概要](#) (3-4 ページ)
- ❖ [Inbound Refinery プロセスの概要](#) (3-5 ページ)

INBOUND REFINERY について

Inbound Refinery 10g リリース 3 は、ファイル変換を管理し、サムネイル作成機能を提供する変換サーバーです。Inbound Refinery は、Windows または UNIX サーバーで実行し、次の目的で使用できます。

- ❖ [Outside In Image Export](#) を使用した、ファイルのサムネイルの作成。サムネイルは、コンテンツの小さなプレビュー・イメージです。
- ❖ [Outside In Image Export](#) を使用した、マルチページ TIFF ファイルへのファイルの変換。ユーザーが、TIFF ビューア・プラグインを備えた標準の Web ブラウザを使用して、ファイルを表示できるようになります。
- ❖ カスタム変換の設定とカスタム変換エンジンの作成。



注意: [OutSide In Image Export](#) を使用して Inbound Refinery で変換できるファイル・フォーマットの詳細は、[付録 A 「Outside In Image Export で変換されるファイル・フォーマット」](#) を参照してください。

また、次の変換アドオンを Inbound Refinery と一緒に使用できます。

❖ **PDF Converter:** ファイルを PDF (Portable Document Format) に変換します。PDF リーダー・プラグイン (Adobe Acrobat Reader など) を備えた標準 Web ブラウザを使用してユーザーがファイルを表示できます。ファイルを PDF に変換するには次の 3 つの方法があります。

- サード・パーティ・アプリケーションを使用した PDF への変換 : PDF Converter を Windows 上で実行しているときに、いくつかのサード・パーティ・アプリケーションを使用してコンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成できます。ほとんどの場合、ファイルを開いて印刷できるサード・パーティ・アプリケーションを使用して、ファイルが PostScript に出力されます。その後、構成されている PostScript Distiller エンジンを使用して、PostScript ファイルが PDF に変換されます。場合によっては、PDF Converter がサード・パーティ・アプリケーションを使用して、ファイルを PDF に直接変換することもできます。この方法を使用するときは、PostScript Distiller エンジン、PostScript プリンタ、および変換時に使用されるサード・パーティ・アプリケーションが PDF Converter で必要になります。
- OpenOffice を使用した PDF への変換 : Windows または UNIX で実行しているとき、PDF Converter で OpenOffice を使用していくつかのファイル・タイプを PDF に直接変換できます。この方法を使用するときは、PDF Converter で必要となるのは OpenOffice のみです。
- Outside In を使用した PDF への変換 : PDF Converter には Outside In X が含まれます。これは、Windows で、コンテンツ・アイテムの PDF ファイルを作成するために使用されます。Outside In X を使用してファイルを PostScript に出力してから、構成されている PostScript Distiller エンジンを使用して PostScript ファイルが PDF に変換されます。この方法を使用するとき、PDF Converter で必要となるのは PostScript Distiller エンジンのみです。



重要 : 変換で使用されるサード・パーティ・アプリケーション、PostScript Distiller エンジンおよび PostScript プリンタは、PDF Converter には含まれていません。実行する変換に必要なすべてのサード・パーティ・アプリケーションと、PostScript Distiller エンジンと PostScript プリンタを選択して用意する必要があります。



注意 : PDF Converter で変換できるファイル・フォーマットの詳細は、『PDF Converter インストレーションおよび管理ガイド』を参照してください。

❖ **Tiff Converter:** TIFF (Tagged Image File Format) ファイル特有の次の機能を使用できるようになります。

- 1 ページまたは複数ページの TIFF ファイルから、管理対象の PDF ファイルを作成します。
- 1 つの ZIP ファイルに圧縮されていた複数の TIFF ファイルから、管理対象の PDF ファイルを作成します。

- TIFF から PDF への変換時に OCR (Optical Character Recognition) を実行します。これにより、チェックインされた TIFF ファイル内のテキストの索引付けが行われるので、ユーザーはこれらのファイルの全文検索を実行できます。

Tiff Converter は Windows のみでサポートされます。



重要: Tiff Converter では、TIFF から PDF への OCR 付き変換を実行するために CVISION CVista PdfCompressor が必要です。PdfCompressor は Tiff Converter には含まれていません。CVISION から PdfCompressor を入手する必要があります。詳細は、『Tiff Converter Installation and Administration Guide』を参照してください。

- ❖ **XML Converter:** Outside In XML Export と Search Export、および FlexionDoc スキーマまたは SearchML スキーマを使用して、ファイルを XML (eXtensible Markup Language) ファイルに変換します。



注意: XML Converter で変換できるファイル・フォーマットの詳細は、『XML Converter Installation and Administration Guide』を参照してください。

- ❖ **Digital Asset Manager:** 必要に応じて組織内のユーザーがダウンロードできるように、指定のフォーマットとサイズでイメージおよびビデオを定義して提供できます。これは、組織がブランディングやデジタル・コンテンツ使用に関して一貫性のある基準を管理するために役立ちます。

Digital Asset Manager は、イメージまたはビデオが Content Server にチェックインされると、デジタル・アセットの複数のフォーマットを自動的に作成し、1つのコンテンツ ID を使用してそれらのフォーマットをリストします。これにより、企業ロゴやプロモーション・ビデオといったアセットが、組織で求められる複数のフォーマットにおいても標準のサイズや品質を保つことができますようになります。同時に、Content Server のコンテンツ管理やワークフロー機能も提供されます。デジタル・アセットを検索して使用する必要がある組織内のユーザーは、Digital Asset Manager により、承認されたアセットとフォーマットを必要に応じて確実に使用できるようになります。たとえば、あるユーザーは、Web サイトで使用するためにロゴのイメージをバンドルしてダウンロードでき、別のユーザーは、オフィスでのプレゼンテーションや印刷資料のために同じロゴをダウンロードしてバンドルできます。いずれも、Content Server にチェックインされた1つのデジタル・アセットが使用されます。

デジタル・アセットは貴重な電子イメージおよびビデオであり、組織内で複数の出力形式で利用できます。各出力形式はレンディションと呼ばれます。レンディションの数とタイプは、システム管理者によってレンディション・セットに定義されます。ユーザーは、デジタル・アセットが Content Server にチェックインされるたびに、アセットのレンディション作成に使用されるレンディション・セットを選択します。



注意: Digital Asset Manager で変換できるファイル・フォーマットの詳細は、『Digital Asset Manager インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

INBOUND REFINERY のインストールと設定の概要

次に、10g リリース 3 のリファイナリをインストールし、コンテンツ・サーバーのためのファイル変換を開始するために必要な基本手順の概要を示します。

1. リファイナリをインストールします。詳細は、『[Inbound Refinery インストール・ガイド](#)』を参照してください。
 - ❖ インストール時には、リファイナリをプロバイダとして同じコンピュータ上のコンテンツ・サーバーに追加する（コンテンツ・サーバーがリファイナリの認証を管理する）かどうかを選択できます。
 - ❖ インストール後に、同じコンピュータまたは別のコンピュータのコンテンツ・サーバーに、プロバイダとしてリファイナリを追加することもできます。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。
 - ❖ インストール時に、リファイナリ用の管理サーバーをインストールできます。または、同じコンピュータ上の既存の管理サーバーにリファイナリを追加できます。
 - ❖ インストール後に、既存の管理サーバーにリファイナリを追加することもできます。詳細は、4-10 ページの「[管理サーバーへのリファイナリの追加](#)」を参照してください。
2. インストール・ログ・ファイルを調べます。詳細は、『[Inbound Refinery インストール・ガイド](#)』を参照してください。
3. リファイナリをプロバイダとして設定する各コンテンツ・サーバーに `InboundRefinerySupport` コンポーネントをインストールします。詳細は、『[Inbound Refinery インストール・ガイド](#)』を参照してください。
4. リファイナリのインストールで選択した Web サーバーとインストール・タイプによっては、リファイナリで使用できるように Web サーバーを設定および構成するためにいくつかのタスクを実行する必要があります。詳細は、『[Inbound Refinery インストール・ガイド](#)』を参照してください。
5. 既存の 10g リリース 3 リファイナリを、最新バージョンの 10g リリース 3 ビルドに定期的に更新することをお勧めします。詳細は、『[Inbound Refinery インストール・ガイド](#)』を参照してください。
6. リファイナリをインストールしたら、各コンテンツ・サーバーが変換ジョブをリファイナリに送信するように構成する必要があります。詳細は、[第 6 章「ジョブをリファイナリに送信するためのコンテンツ・サーバーの構成」](#)を参照してください。
7. リファイナリをインストールしたら、変換ジョブを受け取るようにリファイナリを構成し、変換設定を構成する必要があります。詳細は、[第 7 章「リファイナリの変換設定の構成」](#)を参照してください。

INBOUND REFINERY プロセスの概要

Inbound Refinery は、ファイル変換を管理してサムネイル作成機能を提供する変換サーバーです。Inbound Refinery は Content Server のプロバイダとして機能することもできます。

リファイナリは、コンテンツ・サーバーに対するプロバイダとして設定されます。ファイルがコンテンツ・サーバーにチェックインされると、ネイティブ・ファイルのコピーが vault ディレクトリ（ネイティブ・ファイル・リポジトリ）に格納されます。ネイティブ・ファイルは、ファイルが最初に作成されたときのフォーマットです（たとえば、Microsoft Word）。

ファイル・フォーマットが変換されるように設定されていない場合は、ネイティブ・ファイルのコピー、またはネイティブ・ボールド・ファイルを指す HCST ファイルを weblayout ディレクトリ（Web 表示可能ファイル・リポジトリ）に配置するようにコンテンツ・サーバーを構成できます。つまり、ファイルは通過してネイティブ・フォーマットのままライブラリに入ります。このとき、ユーザーがそのファイルを見るためには、ネイティブ・ファイルを開くことができるアプリケーションがコンピュータにインストールされている必要があります。

ファイル・フォーマットが変換されるように設定されている場合は、コンテンツ・サーバーは変換前キューに変換ジョブを作成します。次に、コンテンツ・サーバーは、アクティブなりファイナリ・プロバイダ（変換を受け入れるように構成されている、ビジー状態ではないリファイナリ）のいずれかに変換ジョブを配信しようとしています。コンテンツ・サーバーは変換パラメータをアクティブなりファイナリに送信します。リファイナリがジョブを受け入れない場合、コンテンツ・サーバーは、使用可能な次のリファイナリに対して試行します。リファイナリがジョブを受け入れると、コンテンツ・サーバーは、変換データと変換対象ファイルを含む ZIP ファイルをリファイナリにアップロードします。また、コンテンツ・サーバーは、変換ジョブの追跡に使用するエントリを RefineryJobs 表に入れます。リファイナリは、変換ジョブを変換前キューに入れます。

次に、リファイナリは、指定された変換を実行しようとしています。必要であれば、適切な変換アドオンをコールします。変換ジョブの処理を終了すると、変換ジョブを変換後キューに入れます。コンテンツ・サーバーはリファイナリを定期的にポーリングして、RefineryJobs 表の変換ジョブが完了したかどうかを確認します。リファイナリが変換ジョブの処理を完了したことを報告すると、コンテンツ・サーバーは変換済ファイル（たとえば、Web 表示可能なサムネイル・ファイルや PDF ファイル）をリファイナリからダウンロードし、変換ジョブを変換後キューに入れ、必要であれば変換後機能を起動します。

変換が正常に行われると、コンテンツ・サーバーのユーザーが、Web ブラウザを介して変換済ファイル（たとえば、Web 表示可能なサムネイル・ファイルと PDF ファイル）を使用できるようになります。変換が失敗した場合にネイティブ・ファイルのコピーを weblayout ディレクトリに配置するようにコンテンツ・サーバーを構成できます。この場合も、ユーザーがそのファイルを表示するには、ネイティブ・ファイルを開くことができるアプリケーションがコンピュータにインストールされている必要があります。

4

リファイナリの起動と停止

概要

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [Windows サービスとしてのリファイナリの起動、停止および再起動](#) (4-2 ページ)
- ❖ [Windows アプリケーションとしてのリファイナリの起動と停止](#) (4-4 ページ)
- ❖ [UNIX でのリファイナリの起動と停止](#) (4-5 ページ)
- ❖ [リファイナリへのログオン](#) (4-6 ページ)
- ❖ [管理サーバーの使用によるリファイナリの起動と停止](#) (4-7 ページ)

WINDOWS サービスとしてのリファイナリの起動、停止および再起動

リファイナリを Windows にインストールしたときは、リファイナリを実行するサービスをインストールできます。サービスとしては、自動または手動での起動、特定のユーザーとしての実行、および別のサービスへの依存を構成できます。このような Windows サービスを使用してリファイナリを起動、停止および再起動するには、次のようにします。



注意: リファイナリをすでに Windows アプリケーションとして実行している場合、Windows サービスとして起動することはできません。

1. Windows の「コントロールパネル」の「サービス」を開きます。
2. リファイナリ・サービス（たとえば、IDC Refinery Service ref1）を起動するには、次のいずれかを実行します。
 - 「サービスの開始」ボタンをクリックします。
 - サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「開始」を選択します。
3. システム起動時にリファイナリ・サービスが自動的に起動するように構成するには、次のようにします。
 - a. サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「プロパティ」を選択します。
 - b. 「スタートアップの種類」ドロップダウン・メニューで「自動」を選択します。
 - c. 「OK」をクリックして変更を保存します。
4. リファイナリ・サービスを再起動するには、次のいずれかを実行します。
 - 「サービスの再起動」ボタンをクリックします。
 - サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「再起動」を選択します。
5. リファイナリ・サービスを停止するには、次のいずれかを実行します。
 - 「サービスの停止」ボタンをクリックします。
 - サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「停止」を選択します。
6. リファイナリ、すべての変換アドオン、および必要なすべてのサード・パーティ・アプリケーションのインストールに使用したのと同じユーザーとして、リファイナリ・サービスを実行するように構成することをお勧めします。特定のユーザーとして実行するようにリファイナリ・サービスを構成するには、次のようにします。
 - a. サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「プロパティ」を選択します。
 - b. 「ログオン」タブを選択します。

- c. ユーザー・アカウントとパスワードを入力します。ユーザー・アカウントの構文を正しく指定してください。ドメイン・ユーザーの構文は、`username: [domain]¥[username]` です。ローカル・ユーザーの構文は、`username=¥[username]` です。
- d. 「OK」をクリックして変更を保存します。
- e. リファイナリ・サービスを再起動します。



重要: PDF Converter を使用し、Inbound Refinery をサービスとして実行するときには、重要な制約があります。PDF Converter でサポートされるすべてのサード・パーティ・アプリケーションが、サービスによって起動できるわけではありません。また、サード・パーティ・アプリケーションによっては、Inbound Refinery をサービスとして実行している場合でも、常に Windows にログインする必要があります。Inbound Refinery をアプリケーションとして実行するかサービスとして実行するかを決定する前に、PDF Converter と一緒に使用するサード・パーティ・アプリケーションを特定する必要があります。PDF Converter でサポートされるサード・パーティ・アプリケーションのリストや、Inbound Refinery をサービスとして実行しているときのサード・パーティ・アプリケーションの使用方法は、『PDF Converter インストレーションおよび管理ガイド』を参照してください。

WINDOWS アプリケーションとしてのリファイナリの起動と停止

リファイナリをアプリケーションとして起動するには、次のいずれかの方法を使用します。



注意: リファイナリをすでに Windows サービスとして実行している場合、Windows アプリケーションとして起動することはできません。

- ❖ リファイナリをアプリケーションとして Windows 「スタート」メニューから起動するには、「スタート」→「プログラム」→「Stellent Content Server」→「[Refinery_Instance_Name]」→「Inbound Refinery」を選択します。コンソール・ウィンドウが開いて、状態情報が表示されます。
- ❖ リファイナリをアプリケーションとして Windows コマンドラインから起動するには、次のようにします。
 - a. コマンドライン・ウィンドウ（コンソール）を開き、次のディレクトリに移動します。

```
<refinery_install_dir>%bin%
```
 - b. 次の実行可能ファイルを起動して、リファイナリを起動します。

```
IdcRefinery.exe
```

リファイナリが起動します。コンソール・ウィンドウはそのまま、状態情報が表示されます。



技術ヒント: コンソールにデバッグ情報を表示する場合は、`IdcRefinery.exe -console -debug` のようにフラグ（パラメータ）を指定して実行可能ファイルを起動し、リファイナリを起動します。

アプリケーションとして実行しているリファイナリを停止するには、リファイナリのコンソール・ウィンドウを閉じます。

UNIX でのリファイナリの起動と停止

次の UNIX コマンドを使用すると、システムにログインせずにリファイナリの起動、停止および再起動を行うことができます。

❖ **idcserver_query**

このコマンドは、リファイナリの状態を調べて、実行しているかどうかを判別します。これは、リファイナリ・インストール・ディレクトリの /etc サブディレクトリにあります。

❖ **idcserver_start**

このコマンドはリファイナリをバックグラウンドで起動します。これは、リファイナリ・インストール・ディレクトリの /etc サブディレクトリにあります。

❖ **idcserver_ctrl**

これは、rc ファイルとして使用できるスクリプト・ファイルです。システムの起動時にリファイナリを自動的に起動するための指示が含まれています。これは、リファイナリ・インストール・ディレクトリの /etc サブディレクトリにあります。

❖ **idcserver_stop**

このコマンドは、idcserver_start で起動されたリファイナリを停止します。これは、リファイナリ・インストール・ディレクトリの /etc サブディレクトリにあります。

❖ **idcserver_restart**

このコマンドは、idcserver_start で起動されたリファイナリを停止して、再起動します。これは、リファイナリ・インストール・ディレクトリの /etc サブディレクトリにあります。

リファイナリへのログオン

実行しているリファイナリにログオンするには、次のようにします。



重要: インストール時に、既存のローカル・コンテンツ・サーバーに対するプロバイダとしてリファイナリを構成した場合、リファイナリに正常にログオンするためには、**InboundRefinerySupport** コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールする必要があります。

1. Web ブラウザを起動します。
2. **Inbound Refinery** のホームページ (ポータル・ページ) にアクセスします。デフォルトでは、アドレスは `http://[host_name]/[web_root]` (たとえば、`http://server123/ref1/`) です。
3. 「**Login**」をクリックします。
4. ユーザー名とパスワードを入力して、「**OK**」をクリックします。デフォルトは次のとおりです。

リファイナリが自らの認証を管理している場合:

- ユーザー名 : **refadmin**
- パスワード : **idc**

コンテンツ・サーバーがリファイナリの認証を管理している場合:

- ユーザー名 : **sysadmin**
- パスワード : **idc**



注意: **Inbound Refinery** ユーザーの管理の詳細は、9-2 ページの「[ユーザー管理の実行](#)」を参照してください。

管理サーバーの使用によるリファイナリの起動と停止

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [Windows](#) でのサービスとしての管理サーバーの起動、停止および再起動 (4-7 ページ)
- ❖ [Windows](#) でのアプリケーションとしての管理サーバーの起動と停止 (4-8 ページ)
- ❖ [UNIX](#) での管理サーバーの起動と停止 (4-9 ページ)
- ❖ [管理サーバーの使用によるリファイナリの起動、停止および再起動](#) (4-9 ページ)
- ❖ [管理サーバーへのリファイナリの追加](#) (4-10 ページ)

Windows でのサービスとしての管理サーバーの起動、停止および再起動

管理サーバーを使用すると、Content Server または Inbound Refinery の Web ベース・インタフェースを介して、リモートからの HTML ベースでのリファイナリの管理が可能になります。リファイナリを Windows にインストールした場合は、リファイナリを管理する管理サーバーをオプションでインストールできます。また、このリファイナリ・管理サーバーを実行するためにサービスをインストールできます。自動または手動で起動するようにサービスを構成することもできます。

インストール時に、同じコンピュータ上の既存の管理サーバーへのリファイナリの追加を選択することもできます。インストール後に、既存の管理サーバーにリファイナリを追加することもできます。詳細は、4-10 ページの「[管理サーバーへのリファイナリの追加](#)」を参照してください。

Windows サービスを使用して管理サーバーを起動、停止および再起動するには、次のようにします。

1. Windows の「コントロールパネル」の「サービス」を開きます。
2. 管理サーバー・サービス（たとえば、IDC Content Admin Service ref1_admin）を起動するには、次のいずれかを実行します。
 - 「サービスの開始」ボタンをクリックします。
 - サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「開始」を選択します。
3. システム起動時に管理サーバー・サービスが自動的に起動するように構成するには、次のようにします。
 - a. サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「プロパティ」を選択します。
 - b. 「スタートアップの種類」ドロップダウン・メニューで「自動」を選択します。

- c. 「OK」をクリックして変更を保存します。
4. 管理サーバー・サービスを再起動するには、次のいずれかを実行します。
 - 「サービスの再起動」ボタンをクリックします。
 - サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「再起動」を選択します。
5. 管理サーバー・サービスを停止するには、次のいずれかを実行します。
 - 「サービスの停止」ボタンをクリックします。
 - サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「停止」を選択します。
6. リファイナリ、すべての変換アドオン、および必要なすべてのサード・パーティ・アプリケーションのインストールに使用したのと同じユーザーとして、リファイナリ・管理サーバー・サービスを実行するように構成することをお勧めします。特定のユーザーとして実行するようにリファイナリ・サービスを構成するには、次のようにします。
 - a. サービスを右クリックし、ポップアップ・メニューで「プロパティ」を選択します。
 - b. 「ログオン」タブを選択します。
 - c. ユーザー・アカウントとパスワードを入力します。ユーザー・アカウントの構文を正しく指定してください。ドメイン・ユーザーの構文は、`username: [domain]¥[username]` です。ローカル・ユーザーの構文は、`username=¥[username]` です。
 - d. 「OK」をクリックして変更を保存します。
 - e. サービスを再起動します。

Windows でのアプリケーションとしての管理サーバーの起動と停止

管理サーバーをアプリケーションとして Windows コマンドラインから起動するには、次のようにします。

1. コマンドライン・ウィンドウ（コンソール）を開き、次のディレクトリに移動します。
`<content_server_or_refinery_install_dir>¥admin¥bin¥`
2. 次の実行可能ファイルを起動して、管理サーバーを起動します。
`IdcAdmin.exe`
管理サーバーが起動します。コンソール・ウィンドウはそのまま、状態情報が表示されます。



技術ヒント: コンソールにデバッグ情報を表示する場合は、`IdcAdmin.exe -console -debug` のようにフラグ（パラメータ）を指定して実行可能ファイルを起動し、管理サーバーを起動します。

アプリケーションとして実行している管理サーバーを停止するには、管理サーバーのコンソール・ウィンドウを閉じます。

UNIX での管理サーバーの起動と停止

次の UNIX コマンドを使用すると、システムにログインせずに管理サーバーの起動、停止および再起動を行うことができます。

❖ **idcadmin_query**

このコマンドは、管理サーバーの状態を調べて、実行しているかどうかを判別します。これは、コンテンツ・サーバーまたはリファイナリのインストール・ディレクトリの `admin/etc` サブディレクトリにあります。

❖ **idcadmin_start**

このコマンドは、管理サーバーを起動します。管理サーバーを使用すると、システム上のリファイナリをリモートから HTML ベースで管理することができます。これは、コンテンツ・サーバーまたはリファイナリのインストール・ディレクトリの `admin/etc` サブディレクトリにあります。

❖ **idcadmin_ctrl**

これは、`rc` ファイルとして使用できるスクリプト・ファイルです。システムの起動時に管理サーバーを自動的に起動するための指示が含まれています。これは、コンテンツ・サーバーまたはリファイナリのインストール・ディレクトリの `admin/etc` サブディレクトリにあります。

❖ **idcadmin_stop**

このコマンドは、`idcadmin_start` で起動された管理サーバーを停止します。これは、コンテンツ・サーバーまたはリファイナリのインストール・ディレクトリの `admin/etc` サブディレクトリにあります。

❖ **idcadmin_restart**

このコマンドは、`idcadmin_start` で起動された管理サーバーを停止して、再起動します。これは、コンテンツ・サーバーまたはリファイナリのインストール・ディレクトリの `admin/etc` サブディレクトリにあります。

管理サーバーの使用によるリファイナリの起動、停止および再起動

管理サーバーを使用し、リモートから Web ベース・インタフェースでリファイナリを起動、停止および再起動するには、次のようにします。

1. 管理サーバーが実行中であることを確認します。詳細は、次の項を参照してください。
 - [Windows でのサービスとしての管理サーバーの起動、停止および再起動](#) (4-7 ページ)

- [Windows でのアプリケーションとしての管理サーバーの起動と停止](#) (4-8 ページ)
 - [UNIX での管理サーバーの起動と停止](#) (4-9 ページ) .
2. 管理サーバーがインストールされているコンテンツ・サーバーまたはリファイナリにログオンしており、十分な管理者権限があることを確認します。詳細は、4-6 ページの「[リファイナリへのログオン](#)」を参照してください。
 3. 「Administration」ページに移動して、「Admin Server」をクリックします。
 4. 使用可能なすべてのリファイナリが表示されます。
 - リファイナリを起動するには、対象の起動ボタンをクリックします。
 - リファイナリを再起動するには、対象の再起動ボタンをクリックします。
 - リファイナリを停止するには、対象の停止ボタンをクリックします。



注意: 管理サーバーを介してリファイナリにアクセスするには `sysmanager` ロールが必要です。

管理サーバーへのリファイナリの追加

インストール時に、リファイナリの管理サーバーをインストールできます。または、同じコンピュータ上の既存の管理サーバーにリファイナリを追加できます。インストール後にリファイナリを既存の管理サーバーに追加するには、次のようにします。

1. 追加するリファイナリのインストール・ディレクトリに、ローカル・ファイル・システムからアクセスできることを確認します。
2. 既存の管理サーバーを起動します。
3. 「Add Existing Server」をクリックします。
4. 「Other Server (Refinery or Other Agent)」を選択します。
5. 「Submit」をクリックします。
6. 追加するリファイナリのインストール・ディレクトリのフルパスを入力します。
7. ファイル・エンコーディングが正しいことを確認します。
8. 「Next」をクリックします。
9. リファイナリの構成を必要に応じて変更します。通常は、「Description」（および、場合によっては「Allowed Actions」）以外の設定を変更する必要はありません。
10. 「Finish」をクリックします。リファイナリに対応するボタンが、管理サーバーのホームページに表示されます。

5

CONTENT SERVER とリファイナリの の通信の構成

概要

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [Content Server とリファイナリの構成のシナリオ](#) (5-2 ページ)
- ❖ [リファイナリ・プロバイダの構成](#) (5-9 ページ)
- ❖ [コンテンツ・サーバーの IP セキュリティ・フィルタの編集](#) (5-18 ページ)

CONTENT SERVER とリファイナリの構成のシナリオ

Inbound Refinery は、Content Server によって管理されるコンテンツを変換するために使用できます。Inbound Refinery は、Content Server と同じコンピュータまたは1つ以上の別のコンピュータにインストールできます。

インストール時には、リファイナリをプロバイダとして同じコンピュータ上のコンテンツ・サーバーに追加する（コンテンツ・サーバーがリファイナリの認証を管理する）かどうかを選択できます。インストール後に、同じコンピュータまたは別のコンピュータのコンテンツ・サーバーに、プロバイダとしてリファイナリを追加することもできます。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。

様々な構成が可能ですが、リファイナリ環境を設定するときは次の一般的なルールに注意してください。

- ❑ 毎日大量のコンテンツ・アイテムを処理する予定がある場合は、Inbound Refinery を Content Server と同じコンピュータで実行しないでください。
- ❑ 特化しているリファイナリ・システムほど、コンテンツの処理が速くなります。コンテンツ・サーバー・インスタンスよりもリファイナリ・システムの数が多いと、最適な速度が実現できます。コンテンツ・サーバー・インスタンスよりもリファイナリ・システムの数が少ないと、多数のファイルを変換する必要がある場合にパフォーマンスが低下することがあります。
- ❑ 通常、同じコンピュータに複数のリファイナリを配置する理由はありません。1つのリファイナリを、複数のコンテンツ・サーバーのプロバイダとして使用することもできます。1つのシステムに複数のリファイナリを配置しても、それらのリファイナリでシステムのリソースが共有されるため、通常、パフォーマンスは改善されません。これは、変換時に使用されるサード・パーティ・アプリケーションも含まれます。パフォーマンスを改善するには、一般的にはリファイナリごとに別のコンピュータを使用する必要があります。
- ❑ 一部のファイル・タイプまたは大規模ファイル（あるいは両方）は、処理のために平均よりもかなり長い時間がかかります。処理するファイルにこのようなタイプが多く含まれる場合は、それらのファイル・タイプだけを処理するために別のシステムにリファイナリを設定することを検討してください。これには複数のリファイナリ・システムが必要ですが、最適な変換速度とパフォーマンスが得られます。

一般的なシナリオを次に示します。



注意: この項で説明するシナリオ以外のリファイナリ構成も使用できます。特定のコンテンツ管理アプリケーションでは、独特なリファイナリ設定が必要になる場合があります。そのような設定は、この項で説明するシナリオと一致するとはかぎりません。

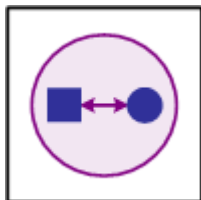
- ❖ **シナリオ A** (5-4 ページ)
1つのコンテンツ・サーバーと1つのリファイナリ (同一のコンピュータ)
- ❖ **シナリオ B** (5-5 ページ)
複数のコンテンツ・サーバーと1つのリファイナリ (同一のコンピュータ)
- ❖ **シナリオ C** (5-6 ページ)
複数のコンテンツ・サーバーと1つのリファイナリ (個別のコンピュータ)
- ❖ **シナリオ D** (5-7 ページ)
コンテンツ・サーバー1つにつき1つのリファイナリ (個別のコンピュータ)
- ❖ **シナリオ E** (5-8 ページ)
コンテンツ・サーバー1つにつき複数のリファイナリ (個別のコンピュータ)

これらのシナリオについて、それぞれの利点や注意事項も含めて、次の項で詳しく説明します。

図 5-1 リファイナリ構成シナリオの主要要素



シナリオ A



これは最も基本的なシナリオです。
同一コンピュータ上の1つのコンテンツ・サーバーと1つのリファイナリで構成されます。

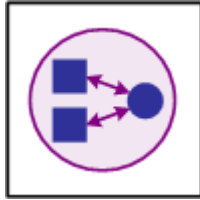
利点

- ❖ 最も低コストで容易に構成できます。
- ❖ リファイナリ変換に必要なサード・パーティ・アプリケーションは、1コピーしか購入する必要がありません。

注意事項

- ❖ 変換の数と速度が制限されます。
- ❖ リファイナリをコンテンツ・サーバー・コンピュータにインストールしないシナリオに比べて性能が低くなります。コンテンツ・サーバー・コンピュータ上でのリファイナリ処理により、Webサイトの検索やアクセスが遅くなるためです（同様に、検索やアクセスのためにリファイナリ処理が遅くなることもあります）。ファイルのタイプとサイズによって異なりますが、変換には数秒から数分かかることがあります。
- ❖ 一般的に、この構成ではリファイナリのインストール時に次の選択を行う必要があります。
 - リファイナリをコンテンツ・サーバーのプロバイダとして構成すること（コンテンツ・サーバーがリファイナリの認証を管理する）。
 - リファイナリをコンテンツ・サーバーの管理サーバーに追加すること。

シナリオ B



このシナリオは、同一コンピュータ上の複数のコンテンツ・サーバーと1つのリファイナリで構成されます。

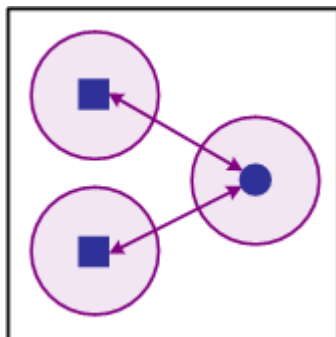
利点

- ❖ リファイナリ変換に必要なサード・パーティ・アプリケーションは、1コピーしか購入する必要がありません。

注意事項

- ❖ 変換の数と速度が制限されます。
- ❖ リファイナリをコンテンツ・サーバー・コンピュータにインストールしないシナリオに比べて性能が低くなります。コンテンツ・サーバー・コンピュータ上でのリファイナリ処理により、Webサイトの検索やアクセスが遅くなるためです（同様に、検索やアクセスのためにリファイナリ処理が遅くなることもあります）。ファイルのタイプとサイズによって異なりますが、変換には数秒から数分かかることがあります。
- ❖ 一般的に、この構成ではリファイナリのインストール時に次の選択を行う必要があります。
 - リファイナリをいずれかのコンテンツ・サーバーのプロバイダとして構成すること（そのコンテンツ・サーバーがリファイナリの認証を管理する）。インストール後に、その他のコンテンツ・サーバーにリファイナリをプロバイダとして追加する必要があります。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。
 - リファイナリを、同じコンピュータ上の既存の管理サーバーに追加すること。

シナリオ C



このシナリオは、個別のコンピュータ上の複数のコンテンツ・サーバーと1つのリファイナリで構成されます。

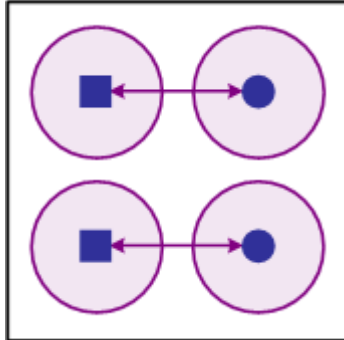
利点

- ❖ リファイナリ変換に必要なサード・パーティ・アプリケーションは、1コピーしか購入する必要がありません。
- ❖ リファイナリをコンテンツ・サーバーと同じコンピュータにインストールする場合よりも、処理速度が速くなります。
- ❖ リファイナリの処理が、コンテンツ・サーバーによる Web サイトの検索やアクセスに影響しません（同様に、コンテンツ・サーバーの検索やアクセスによってリファイナリの処理が影響を受けることもありません）。

注意事項

- ❖ コンテンツ・サーバー1つにつき少なくとも1つのリファイナリがあるシナリオに比べると、性能は低くなります。
- ❖ 一般的に、この構成ではリファイナリのインストール時に次の選択を行う必要があります。
 - インストール時にリファイナリをプロバイダとして構成しないこと。インストール後に、リファイナリをプロバイダとして各コンテンツ・サーバーに追加する必要があります。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。
 - リファイナリを独自の管理サーバーと一緒にインストールすること。

シナリオ D



このシナリオでは、コンテンツ・サーバー1つにつき1つのリファイナリが個別のコンピュータに配置されます。

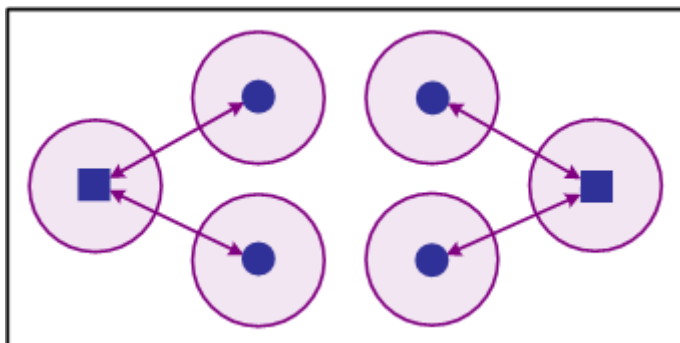
利点

- ❖ 大容量のコンテンツや大きなファイル・サイズの処理が速くなります。
- ❖ リファイナリの処理が、コンテンツ・サーバーによる Web サイトの検索やアクセスに影響しません（同様に、コンテンツ・サーバーの検索やアクセスによってリファイナリの処理が影響を受けることもありません）。

注意事項

- ❖ 各リファイナリ・コンピュータで、変換に必要なすべてのサード・パーティ・アプリケーションが1コピーずつ必要になります。
- ❖ 一般的に、この構成ではリファイナリのインストール時に次の選択を行う必要があります。
 - インストール時にリファイナリをプロバイダとして構成しないこと。インストール後に、各リファイナリをプロバイダとして各コンテンツ・サーバーに追加する必要があります。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。
 - 各リファイナリを独自の管理サーバーと一緒にインストールすること。

シナリオ E



このシナリオでは、コンテンツ・サーバー1つにつき複数のリファイナリが個別のコンピュータに配置されます。

利点

- ❖ 大容量のコンテンツや大きなファイル・サイズで最速の処理が実現します。
- ❖ リファイナリの処理が、コンテンツ・サーバーによる Web サイトの検索やアクセスに影響しません（同様に、コンテンツ・サーバーの検索やアクセスによってリファイナリの処理が影響を受けることもありません）。

注意事項

- ❖ 各リファイナリ・コンピュータで、変換に必要なすべてのサード・パーティ・アプリケーションが1コピーずつ必要になります。
- ❖ 一般的に、この構成ではリファイナリのインストール時に次の選択を行う必要があります。
 - インストール時にリファイナリをプロバイダとして構成しないこと。インストール後に、各リファイナリをプロバイダとして各コンテンツ・サーバーに追加する必要があります。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。
 - 各リファイナリを独自の管理サーバーと一緒にインストールすること。

リファイナリ・プロバイダの構成

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [コンテンツ・サーバーとリファイナリ・プロバイダについて](#)

タスク

- ❖ [リファイナリ・プロバイダの追加](#)
- ❖ [リファイナリ・プロバイダの編集](#)
- ❖ [リファイナリ・プロバイダの無効化および有効化](#)
- ❖ [リファイナリ・プロバイダの削除](#)

インタフェース

- ❖ [「Providers」 ページ](#)
- ❖ [「Add Outgoing Provider」 または 「Edit Outgoing Provider」 ページ](#)
- ❖ [「Provider Information」 ページ](#)

コンテンツ・サーバーとリファイナリ・プロバイダについて

コンテンツ・サーバーは、プロバイダを介してリファイナリと通信します。1つのリファイナリが、1つ以上のコンテンツ・サーバーのプロバイダとして機能することもできます。一般的な構成の詳細は、5-2 ページの「[Content Server とリファイナリの構成のシナリオ](#)」を参照してください。

リファイナリのインストール時には、リファイナリをプロバイダとして同じコンピュータ上のコンテンツ・サーバーに追加するかどうかを選択できます（このコンテンツ・サーバーがリファイナリの認証を管理します）。インストール後に、同じコンピュータまたは別のコンピュータのコンテンツ・サーバーに、プロバイダとしてリファイナリを追加することもできます。

リファインリ・プロバイダの追加

リファインリをプロバイダとしてコンテンツ・サーバーに追加するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. 「Administration」 → 「Providers」 を選択します。「Providers」 ページが表示されます。
3. 「outgoing」 プロバイダ・タイプの「Action」列で「Add」をクリックします。「Add Outgoing Provider」または「Edit Outgoing Provider」 ページが表示されます。
4. 次のフィールドを設定します。
 - **Provider Name** (必須) : リファインリ・プロバイダの名前。これは、`<content_server_install_dir>/data/providers` ディレクトリのサブディレクトリになります。
 - **Provider Description** (必須) : プロバイダのわかりやすい説明。
 - **Provider Class** (必須) : プロバイダの Java クラスの名前。デフォルトは `intradoc.provider.SocketOutgoingProvider` クラスです。
 - **Connection Class**: 設定不要。
 - 「**Configuration Class**」 : 設定不要。
 - **Server Host Name** (必須) : リファインリのホスト名 (IDC_Name)。
 - **HTTP Server Address**: リファインリの HTTP サーバー・アドレス。リファインリがコンテンツ・サーバーと同じコンピュータにある場合は必要ありません。
 - **Server Port** (必須) : リファインリ・プロバイダが通信するポート。デフォルトのリファインリ・ポートは 5555 です。
 - **Instance Name** (必須) : リファインリのインスタンス名。たとえば、`ref2` です。
 - **Relative Web Root** (必須) : リファインリの相対 Web ルート。たとえば、`/ref2/` です。
5. コンテンツ・サーバーでリファインリの認証を管理する場合は、「Proxied」チェック・ボックスを選択します (リファインリがコンテンツ・サーバーのユーザー・ベースを共有します)。詳細は、9-3 ページの「[リファインリの認証およびユーザーの管理](#)」を参照してください。
6. 「Handles Inbound Refinery Conversion Jobs」チェック・ボックスを選択します。
7. 「Inbound Refinery Read Only Mode」チェック・ボックスを選択解除します。このチェック・ボックスを選択するのは、コンテンツ・サーバーが新しい変換ジョブをリファインリに送信しないようにする場合のみです。
8. 必要であれば、コンテンツ・サーバーの変換前キューに格納できる最大ジョブ数を変更できます。デフォルトのジョブ数は 100 です。

9. 「**Add**」をクリックします。「**Providers**」ページが表示されます。新しいリファイナリ・プロバイダが「**Providers**」表に追加されています。
10. コンテンツ・サーバーを再起動します。

リファイナリ・プロバイダの編集

既存のリファイナリ・プロバイダの情報を編集するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. 「**Administration**」 → 「**Providers**」を選択します。「**Providers**」ページが表示されます。
3. 「**Providers**」表で、編集するリファイナリ・プロバイダに対応する「**Action**」列の「**Info**」をクリックします。「**Provider Information**」ページが表示されます。
4. 「**Edit**」をクリックします。「**Add Outgoing Provider**」または「**Edit Outgoing Provider**」ページが表示されます。
5. 必要な変更を行います。
6. 「**Update**」をクリックして変更内容を保存し、「**Providers**」ページに戻ります。
7. コンテンツ・サーバーを再起動します。

リファイナリ・プロバイダの無効化および有効化

既存のリファイナリ・プロバイダを無効化または有効化するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. 「**Administration**」 → 「**Providers**」を選択します。「**Providers**」ページが表示されます。
3. 「**Providers**」表で、無効化または有効化するリファイナリ・プロバイダに対応する、「**Action**」列の「**Info**」をクリックします。「**Provider Information**」ページが表示されます。
4. 「**Disable**」または「**Enable**」をクリックします。
5. コンテンツ・サーバーを再起動します。

リファイナリ・プロバイダの削除

既存のリファイナリ・プロバイダを削除するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. 「Administration」 → 「Providers」 を選択します。「Providers」 ページが表示されます。
3. 「Providers」 表で、削除するリファイナリ・プロバイダに対応する、「Action」 列の「Info」 をクリックします。「Provider Information」 ページが表示されます。
4. 「Delete」 をクリックします。確認メッセージが表示されます。
5. 「OK」 をクリックします。

「Providers」 ページ

Providers					
Provider	Description	Type	Connection State	Last Activity Date	Action
SystemDatabase	System Database	database	15 out of 15 connections	3/10/07 4:24 PM	Info Test
SystemServerSocket	System Server Socket	incoming	good	3/10/07 4:24 PM	Info Test
ref1	Connection to Inbound Refinery	outgoing	good	3/10/07 4:24 PM	Info Test
DefaultFileStore	Default File Store Provider	FileStore	good		Test

Create a New Provider		
Provider Type	Description	Action
outgoing	Configuring an outgoing provider.	Add
database	Configuring a database provider.	Add
incoming	Configuring an incoming provider.	Add
preview	Configuring a preview provider.	Add
ldapuser	Configuring an LDAP user provider.	Add

このページにアクセスするには、コンテンツ・サーバーの「Administration」メニューで「Providers」を選択します。「Providers」ページでは、コンテンツ・サーバーのプロバイダを表示、追加および編集することができます。

機能	説明
「Providers」表	
「Provider」列	外部エンティティへの接続を確立するプロバイダの名前。
「Description」列	プロバイダの説明。
「Type」列	プロバイダのタイプ。
「Connection State」列	次の状態があります。 <ul style="list-style-type: none"> • misconfigured • good • down • requires restart
「Last Activity Date」列	プロバイダが最後にアクティブになっていた日時。
「Actions」列	「Info」リンクをクリックすると、プロバイダの「Provider Information」ページが表示されます。 「Test」リンクをクリックすると、そのプロバイダの「Connection State」列と「Last Activity Date」列がリフレッシュされます。
「Create a New Provider」表	
「Provider Type」列	プロバイダのタイプ。
「Description」列	プロバイダ・タイプの説明。
「Action」列	「outgoing」プロバイダ・タイプの「Add」リンクをクリックすると、「Add Outgoing Provider」または「Edit Outgoing Provider」ページが表示されます。

「Add Outgoing Provider」 または 「Edit Outgoing Provider」 ページ

Edit Outgoing Provider

Provider Name
Provider Description

Provider Class
Connection Class
Configuration Class

Server Host Name
HTTP Server Address
Server Port
Instance Name
Relative Web Root

Server Options:

- Proxied**
Web access and security of a remote server is controlled by this server. Only enable this option if you are the master server in a master and proxied server relationship. Do **not** enable this option if you only wish to transfer archives.
- Notify Target**
Use this option if you are the proxied server in a master and proxied server relationship. The *Users* subject gives the master server's web server access to the security configuration of this server and guarantees that its copy is kept up to date. It should be checked if you wish static content on the proxied server to be directly available through the master server's web server. The *Released Documents* subject should be checked if you wish to perform an enterprise search from the master server which includes this proxied server.

Users Released Documents

Search Options: **Enterprise Searchable**
Required Roles:
Account Filter:

Conversion Options

- Handles Inbound Refinery Conversion Jobs**
Use this option *only* if this provider is an Inbound Refinery.
- Inbound Refinery Read Only Mode**
Use this option to prevent this Content Server from send new conversion jobs to this Inbound Refinery. Note that this Inbound Refinery will continue to return conversion jobs as the jobs are finished.

Enter the number of jobs allowed in the pre-converted queue.

このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ 「Providers」 ページで「outgoing」プロバイダ・タイプに対応する「Action」列の「Add」をクリックします。
- ❖ 「Providers」 ページでリファイナリ・プロバイダに対応する「Action」列の「Info」をクリックし、「Provider Information」ページの「Edit」をクリックします。

「Add Outgoing Provider」または「Edit Outgoing Provider」ページでは、プロバイダとしてのリファイナリのコンテンツ・サーバーへの追加や、既存リファイナリ・プロバイダの情報の編集を行うことができます。

機能	説明
「Provider Name」フィールド (必須)	プロバイダの名前。これは、 <code><install_dir>/data/providers</code> ディレクトリのサブディレクトリになります。
「Provider Description」フィールド (必須)	プロバイダのわかりやすい説明。
「Provider Class」フィールド (必須)	プロバイダの Java クラスの名前。デフォルトは、 <code>intradoc.provider.SocketOutgoingProvider</code> クラスです。
「Connection Class」フィールド	設定不要。
「Configuration Class」フィールド	設定不要。
「Server Host Name」フィールド (必須)	リファイナリのホスト名 (IDC_Name)。
「HTTP Server Address」フィールド	リファイナリの HTTP サーバー・アドレス。リファイナリがコンテンツ・サーバーと同じコンピュータにある場合は必要ありません。
「Server Port」フィールド (必須)	リファイナリ・プロバイダが通信するポート。デフォルトのリファイナリ・ポートは、5555 です。
「Instance Name」フィールド (必須)	リファイナリのインスタンス名。たとえば、 <code>ref2</code> です。
「Relative Web Root」フィールド (必須)	リファイナリの相対 Web ルート。たとえば、 <code>/ref2/</code> です。

機能	説明
「Proxied」チェック・ボックス (オプション)	コンテンツ・サーバーでリファインリの認証を管理する場合は、このチェック・ボックスを選択します (リファインリがコンテンツ・サーバーのユーザー・ベースを共有します)。詳細は、9-3 ページの「 リファインリの認証およびユーザーの管理 」を参照してください。
「Notify Target」チェック・ボックス	選択解除します。リファインリ・プロバイダでは使用しません。
「Users」チェック・ボックス	選択解除します。リファインリ・プロバイダでは使用しません。
「Released Documents」チェック・ボックス	選択解除します。リファインリ・プロバイダでは使用しません。
「Search Options」チェック・ボックス	選択解除します。リファインリ・プロバイダでは使用しません。
「Required Roles」フィールド	選択解除します。リファインリ・プロバイダでは使用しません。
「Account Filter」フィールド	選択解除します。リファインリ・プロバイダでは使用しません。
「Handles Inbound Refinery Conversion Jobs」チェック・ボックス	コンテンツ・サーバーに対してリファインリ・プロバイダを作成するときはこのチェック・ボックスを選択します。
「Inbound Refinery Read Only Mode」チェック・ボックス	このチェック・ボックスを選択するのは、コンテンツ・サーバーが新しい変換ジョブをリファインリに送信しないようにする場合のみです。デフォルトでは、このチェック・ボックスは選択解除されています。
「Number of jobs allowed in the pre-converted queue」フィールド	必要であれば、コンテンツ・サーバーの変換前キューに格納できる最大ジョブ数を変更できます。デフォルトのジョブ数は、100 です。
「Add」ボタン	新しいリファインリ・プロバイダを追加します。
「Update」ボタン	リファインリ・プロバイダを更新するときに変更内容を保存します。
「Reset」ボタン	「Add Outgoing Provider」または「Edit Outgoing Provider」ページを最後に保存された設定にリセットします。

「Provider Information」 ページ

Outgoing Provider Information for ref2

Provider Name: ref2
Provider Description: Connection to Inbound Refinery 'ref2'.
Connection State: good
Last Activity Date: 12/5/06 12:29 PM

Provider Type: outgoing
Provider Class: intradoc.provider.SocketOutgoingProvider
Provider Connection:

Instance Name: ref2
Server Options: Proxied Server
Server Host Name: jmarshalpc
HTTP Server Address:
Server Port: 5555
Relative Web Root: /ref2/
Notified Subjects
Last Request Date:

Conversion Options: Handles Inbound Refinery Conversion Jobs
Refinery read-only mode: FALSE
Maximum Jobs to Queue: 100

このページにアクセスするには、「Providers」 ページでリファイナリ・プロバイダに対応する「Actions」列の「Info」をクリックします。「Add Outgoing Provider」または「Edit Outgoing Provider」 ページでは、プロバイダとしてのリファイナリのコンテンツ・サーバーへの追加や、既存リファイナリ・プロバイダの情報の編集を行うことができます。

機能	説明
情報フィールド	プロバイダの情報が表示されます。各フィールドの詳細は、 「Add Outgoing Provider」 または 「Edit Outgoing Provider」 ページを参照してください。
「Edit」 ボタン	「Add Outgoing Provider」 または 「Edit Outgoing Provider」 ページを表示します。
「Disable」 ボタンまたは「Enable」 ボタン	プロバイダを無効化または有効化します。プロバイダを無効化または有効化した後は、コンテンツ・サーバーを再起動する必要があります。
「Delete」 ボタン	プロバイダを削除します。

コンテンツ・サーバーの IP セキュリティ・フィルタの編集

IP セキュリティ・フィルタを使用して、コンテンツ・サーバーへのアクセスを制限します。指定の基準と一致する IP アドレスを持つホストのみが、アクセスを許可されます。デフォルトでは、IP セキュリティ・フィルタは 127.0.0.1 です。これは、コンテンツ・サーバーが localhost からの通信のみをリスニングすることを意味します。コンテンツ・サーバーがすべてのリファイナリと通信できるようにするには、各リファイナリ・コンピュータの IP アドレスをコンテンツ・サーバーの IP セキュリティ・フィルタに追加する必要があります。リファイナリがコンテンツ・サーバーと同じコンピュータで実行している場合でも、この設定が必要です。コンテンツ・サーバーの IP セキュリティ・フィルタを編集するには、次のようにします。

1. コンテンツ・サーバー・コンピュータにアクセスします。
2. システム・プロパティ・アプリケーションを起動します。
 - ❖ **Windows:** 「スタート」 → 「プログラム」 → 「Stellent Content Server/Inbound Refinery」 → 「<instance_name>」 → 「Utilities」 → 「System Properties」 を選択します。
 - ❖ **UNIX:** System_Properties スクリプトを実行します。これは、コンテンツ・サーバーまたはリファイナリのインストール・ディレクトリの /bin サブディレクトリにあります。
3. 「Server」 タブを選択します。

4. 「IP Address Filter」フィールドに、各リファイナリ・コンピュータの IP アドレスを指定します（物理的に同じコンピュータでコンテンツ・サーバーを実行している場合も必要）。このフィールドのデフォルト値は 127.0.0.1 (localhost) ですが、有効な IP アドレスを必要な数だけ追加できます。複数の IP アドレスは縦棒 (|) で区切って指定できます。また、ワイルド・カード (0 以上の文字に対して *, 1 つの文字に対して ?) も使用できます。たとえば、127.0.0.1|10.10.1.10|62.43.163.*|62.43.161.12? のように指定します。



重要: localhost の IP アドレス (127.0.0.1) は必ず指定してください。

5. 終了したら「OK」をクリックし、コンテンツ・サーバーを再起動します。



技術ヒント:あるいは、<content_server_install_dir>/<instance_name>/config ディレクトリにある config.cfg ファイルで、IP セキュリティ・フィルタに IP アドレスを直接追加することもできます。IP アドレスを SocketHostAddressSecurityFilter 変数に追加します。たとえば、SocketHostAddressSecurityFilter=127.0.0.1|10.10.1.10|62.43.163.* のように指定します。

6

ジョブをリファイナリに 送信するためのコンテンツ・ サーバーの構成

概要

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [概要](#) (6-2 ページ)
- ❖ [変換について](#) (6-4 ページ)
- ❖ [コンテンツ・アイテムのリファイナリ通過と変換失敗](#) (6-7 ページ)
- ❖ [MIME タイプについて](#) (6-7 ページ)
- ❖ [変換について](#) (6-4 ページ)

タスク

- ❖ [File Formats ウィザードの使用](#) (6-8 ページ)
- ❖ [構成マネージャの使用](#) (6-9 ページ)
 - [構成マネージャの起動](#) (6-9 ページ)
 - [ファイル・フォーマットの追加](#) (6-10 ページ)
 - [ファイル・フォーマットの追加](#) (6-10 ページ)
 - [ファイル・フォーマットの編集](#) (6-10 ページ)

- [ファイル拡張子の追加](#) (6-11 ページ)
- [ファイル拡張子の編集](#) (6-11 ページ)
- ❖ [PassThru ファイルに関するコンテンツ・サーバーの構成](#) (6-12 ページ)
- ❖ [コンテンツ・サーバーのリファイナリ変換オプションの構成](#) (6-13 ページ)
- ❖ [チェックイン時の変換の上書き](#) (6-14 ページ)
- ❖ [サムネイルのサイズ変更](#) (6-17 ページ)

インタフェース

- ❖ [File Formats ウィザード・ページ](#) (6-18 ページ)
- ❖ [「File Formats」画面](#) (6-20 ページ)
 - [「Add New File Formats」または「Edit File Formats」画面](#) (6-21 ページ)
 - [「Add File Extensions」または「Edit File Extensions」画面](#) (6-22 ページ)
- ❖ [「Refinery Conversion Options」ページ](#) (6-23 ページ)

概要

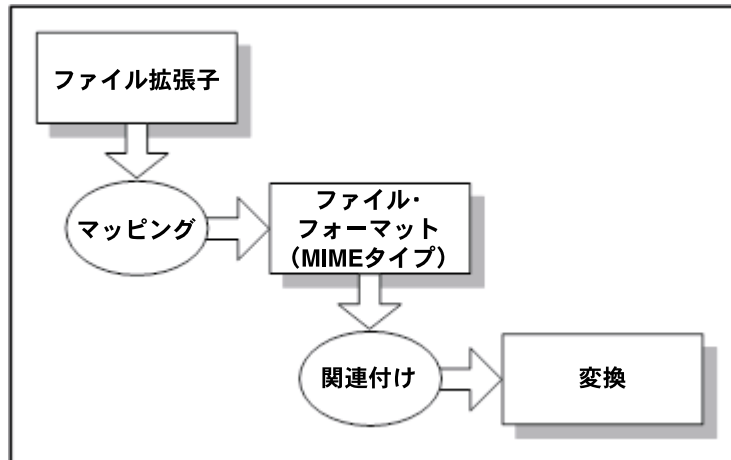
Content Server では、ファイル拡張子、ファイル・フォーマットおよび変換を使用して、コンテンツ・アイテムが **Inbound Refinery** および変換アドオンでどのように処理されるかを定義します。また、アプリケーション開発者がカスタム変換を作成することもできます。

通常、ファイル・フォーマットはその MIME (Multipurpose Internet Mail Extension) タイプによって識別され、各ファイル・フォーマットが特定の変換に関連付けられます。各ファイル拡張子は特定のファイル・フォーマットにマップされます。したがって、コンテンツ・サーバーは、チェックインされたファイルの拡張子に基づいて、ファイルがリファイナリで処理されるかどうかと、その場合の処理方法を制御できます。リファイナリの変換設定では、リファイナリが受け入れる変換が指定され、変換の出力が制御されます。詳細は、[第7章「リファイナリの変換設定の構成」](#)を参照してください。

次の例では、ファイル拡張子 doc がファイル・フォーマット application/msword にマップされており、このファイル・フォーマットは Word 変換に関連付けられています。つまり、コンテンツ・サーバーは、チェックインされたすべての Microsoft Word ファイル (ファイル拡張子 doc) を変換のためにリファイナリに送信しようとします。別の例では、ファイル拡張子 xls がファイル・フォーマット application/vnd.ms-excel にマップされており、このファイル・フォーマットは PassThru 変換に関連付けられています。この場合、Microsoft Excel ファイルはリファイナリに送信されません。かわりに、ネイティブ・ファイルのコピー、またはネイティブ・ボルト・ファイルを指す HCST ファイルを weblayout ディレクトリに配置するようにコンテンツ・サーバーを構成すること

もできます。この場合、ユーザーがそのファイルを表示するためには、ネイティブ・ファイルを開くことができるアプリケーションがコンピュータにインストールされている必要があります。

図 6-1 ファイル・フォーマットと変換のマッピング



ファイルがコンテンツ・サーバーにチェックインされ、ファイル・フォーマットが変換にマップされると、コンテンツ・サーバーは、その変換を受け入れて変換ジョブを処理できるリファイナリ・プロバイダがあるかどうかを調べます。これは、次のことを意味します。

- ❖ コンテンツ・サーバーのためにリファイナリ・プロバイダを設定しておく必要があります。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。
- ❖ 変換を受け入れるようにリファイナリを構成しておく必要があります。詳細は、7-6 ページの「[受け入れられる変換の設定](#)」を参照してください。

変換について

変換では、完了する変換ステップや使用する変換エンジンを含め、ファイル・フォーマットをどのように処理すべきかが指定されます。変換は、[File Formats ウィザード・ページ](#)または「[File Formats](#)」画面を使用してファイル・フォーマットに関連付けることができます。詳細は、[File Formats ウィザードの使用](#)および[構成マネージャの使用](#)を参照してください。

コンテンツ・サーバーで使用可能な変換は、リファイナリで処理可能な変換と一致する必要があります。コンテンツ・サーバーでファイル・フォーマットを変換にマップすると、そのフォーマットのファイルがチェックインされたときに、変換のために送信されます。その変換を受け入れるように1つ以上のリファイナリを設定する必要があります。詳細は、7-6 ページの「[受け入れられる変換の設定](#)」を参照してください。

デフォルトでは次の変換が使用可能です。変換アドオンをインストールすると、その他の変換を使用できる場合があります。詳細は、各変換アドオンのドキュメントを参照してください。

変換	説明
PassThru	ファイルを変換しない場合に使用します。この変換をファイル・フォーマットに関連付けると、そのファイル・フォーマットにマップされているすべてのファイル拡張子のファイルが変換のために送信されません。ネイティブ・ファイルのコピー、またはネイティブ・ポルト・ファイルを指す HCST ファイルを weblayout ディレクトリに配置するようにコンテンツ・サーバーを構成できます。詳細は、「 PassThru ファイルに関するコンテンツ・サーバーの構成 」を参照してください。
Word	Microsoft Word、Microsoft Write およびリッチ・テキスト・フォーマット (RTF) のファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
Excel	Microsoft Excel ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
PowerPoint	Microsoft PowerPoint ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
MSProject	Microsoft Project ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
Distiller	PostScript ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、指定された PostScript Distiller エンジンを使用して PDF に変換されます。

変換	説明
MSPub	Microsoft Publisher ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
FrameMaker	Adobe FrameMaker ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
Visio	Microsoft Visio ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
WordPerfect	Corel WordPerfect ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
PhotoShop	Adobe Photoshop ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
InDesign	Adobe InDesign、Adobe PageMaker および QuarkXPress ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
MSSnapshot	Microsoft Snapshot ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
PDF Refinement	チェックインされた PDF ファイルを調整のために送信する場合に使用します。リファイナリの変換設定によって異なりますが、これには、指定の PostScript Distiller エンジンによる、高速 Web 表示のための PDF ファイルの最適化が含まれます。
Ichitaro	重要: Ichitaro 変換は、このバージョンの Inbound Refinery ではサポートされていません。
OpenOffice	OpenOffice および StarOffice ファイルを変換のために送信する場合に使用します。ファイルは、リファイナリの変換設定に基づいて変換されます。
ImageThumbnail	<p>選択したグラフィック・フォーマットをサムネイル作成用にもみ送信する場合に使用します。</p> <p>Digital Asset Manager がインストールされている場合は、Digital Media Graphics フォーマットを使用できます。ImageThumbnail 変換のかわりに Digital Media Graphics 変換を使用すると、グラフィック・フォーマットを変換（イメージ・レンディションとサムネイルの作成を含む）のために送信できます。</p>

変換	説明
NativeThumbnail	<p>選択したファイル・フォーマットをサムネイル作成用にのみ送信する場合に使用します。通常、この変換が使用されるのは、テキスト・ファイル (TXT) と Microsoft Outlook 電子メール・ファイル (EML および MSG) のサムネイルを作成する場合です。</p>
MultipageTiff	<p>Outside In Image Export を使用して、ファイルをマルチページ TIFF ファイルに直接変換するために送信する場合に使用します。ファイル・フォーマットをこの変換にマップすると、リファイナリの変換設定は無視されます。ファイルは、TIFF ファイルへの変換のために直接 Image Export に送信されます。</p>
OutsideIn Technology	<p>Outside In Image Export を使用して、ファイルをマルチページ TIFF ファイルに直接変換するために送信する場合に使用します。ファイル・フォーマットをこの変換にマップすると、リファイナリの変換設定は無視されます。ファイルは、TIFF ファイルへの変換のために直接 Image Export に送信されます。</p>
LegacyCustom	<p>重要: LegacyCustom 変換は、このバージョンの Inbound Refinery ではサポートされていません。</p>

コンテンツ・アイテムのリファイナリ通過と変換失敗

PassThru 変換をファイル・フォーマットに関連付けると、そのファイル・フォーマットにマップされているすべてのファイル拡張子のファイルが変換されません。ファイル拡張子が PassThru にマップされているコンテンツ・アイテムは、コンテンツ・サーバーにチェックインされても、ファイルはリファイナリには送信されず、Web 表示可能ファイルは作成されません。ネイティブ・ファイルのコピー、またはネイティブ・ファイルを指す HCST ファイルを `weblayout` ディレクトリに配置するようにコンテンツ・サーバーを構成できます。この場合、ユーザーがこのファイルを表示するには、ファイルの作成に使用されたアプリケーションまたはファイルを開くことができるアプリケーションが各クライアントに必要です。詳細は、6-12 ページの「[PassThru ファイルに関するコンテンツ・サーバーの構成](#)」を参照してください。

ファイルがリファイナリに送信されてから、変換が失敗したことをリファイナリがコンテンツ・サーバーに通知した場合に、ネイティブ・ファイルのコピーを `weblayout` ディレクトリに配置するようにコンテンツ・サーバーを構成できます。この場合も、ユーザーがそのファイルを表示するには、ネイティブ・ファイルを開くことができるアプリケーションがコンピュータにインストールされている必要があります。詳細は、6-13 ページの「[コンテンツ・サーバーのリファイナリ変換オプションの構成](#)」を参照してください。

MIME タイプについて

新しいファイル・フォーマットには、ファイル拡張子に対応する MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions) タイプで名前を付けることをお勧めします (たとえば、ファイル拡張子 `doc` にマップされるフォーマットは `application/msword` とします)。

コンテンツ・アイテムが Content Server にチェックインされると、ネイティブ・ファイルのファイル拡張子にマップされたフォーマットに基づいて、コンテンツ・アイテムのフォーマットが割り当てられます。ネイティブ・ファイルが変換されない場合、Content Server は、コンテンツ・アイテムをクライアントに配信するときにこのフォーマットを含めます。フォーマットで MIME タイプを使用すると、クライアントがファイルのデータ・タイプや使用するヘルパー・アプリケーションなどを判別する際に役立ちます。

ネイティブ・ファイルが変換される場合、Inbound Refinery によって、適切なフォーマットが Web 表示可能ファイルに割り当てられます (たとえば、リファイナリにより PDF ファイルが生成される場合、そのファイルは `application/pdf` と指定されます)。その後、Content Server は、Web 表示可能ファイルをクライアントに配信するときに (ネイティブ・ファイルに指定されたフォーマットではなく) このフォーマットを含めます。

ファイル・フォーマットの適切な MIME タイプを識別するために、インターネット上に優れた資料がいくつかあります。次に例を示します。

- ❖ <http://filext.com/>
- ❖ <http://www.webmaster-toolkit.com/mime-types.shtml>

FILE FORMATS ウィザードの使用

InboundRefinerySupport コンポーネントがインストールされて有効になっているときは、コンテンツ・サーバーの「Administration」メニューで「**Refinery Administration**」→「**File Formats Wizard**」を選択して、File Formats ウィザード・ページにアクセスできます。File Formats ウィザード・ページでは、変換のためにリファイナリに送信するファイルのタイプを選択できます。対応するデフォルトのファイル拡張子、ファイル・フォーマットおよび変換は、自動的にマップされます。



重要: File Formats ウィザード・ページを使用するには、InboundRefinerySupport コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールして有効にする必要があります。また、変換アドオン・コンポーネントのために、ファイル・タイプが File Formats ウィザード・ページに追加されることがあります。

InboundRefinerySupport コンポーネントのインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。

ファイル・フォーマット構成の変更は、構成マネージャ・アプレットを使用して手動で行うこともできます。詳細は、6-9 ページの「**構成マネージャの使用**」を参照してください。File Formats ウィザード・ページを使用すると、ほとんどの一般的なファイル・タイプの変換を構成できます。ただし、構成マネージャ・アプレットのすべての機能には対応していません。

File Formats ウィザード・ページを使用するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Administration**」→「**Refinery Administration**」→「**File Formats Wizard**」をクリックします。[File Formats ウィザード・ページ](#)が表示されます。
3. 変換のためにリファイナリに送信する各ファイル・タイプのチェック・ボックスを選択します。すべてのチェック・ボックスを選択または選択解除するには、見出し行のチェック・ボックスを選択または選択解除します。



重要: Ichitaro 変換は、このバージョンの Inbound Refinery ではサポートされていません。

4. 最後に保存した設定に戻す場合は、「**Reset**」をクリックします。

5. 「**Update**」をクリックします。選択したファイル・タイプについて、対応するデフォルトのファイル拡張子、ファイル・フォーマットおよび変換が自動的にマップされます。

構成マネージャの使用

File Formats ウィザードを使用すると、ほとんどの一般的なファイル・タイプのデフォルト変換を構成できます。詳細は、6-8 ページの「[File Formats ウィザードの使用](#)」を参照してください。ファイル拡張子、ファイル・フォーマットおよび変換も、管理アプレットの1つである構成マネージャを使用して Content Server で管理できます。デフォルトの変換を変更したり、一般的でないファイル・タイプの変換を設定したりするには、構成マネージャを使用するだけですみます。

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [構成マネージャの起動](#) (6-9 ページ)
- ❖ [ファイル・フォーマットの追加](#) (6-10 ページ)
- ❖ [ファイル・フォーマットの編集](#) (6-10 ページ)
- ❖ [ファイル拡張子の追加](#) (6-11 ページ)
- ❖ [ファイル拡張子の編集](#) (6-11 ページ)

構成マネージャの起動

構成マネージャを起動するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Administration**」をクリックします。
3. 「**Admin Applets**」をクリックします。「Administration Applets for <server name>」ページが表示されます。
4. 「**Configuration Manager**」をクリックします。構成マネージャ・アプレットが起動します。
5. 「**Options**」 → 「**File Formats**」を選択します。「[File Formats](#)」画面が表示されます。

ファイル・フォーマットの追加

ファイル・フォーマットを追加して変換に関連付けるには、次のようにします。

1. 「File Formats」 セクションで **「Add」** をクリックします。「[Add New File Formats](#)」または「[Edit File Formats](#)」画面が表示されます。
2. 「Format」 フィールドにファイル・フォーマットの名前を入力します。任意の名前を付けることができますが、Oracle では、対応するファイル拡張子に関連付けられている MIME タイプの使用をお勧めします。詳細は、6-7 ページの「[MIME タイプについて](#)」を参照してください。
3. 「Conversion」 ドロップダウン・リストから、適切な変換を選択します。詳細は、6-4 ページの「[変換について](#)」を参照してください。



重要: Ichitaro 変換は、このバージョンの Inbound Refinery ではサポートされていません。

4. 「Description」 フィールドにファイル・フォーマットの説明を入力します。
5. 「OK」 をクリックして設定を保存し、「[File Formats](#)」画面に戻ります。

ファイル・フォーマットの編集

関連付けられている変換を変更するなど、ファイル・フォーマットを編集するには、次のようにします。

1. 「File Formats」 セクションでファイル・フォーマットを選択し、「**Edit**」 をクリックします。「[Add New File Formats](#)」または「[Edit File Formats](#)」画面が表示されます。
2. 「Format」 フィールドは変更できません。
3. 「Conversion」 ドロップダウン・リストから、適切な変換を選択します。詳細は、6-4 ページの「[変換について](#)」を参照してください。
4. 「Description」 フィールドでファイル・フォーマットの説明を編集します（必要な場合）。
5. 「OK」 をクリックして設定を保存し、「[File Formats](#)」画面に戻ります。

ファイル拡張子の追加

ファイル拡張子を追加してファイル・フォーマットにマップする（これにより、ファイル拡張子と変換を関連付ける）には、次のようにします。

1. 「File Extensions」セクションで「**Add**」をクリックします。「[Add File Extensions](#)」または「[Edit File Extensions](#)」画面が表示されます。
2. 「Extension」フィールドにファイル拡張子を入力します。
3. 「Map to Format」ドロップダウン・リストで、定義済のファイル・フォーマット・リストから適切なファイル・フォーマットを選択します。ファイル・フォーマットを選択すると、指定した拡張子のすべてのファイルが、そのファイル・フォーマットに関連付けられている特定の変換に直接割り当てられます。
4. 「OK」をクリックして設定を保存し、「[File Formats](#)」画面に戻ります。

ファイル拡張子の編集

マップされているファイル・フォーマットを変更するなど、ファイル拡張子を編集する（これによってファイル拡張子を別の変換を関連付ける）には、次のようにします。

1. 「File Extensions」セクションでファイル拡張子を選択し、「**Edit**」をクリックします。「[Add File Extensions](#)」または「[Edit File Extensions](#)」画面が表示されます。
2. 「Extension」フィールドは変更できません。
3. 「Map to Format」ドロップダウン・リストで、定義済のファイル・フォーマット・リストから適切なファイル・フォーマットを選択します。ファイル・フォーマットを選択すると、指定した拡張子のすべてのファイルが、そのファイル・フォーマットに関連付けられている特定の変換に直接割り当てられます。
4. 「OK」をクリックして設定を保存し、「[File Formats](#)」画面に戻ります。

PASSTHRU ファイルに関するコンテンツ・サーバーの構成

PassThru 変換をファイル・フォーマットに関連付けると、そのファイル・フォーマットにマップされているすべてのファイル拡張子のファイルが、変換のために送信されません。デフォルトでは、コンテンツ・サーバーによって、ネイティブ・ファイルのコピーが `weblayout` ディレクトリに配置されます。ただし、コンテンツ・サーバーを構成して、ネイティブ・ボールド・ファイルを指す HCST ファイルを `weblayout` ディレクトリに配置することもできます。変換しない大きなファイルがあり、`weblayout` ディレクトリに大きいファイルをコピーしたくない場合は、この方法が役立ちます。

次に重要な注意事項を示します。

- ❖ HCST ファイルの内容は、`redirectionfile_template.htm` ファイルの内容によって制御されます。
- ❖ `GET_FILE` サービスはファイルの配信に使用されます。このため、PDF ハイライト機能またはバイト・サービングが使用できません。これは、テンプレートを上書きして Web サーバーを再構成すると解決できます。
- ❖ 単純なテンプレートが使用されるため、ブラウザの「戻る」ボタンが機能せずに、レイアウトが変わることがあります。これは、テンプレートを上書きして Web サーバーを再構成すると解決できます。
- ❖ HCST ファイルが `weblayout` ディレクトリに含まれているため、ファイル数は減りません。ただし、ネイティブ・ボールド・ファイルが大きい場合は、ディスク領域を節約できます。
- ❖ この設定は、変換のためにリファイナリに送信されるファイルには影響しません。つまり、ファイルが変換のためにリファイナリに送信される場合は、別のコンテンツ・サーバー設定によって、Web 表示可能ファイルまたはネイティブ・ファイルのコピーが `weblayout` ディレクトリに配置されるかどうかを制御されます。このとき、HCST ファイルを使用できません。詳細は、6-13 ページの「[コンテンツ・サーバーのリファイナリ変換オプションの構成](#)」を参照してください。

コンテンツ・サーバーを構成して、ネイティブ・ファイルのコピーのかわりに HCST ファイルを `weblayout` ディレクトリに配置するには、次のようにします。

1. `<content_server_install_dir>/config/` ディレクトリにあるコンテンツ・サーバーの `config.cfg` ファイルをテキスト・エディタで開きます。
2. 次のように、`IndexVaultFile` 変数を入力して、値を `true` に設定します。
`IndexVaultFile=true`
3. 変更内容を `config.cfg` ファイルに保存します。
4. コンテンツ・サーバーを再起動します。

コンテンツ・サーバーのリファイナリ変換オプションの構成

コンテンツ・サーバーが変換前ジョブと変換後ジョブを処理する方法を含め、コンテンツ・サーバーとリファイナリ・プロバイダとの相互作用に影響するいくつかのオプションを構成できます。これらの設定は、「Inbound Refinery Conversion Options」ページを使用して行います。



重要: 「Inbound Refinery Conversion Options」ページを使用するには、InboundRefinerySupport コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールして有効にする必要があります。

InboundRefinerySupport コンポーネントのインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストール・ガイド』を参照してください。

コンテンツ・サーバーが変換前ジョブと変換後ジョブを処理する方法を構成するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. 「Administration」 → 「Refinery Administration」 → 「Conversion Options」を選択します。「Refinery Conversion Options」ページが表示されます。
3. 次に変換前ジョブの転送を試みるまでの待機時間を秒単位で入力します。デフォルトは10（秒）です。
4. アクションを実行する前に単一のジョブの転送に許容される合計時間を分単位で入力します。デフォルトは30（分）です。
5. ネイティブ・ファイルの圧縮のしきい値サイズ（MB 単位）を入力します。デフォルトのしきい値サイズは1024MB（1GB）です。ネイティブ・ファイルがしきい値サイズを超えないかぎり、ファイルは圧縮されてからコンテンツ・サーバーによってリファイナリに転送されます。この設定により、非常に大きなファイル（たとえば、大きなビデオ・ファイルなど）を圧縮するためのオーバーヘッドを回避できます。すべてのネイティブ・ファイルを転送前に圧縮しない場合は、ネイティブ・ファイルの圧縮のしきい値サイズを0に設定します。
6. ジョブの最大転送時間に達したときに変換が失敗する場合は、チェック・ボックスを選択します。
7. 変換の失敗をコンテンツ・サーバーでどのように処理するかを決定します。ファイルがリファイナリに送信され、変換が失敗した場合、ネイティブ・ファイルのコピーをweblayout ディレクトリに配置するようにコンテンツ・サーバーを構成できます（リファイナリ通過）。通過を有効にするには、チェック・ボックスを選択します。通過を無効にするには、チェック・ボックスを選択解除します。

次に重要な注意事項を示します。

- ファイルが変換のためにリファイナリに送信されると、ネイティブ・ファイルのコピーのかわりに HCST ファイルを使用することはできません。リファイナリに送信されないファイルをコンテンツ・サーバーで処理する方法の構成の詳細は、6-12 ページの「[PassThru ファイルに関するコンテンツ・サーバーの構成](#)」を参照してください。
- この設定は、<content_server_install_dir>%<instance_name>%config% ディレクトリにある config.cfg ファイルで AllowPassthru 変数を使用すると、手動で上書きすることもできます。

8. 最後に保存した設定に戻す場合は、「**Reset**」をクリックします。
9. 「**Update**」をクリックして変更を保存します。
10. コンテンツ・サーバーを再起動します。



注意: コンテンツ・サーバーとリファイナリの設定を使用して変換キューを管理する方法の詳細は、9-5 ページの「[リファイナリの変換キューの管理](#)」を参照してください。

チェックイン時の変換の上書き

環境によっては特定のファイル拡張子が複数の方法で使用されることがあります。わかりやすい例はファイル拡張子 ZIP です。たとえば、次のようなファイルをチェックインする場合があります。

- ❖ 1つの ZIP ファイルに圧縮された複数の TIFF ファイル。Tiff Converter のあるリファイナリで OCR 付きの 1つの PDF ファイルに変換します。
- ❖ 1つの ZIP ファイルに圧縮された、リンク・オブジェクトを含む複数の Microsoft Office ファイル。PDF Converter のあるリファイナリで 1つの PDF ファイルに変換します。
- ❖ 1つの ZIP ファイルに圧縮された複数のタイプのファイル。変換のためにリファイナリに送信しません（この ZIP ファイルはネイティブ・フォーマットで通過させます）。

1つのファイル拡張子を複数の方法で使用する場合は、ユーザーがファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインするときに変換方法を選択するように、コンテンツ・サーバーを構成できます。これは、「チェックイン時のフォーマット上書きの許可」と呼ばれます。このコンテンツ・サーバー機能を有効にするには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Administration**」をクリックします。
3. 「**Admin Server**」をクリックします。「Admin Server」ページが表示されます。
4. 構成するコンテンツ・サーバー・インスタンスのボタンをクリックします。そのコンテンツ・サーバー・インスタンスの管理ページが表示されます。

5. ナビゲーション・メニューで「**General Configuration**」をクリックします。
6. 「**Allow override format on checkin**」設定を有効にします。
7. 「**Save**」をクリックします。
8. 構成マネージャを使用して、最もよく使用される変換にファイル拡張子をマップします。これがデフォルト変換になります。構成マネージャを使用したファイル拡張子、ファイル・フォーマットおよび変換の設定の詳細は、6-9 ページの「[構成マネージャの使用](#)」を参照してください。ファイル拡張子 ZIP に関する前述の例の場合は、次のようにデフォルト変換を設定できます。
 - ❖ ファイル拡張子 ZIP を application/x-zip-compressed ファイル・フォーマットにマップし、application/x-zip-compressed ファイル・フォーマットを TIFFConversion 変換にマップします。こうすると、デフォルトでは、ZIP ファイルは複数の tiff ファイルを含むとみなされ、OCR 付きの PDF に変換するために、Tiff Converter のあるリファイナリに送信されます。
9. 構成マネージャを使用して、ユーザーがチェックイン時に選択できる別のファイル・フォーマットと変換を設定します。ファイル拡張子 ZIP に関する前述の例の場合は、次のように代替の変換を設定できます。
 - ❖ application/zip ファイル・フォーマットを ZipFile 変換にマップします。このオプションをチェックイン時に選択すると、Microsoft Office ファイルを含む ZIP ファイルを PDF Converter のあるリファイナリに送信して PDF に変換することができます。
 - ❖ application/zip-passthru ファイル・フォーマットを PassThru 変換にマップします。このオプションは、多様なファイルを含む ZIP ファイルを変換のためにリファイナリに送信しない場合に、チェックイン時に選択できます。ZIP ファイルは、ネイティブ・フォーマットで通過します。
10. コンテンツ・サーバーを再起動します。ユーザーがファイルをチェックインするときに、設定されているいずれかの変換を選択することで、デフォルト変換を変更できます。



注意: ユーザーによるチェックイン時の変換の上書きを有効にすることは、複数の専用リファイナリまたはカスタム変換（あるいはその両方）と組み合わせてよく使用されます。ファイル拡張子 ZIP の例では、Tiff Converter のある 1 つのリファイナリ設定（複数の tiff ファイルを含む ZIP ファイルを OCR 付きの PDF に変換する）と、PDF Converter のあるもう 1 つのリファイナリ設定（Microsoft Office ファイルを含む ZIP ファイルを PDF に変換する）を使用できます。

図 6-2 チェックイン時のフォーマット上書きを許可する「Content Check In Form」

Content Check In Form

Content ID: 001

Type: ADACCT - Acme Accounting Department

Title: Test_Compressed_TIFF_Files

Author: sysadmin

Security Group: Public

Primary File: C:\Testdata\Docs\Documents.zip

Format: Zipped TIFF to PDF

Alternate File: Microsoft Visio Drawing, Corel WordPerfect Document, Microsoft Write Document, Zipped TIFF to PDF

Revision: OpenOffice Calc Spreadsheet, OpenOffice Draw Document, OpenOffice Impress Presentation, OpenOffice Math Document, OpenOffice Writer Document, OpenOffice Writer Global Document, ZIP Passthru

Release Date: 3/10/07 4:41 PM

Expiration Date:

Check In Reset Quick Help



注意: 「Content Check In Form」には、ファイル・フォーマットの説明がリスト表示されます。

サムネイルのサイズ変更

デフォルトではサムネイルは 80x80 ピクセルで表示されます。サムネイルの表示サイズを変更する必要がある場合は、次のようにします（これにより、すべてのサムネイルのサイズが変更されます）。

1. `<content_server_install_dir>/<instance_name>/config/` ディレクトリにある `config.cfg` ファイルをテキスト・エディタで開きます。
2. サムネイルの高さと幅を変更するには、次のようにします。
 - サムネイルの高さを変更するには、次の行のピクセル・サイズを置き換えます。
`ThumbnailHeight=xxx` (where xxx is the value in pixels)
 - サムネイルの幅を変更するには、次の行のピクセル・サイズを置き換えます。
`ThumbnailWidth=xxx` (where xxx is the value in pixels)

Outside In Image Export によって、いずれか小さい方の設定に基づき、縦横比が維持された状態でサイズ変更が実行されます（設定が等しい場合は高さ設定が使用されます）。

3. 変更内容を `config.cfg` ファイルに保存します。
4. コンテンツ・サーバーを再起動します。



注意： `ThumbnailHeight` 変数および `ThumbnailWidth` 変数の詳細は、『[Idoc Script Reference Guide](#)』を参照してください。

FILE FORMATS ウィザード・ページ

File Formats Wizard for cs1

Select each file format to be converted to web-viewable format. Configure additional file extensions and formats using the Configuration Manager applet. This wizard overwrites any existing configuration of the extensions listed.

Select File Types

<input type="checkbox"/>	File Type	Extensions	Conversion
<input checked="" type="checkbox"/>	Corel WordPerfect Document	wpd	WordPerfect
<input checked="" type="checkbox"/>	FrameMaker Document	fm	FrameMaker
<input checked="" type="checkbox"/>	FrameMaker Book	bk, book	FrameMaker
<input checked="" type="checkbox"/>	FrameMaker Interchange Format	mif	FrameMaker
<input type="checkbox"/>

このページにアクセスするには、コンテンツ・サーバーの「Administration」メニューで「Refinery Administration」→「File Formats Wizard」を選択します。File Formats ウィザード・ページでは、変換のためにリファイナリに送信するファイルのタイプを選択できます。対応するデフォルトのファイル拡張子、ファイル・フォーマットおよび変換は、自動的にマップされます。



重要: File Formats ウィザード・ページを使用するには、InboundRefinerySupport コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールして有効にする必要があります。また、変換アドオン・コンポーネントのために、ファイル・タイプが File Formats ウィザード・ページに追加されることがあります。InboundRefinerySupport コンポーネントのインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストール・ガイド』を参照してください。

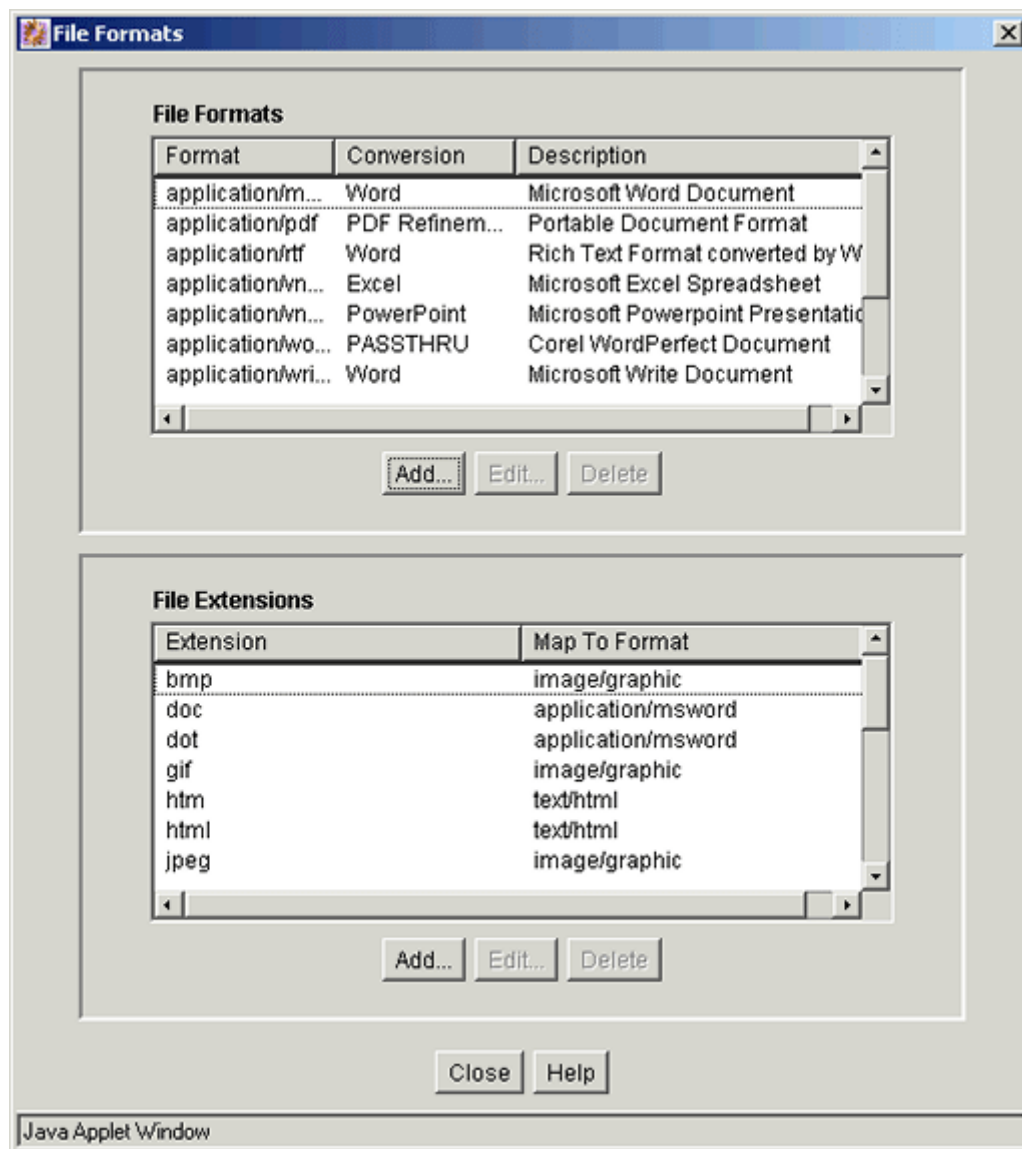
ファイル・フォーマット構成の変更は、構成マネージャ・アプレットを使用して手動で行うこともできます。詳細は、6-20 ページの「[「File Formats」画面](#)」を参照してください。File Formats ウィザード・ページを使用すると、ほとんどの一般的なファイル・タイプの変換を構成できます。ただし、構成マネージャ・アプレットのすべての機能には対応していません。

機能	説明
「Select File Types」 チェック・ボックス	変換のためにリファイナリに送信する各ファイル・タイプを選択します。すべてのチェック・ボックスを選択または選択解除するには、見出し行のチェック・ボックスを選択または選択解除します。
「Update」 ボタン	変更を保存します。
「Reset」 ボタン	File Formats ウィザード・ページを最後に保存された設定にリセットします。



重要: Ichitaro 変換は、このバージョンの Inbound Refinery ではサポートされていません。

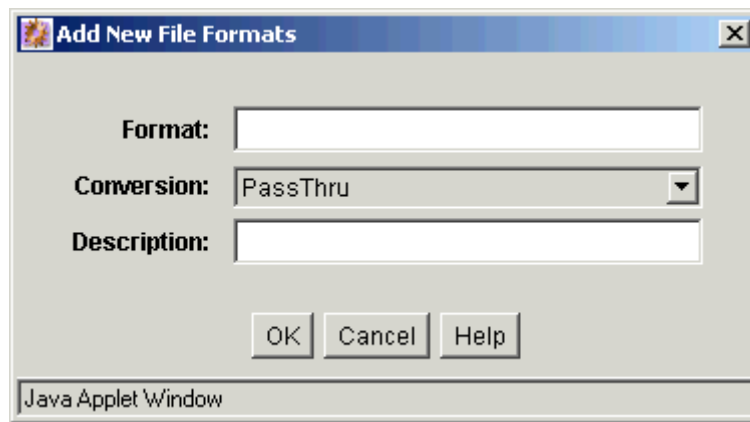
「FILE FORMATS」画面



この画面にアクセスするには、構成マネージャ・アプレットで「Options」→「File Formats」を選択します。この画面を使用し、コンテンツ・サーバーについてファイル拡張子、ファイル・フォーマットおよび変換を設定します。File Formats ウィザードを使用すると、ほとんどの一般的なファイル・タイプのデフォルト変換を構成できます。詳細は、6-18 ページの「File Formats ウィザード・ページ」を参照してください。デフォルトの変換を変更したり、一般的でないファイル・タイプの変換を設定したりするには、「File Formats」画面を使用するだけですみます。

フィールド	説明
Format	ファイル・フォーマットの名前。任意の名前を付けることができますが、Oracle では、対応するファイル拡張子に関連付けられている MIME タイプの使用をお勧めします。詳細は、6-7 ページの「 MIME タイプについて 」を参照してください。
Conversion	ファイル・フォーマットに関連付ける変換。詳細は、6-4 ページの「 変換について 」を参照してください。
Description	ファイル・フォーマットの説明。
Extension	ファイル・フォーマットにマップするファイル拡張子。
Map to Format	ファイル拡張子をマップするファイル・フォーマット。

「Add New File Formats」または「Edit File Formats」画面

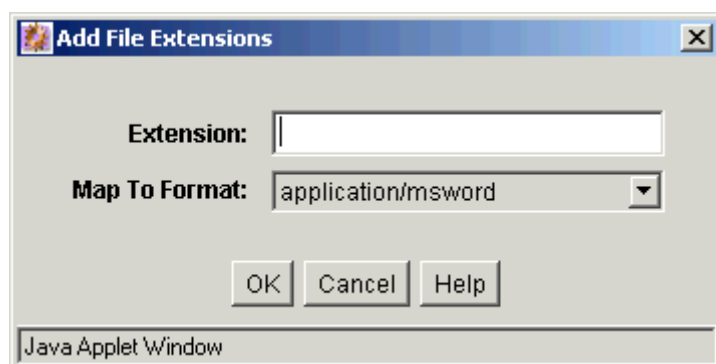


「Add New File Formats」画面にアクセスするには、構成マネージャ・アプレットで「Options」→「File Formats」を選択し、「File Formats」セクションで「Add」ボタンをクリックします。

「Edit File Format」画面にアクセスするには、構成マネージャ・アプレットで「Options」→「File Formats」を選択し、「File Formats」セクションで既存のファイル・フォーマットを選択してから、「File Formats」セクションの「Edit」ボタンをクリックします。

フィールド	説明
Format	通常は、対応するファイル拡張子に関連付けられている MIME タイプです。詳細は、6-7 ページの「 MIME タイプについて 」を参照してください。
Conversion	このファイル・フォーマットにマップされているすべてのファイル拡張子に使用される変換。
Description	ファイル・フォーマットの説明。

「Add File Extensions」または「Edit File Extensions」画面



「Add File Extensions」画面にアクセスするには、構成マネージャ・アプレットで「Options」→「File Formats」を選択し、「File Extensions」セクションで「Add」ボタンをクリックします。

「Edit File Extension」画面にアクセスするには、構成マネージャ・アプレットで「Options」→「File Formats」を選択し、「File Extensions」セクションで既存のファイル拡張子を選択してから、「File Extensions」セクションの「Edit」ボタンをクリックします。

フィールド	説明
Extension	ファイル拡張子（たとえば、Microsoft Word は doc、Microsoft Excel は xls、Microsoft Visio は vsd など）。
Map to Format	ファイル拡張子をマップするファイル・フォーマット。

「REFINERY CONVERSION OPTIONS」 ページ

Inbound Refinery Conversion Options [quick help](#)

Options that affect how the Content Server interacts with Inbound Refinery providers.

Pre-Conversion Options

These options tell the Content Server how to handle jobs prior to conversion.

Enter the number of seconds between successive transfer attempts.

Enter the total number of minutes allowed to transfer a single job before action is taken.

Enter the native file compression threshold in MB; when exceeded the file will be transferred uncompressed.

When the time for transferring a job expires, the conversion should fail.

Post-Conversion Options

These options tell the Content Server how to handle jobs after conversion.

When a conversion sent to an Inbound Refinery fails, set the conversion to 'Refinery Passthru'.

このページにアクセスするには、コンテンツ・サーバーの「Administration」メニューで「Refinery Administration」→「Conversion Options」を選択します。「Inbound Refinery Conversion Options」ページでは、コンテンツ・サーバーが変換前ジョブと変換後ジョブを処理する方法を含め、コンテンツ・サーバーとリファイナリ・プロバイダとの相互作用に影響するいくつかのオプションを構成できます。



重要: 「Inbound Refinery Conversion Options」ページを使用するには、InboundRefinerySupport コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールして有効にする必要があります。

InboundRefinerySupport コンポーネントのインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。


ジョブをリファイナリに送信するためのコンテンツ・サーバーの構成

機能	説明
次に転送を試みるまでの待機時間を秒単位で指定するフィールド	コンテンツ・サーバーが次に変換前ジョブの転送を試みるまで待機する秒数を入力します。デフォルトは 10 (秒) です。
単一のジョブの転送許容時間を分単位で指定するフィールド	アクションを実行する前に単一のジョブの転送に許容される合計時間を分単位で入力します。デフォルトは 30 (分) です。
ネイティブ・ファイルの圧縮のしきい値を指定するフィールド	ネイティブ・ファイルの圧縮のしきい値サイズ (MB 単位) を入力します。デフォルトのしきい値サイズは 1024MB (1GB) です。ネイティブ・ファイルがしきい値サイズを超えないかぎり、ファイルは圧縮されてからコンテンツ・サーバーによってリファイナリに転送されます。この設定により、非常に大きなファイル (たとえば、大きなビデオ・ファイルなど) を圧縮するためのオーバーヘッドを回避できます。すべてのネイティブ・ファイルを転送前に圧縮しない場合は、ネイティブ・ファイルの圧縮のしきい値サイズを 0 に設定します。
ジョブの最大転送時間に達した場合、変換が失敗することを指定するチェック・ボックス	ジョブの最大転送時間に達したときに変換が失敗する場合は、このチェック・ボックスを選択します。
リファイナリに送信した変換が失敗した場合、変換を「リファイナリ失敗」に設定することを指定するチェック・ボックス	変換が失敗した場合、ネイティブ・ドキュメントのコピーを、プライマリ Web 表示可能レンディションとして使用するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、変換が失敗した場合 (Web 表示可能レンディションが生成されないとき) に、ネイティブ・ファイルのコピーが weblayout ディレクトリに配置されます。このオプションを選択解除した場合、ネイティブ・ファイルは weblayout ディレクトリにコピーされません。
「Update」ボタン	変更を保存します。
「Reset」ボタン	「Inbound Refinery Conversion Options」ページを最後に保存された設定にリセットします。



注意: コンテンツ・サーバーとリファイナリの設定を使用して変換キューを管理する方法の詳細は、9-5 ページの「[リファイナリの変換キューの管理](#)」を参照してください。

「REFINERY CONVERSION JOB STATUS」 ページ

Conversion Job Status		IBR Provider Status			
There is currently 1 job out for conversion		Refresh		Force Job Queue Check	
Conversion Job ID	Content ID	Conversion Job State	Job Submitted to Provider	Last Action at	Actions
57	000147	Submitted	ref8	5/3/07 9:50 PM	

このページにアクセスするには、コンテンツ・サーバーの「Administration」メニューで「Refinery Administration」→「Conversion Job Status」を選択するか、「IBR Provider Status」ページ（6-26 ページ）で「Conversion Job Status」タブをクリックします。「Refinery Conversion Job Status」ページでは、変換するために発行されたジョブの情報（ジョブの発行先プロバイダやジョブが変換プロセスのどの時点にあるかなど）を表示できます。



重要：「Refinery Conversion Job Status」ページを使用するには、InboundRefinerySupport コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールして有効にする必要があります。

InboundRefinerySupport コンポーネントのインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。

機能	説明
Refresh	表示されているジョブの状態を更新します。
Force Job Queue Check	Content Server がジョブをリファイナリ・プロバイダに強制的に配信するようにします。これは、リファイナリが停止し、そのために保留中のジョブが失敗する場合に特に役立ちます。このような状況では、保留中のジョブは変換のためにプロバイダに定期的に再発行されます。このボタンを使用すると、発行が強制的に行われます。
Conversion Job ID	Inbound Refinery によって発行済の各ジョブに割り当てられる一意の識別子。
Content ID	変換のために発行されたコンテンツ・アイテムに対する Content Server の一意の識別子。
Conversion Job State	ジョブが変換プロセスのどの時点にあるかを示します。

機能	説明
Job Submitted to Provider	ジョブの発行先プロバイダを示します。
Last Action At	ジョブの状態が最後に変更された日時を示します。
Actions	変換のために発行されたコンテンツ・アイテムに関する Content Server のコンテンツ情報ページにリンクします。

「IBR PROVIDER STATUS」 ページ

Provider	Available	Read Only	Jobs Queued	Last Message	Connection State	Last Activity Date	Action
ref8	true	false	1	Success	good	5/3/07 9:53 PM	Info Test

このページにアクセスするには、コンテンツ・サーバーの「Administration」メニューで「Refinery Administration」→「IBR Provider Status」を選択するか、「Refinery Conversion Job Status」ページ (6-25 ページ) で「IBR Provider Status」タブをクリックします。「IBR Provider Status」ページでは、コンテンツ・サーバーのすべてのリファイナリ・プロバイダの情報 (使用可能の状態、接続状態、各プロバイダのキューにあるジョブ数など) を表示できます。



重要: 「Refinery Conversion Job Status」ページを使用するには、InboundRefinerySupport コンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールして有効にする必要があります。

InboundRefinerySupport コンポーネントのインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストレーション・ガイド』を参照してください。

機能	説明
Force Status Update	表示されているプロバイダの状態をリフレッシュします。
Provider	各プロバイダの名前。

機能	説明
Available	プロバイダが変換のためにコンテンツを受け入れているかどうかを示します。
Read Only	プロバイダが読取り専用かどうか、すなわち変換のためのジョブを受け入れられなくなったかどうかを示します。変換は Content Server に戻されます。
Jobs Queued	各プロバイダが変換を待機しているジョブの数を示します。
Last Message	プロバイダによって配信された最後の状態のメッセージを表示します。
Connection State	プロバイダが Content Server に接続しているかどうかを示します。
Last Activity Date	最後のプロバイダ・アクティビティの日時を示します。
Actions	特定のプロバイダに関する情報を示す「 Provider Information 」ページ (5-17 ページ) を表示します。

ジョブをリファイナリに送信するためのコンテンツ・サーバーの構成

7

リファイナリの変換設定の構成

概要

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [変換設定について](#) (7-2 ページ)
- ❖ [サムネイルについて](#) (7-3 ページ)
- ❖ [タイムアウトの計算](#) (7-5 ページ)

タスク

- ❖ [受け入れられる変換の設定](#) (7-6 ページ)
- ❖ [プライマリの Web 表示可能レンディションとしてのマルチページ TIFF ファイルの設定](#) (7-7 ページ)
- ❖ [サムネイルの設定](#) (7-7 ページ)
- ❖ [UNIX でのレンダリング・オプションの構成](#) (7-9 ページ)
- ❖ [サード・パーティ・アプリケーション設定の構成](#) (7-11 ページ)
- ❖ [グラフィック変換のタイムアウト設定の構成](#) (7-11 ページ)

インタフェース

- ❖ [「Conversion Listing」 ページ](#) (7-12 ページ)
- ❖ [「Primary Web-Viewable Rendition」 ページ](#) (7-14 ページ)
- ❖ [「Additional Renditions」 ページ](#) (7-16 ページ)

- ❖ 「Thumbnail Options」 ページ (7-17 ページ)
- ❖ 「Third-Party Application Settings」 ページ (7-21 ページ)
- ❖ 「Timeout Settings」 ページ (7-22 ページ)

変換設定について

リファイナリの変換設定を構成する前に、次のタスクを実行する必要があります。

- ❖ リファイナリを起動します。詳細は、[第4章「リファイナリの起動と停止」](#)を参照してください。
- ❖ リファイナリが1つ以上のコンテンツ・サーバーに対してプロバイダとして設定されていることを確認します。詳細は、5-9 ページの「[リファイナリ・プロバイダの構成](#)」を参照してください。
- ❖ InboundRefinerySupport コンポーネントが各コンテンツ・サーバーにインストールされて有効になっていることを確認します。InboundRefinerySupport コンポーネントのインストールの詳細は、『[Inbound Refinery インストール・ガイド](#)』を参照してください。
- ❖ 変換のためにファイルをリファイナリに送信するように各コンテンツ・サーバーが構成されていることを確認します。詳細は、[第6章「ジョブをリファイナリに送信するためのコンテンツ・サーバーの構成」](#)を参照してください。

リファイナリの変換設定によって、リファイナリが受け入れる変換とリファイナリが各変換を処理する方法が制御されます。Inbound Refinery には Outside In Image Export が含まれ、次の処理に使用できます。

- ❖ ファイルのサムネイルの作成。サムネイルは、コンテンツの小さなプレビュー・イメージです。詳細は、7-3 ページの「[サムネイルについて](#)」および7-7 ページの「[サムネイルの設定](#)」を参照してください。
- ❖ マルチページ TIFF ファイルへのファイルの変換。TIFF ビューア・プラグインを備えた標準の Web ブラウザを使用して、ユーザーがファイルを表示できるようになります。詳細は、7-7 ページの「[プライマリの Web 表示可能レンディションとしてのマルチページ TIFF ファイルの設定](#)」を参照してください。



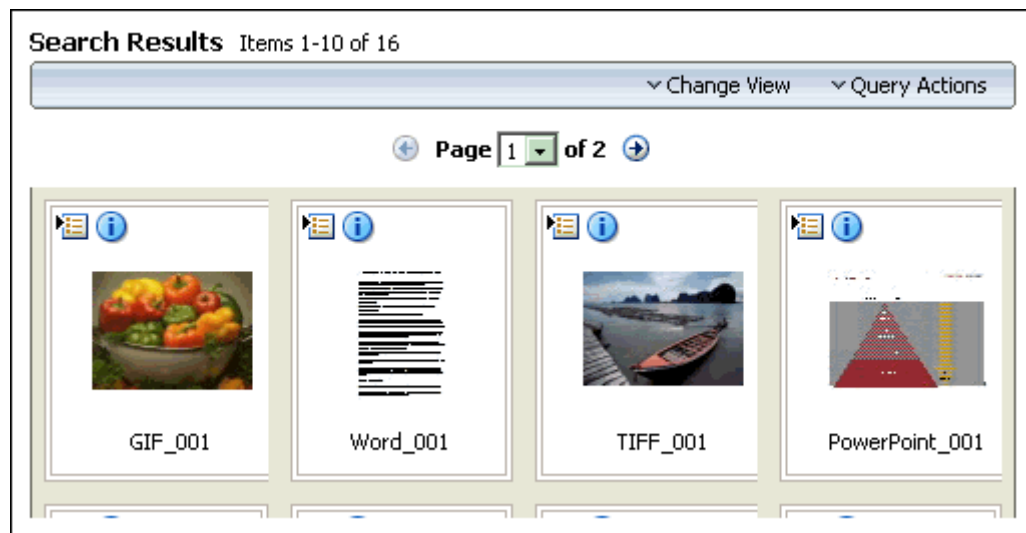
注意: Outside In Image Export を使用して Inbound Refinery で変換できるファイル・フォーマットの詳細は、[付録 A「Outside In Image Export で変換されるファイル・フォーマット」](#)を参照してください。

また、いくつかの変換アドオンを Inbound Refinery と一緒に使用できます。変換アドオンをインストールすると、その変換設定がリファイナリに追加されます。特定の変換アドオンの変換設定を構成する方法の詳細は、変換アドオンのドキュメントを参照してください。

サムネイルについて

サムネイルは、コンテンツの小さなプレビュー・イメージです。これは、Content Server の検索結果ページで使用され、通常は、表示している Web 表示可能ファイルにリンクしています。つまり、ファイルが検索の対象であるかどうかを確認する場合に、タイトルなどのテキスト情報のみに依存せずすみませす。サムネイルを使用すると、コンシューマは、ファイルを実際にかなくとも視覚的なサンプルを得ることができます。これにより、大きなオリジナル・ファイルのダウンロードを行う前にファイルをチェックできます。

図 7-1 Content Server のサムネイル例



Inbound Refinery には Outside In Image Export が含まれ、ファイルのサムネイルを作成するために使用できます。次に重要な注意事項を示します。

- ❖ Outside In Image Export でサムネイルに変換できるファイル・フォーマットのリストは、付録 A 「Outside In Image Export で変換されるファイル・フォーマット」を参照してください。
- ❖ Outside In Image Export サムネイル・エンジンでは、Type 3 フォントを含む PDF ファイルのサムネイルを正しく作成できません。これは、チェックインされている PDF ファイルのみに影響します。チェックインされている PDF ファイルに Type 3 フォントが含まれる場合、Outside In Image Export サムネイル・エンジンによって空白ページのサムネイルが作成されます。
- ❖ サムネイル・ファイルは、JPEG ファイルとしてコンテンツ・サーバーの weblayout ディレクトリに格納されます。これらのファイルは、文字 @t がファイル名に付くことで分類されます。たとえば、ファイル Report2001@t~2.jpg は、Report2001~2.pdf (Report2001.xxx というファイルのリビジョン 2) のサムネイルです。

- ❖ 暗号化された PDF またはパスワードで保護された PDF については、サムネイルを作成できません。
- ❖ EML ファイルについてはサムネイルを作成できます。Internet Explorer を使用中で、2003 年 4 月提供の Outlook Express 累積的更新プログラムがインストールされている場合、サムネイルをクリックして EML ファイルを表示しようとするとうエラーが生成されます。サムネイルをクリックするとプライマリの Web 表示可能ファイルが開くため、エラーになるのは、プライマリの Web 表示可能ファイルが EML ファイルである場合のみです（マルチページ TIFF または PDF バージョンの EML ファイルは、リファイナリによってプライマリの Web 表示可能ファイルとしては生成されませんが、ネイティブの EML ファイルはプライマリの Web 表示可能ファイルとして weblayout ディレクトリにコピーされます）。
- ❖ EML ファイルのサムネイルは、Outlook Express で EML ファイルを開いたときのロック・アンド・フィールと正確に同じではありません。サムネイルがプレーンテキスト・レンディションに基づいて作成されているのに対して、Outlook Express ではファイルが独自のフォーマットで開かれるためです。
- ❖ コンテンツ・サーバーで表示されるサムネイルのサイズ変更の詳細は、6-17 ページの「サムネイルのサイズ変更」を参照してください。
- ❖ Inbound Refinery でサムネイル作成をオフにしても、すでに作成されているサムネイルはコンテンツ・サーバーの検索結果ページに表示されます。これを表示しないようにするには、<content_server_install_dir>%config% ディレクトリにある config.cfg ファイルで AllowableAdditionalRenditions エントリから THUMBNAIL を削除します。

タイムアウトの計算

コンテンツがリファイナリによって処理される時、ファイルのサイズと「[Timeout Settings](#)」 ページの設定に基づいて特定の処理時間が割り当てられます。タイムアウト値 (分) は次の方法で計算されます。

タイムアウト値 [分] = ([バイト単位のファイル・サイズ] x タイムアウト係数) / 60,000

Inbound Refinery は、使用するファイルを判別するため、前述のステップでファイルが生成されたかどうかを確認します。生成された場合には、そのファイルをタイムアウトの計算で使用します。生成されていない場合は、ネイティブ・ファイルが使用されます。前述のステップで複数のファイル (たとえば、Excel ~ PostScript) が出力された場合は、ファイル・サイズの合計が使用されます。処理されるコンテンツ・アイテムには、最低でも「Minimum」列に示される時間 (分) が割り当てられますが、「Maximum」列の時間 (分) を超えることはありません。計算されるタイムアウト値が最小値よりも小さい場合は、最小値が適用されます。計算されるタイムアウト値が最大値よりも大きい場合は、最大値が適用されます。

例 1

ファイル・サイズ = 10MB (10485760 バイトまたは 10240KB)

最小値 = 2

最大値 = 10

係数 = 3

計算されるタイムアウト = $10485760 * 3 / 60000 = 524.288$ 分 = 8.74 時間

この場合、Inbound Refinery が待機するのは最大値の 10 分のみです。

例 2

ファイル・サイズ = 200KB (204800 バイト)

最小値 = 2

最大値 = 30

係数 = 2

計算されるタイムアウト = $204800 * 2 / 60000 = 6.83$ 分

この場合、Inbound Refinery は、計算された 6.83 分のみ待機します。最大値の 30 分ではありません。

例 3

ファイル・サイズ = 50KB (51200 バイト)

最小値 = 2

最大値 = 30

係数 = 2

計算されるタイムアウト = $51200 * 2 / 60000 = 1.71$ 分

この場合、Inbound Refinery が待機するのは最小値の 2 分間です。計算されたタイムアウトや最大値の 30 分ではありません。

受け入れられる変換の設定

リファイナリで受け入れられる変換とキューの最大値を設定するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Conversion Settings**」 → 「**Conversion Listing**」を選択します。「**Conversion Listing**」ページが表示されます。
3. リファイナリでキューイング可能な変換ジョブの合計数を設定します。デフォルトは0（無制限）です。
4. 変換の最大数に達したときにリファイナリをビジー状態とみなす秒数を入力します。デフォルトは120（秒）です。リファイナリの変換ジョブの最大数に達すると、コンテンツ・サーバーは指定の秒数待機してから、リファイナリとの通信を再試行します。
5. リファイナリで受け入れる各変換のチェック・ボックスを選択します。
 - デフォルトでは、すべての変換が選択されて、受け入れられるようになっています。
 - すべての変換を選択するには、列見出しの「**Accept**」チェック・ボックスを選択します。
 - すべての変換を選択解除するには、列見出しの「**Accept**」チェック・ボックスを選択解除します。



重要: Ichitaro 変換および LegacyCustom 変換は、このバージョンの Inbound Refinery ではサポートされていません。

6. 変換のタイプごとに（リファイナリのすべてのキューに対する）最大ジョブ数を設定します。デフォルトは0（無制限）です。
7. 「**Update**」をクリックして変更を保存します。
8. リファイナリのエージェントである各コンテンツ・サーバーを再起動して、コンテンツ・サーバーのキューイングで変更をすぐに有効にします。コンテンツ・サーバーを再起動しないと、コンテンツ・サーバーがリファイナリを次にポーリングするときまで、リファイナリで受け入れられる変換の変更が認識されません。



注意: コンテンツ・サーバーとリファイナリの設定を使用して変換キューを管理する方法の詳細は、9-5 ページの「[リファイナリの変換キューの管理](#)」を参照してください。

プライマリの Web 表示可能レンディションとしてのマルチページ TIFF ファイルの設定

Inbound Refinery に含まれている Outside In Image Export を使用すると、ファイルをプライマリの Web 表示可能レンディションとしてマルチページ TIFF ファイルに変換できます。これにより、ユーザーは、TIFF ビューア・プラグインを備えた標準の Web ブラウザでファイルを表示できます。

PDF Converter など他の変換アドオンを使用すると、プライマリの Web 表示可能レンディションとして他のタイプのレンディションを作成できます。Web 表示可能レンディションを生成できる変換アドオンがインストールされていると、そのアドオンに対応する追加のオプションを使用できます。詳細は、各変換アドオンのドキュメントを参照してください。

リファイナリが生成するマルチページ TIFF ファイルをプライマリの Web 表示可能レンディションとして設定するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Conversion Settings**」 → 「**Primary Web Rendition**」を選択します。「**Primary Web-Viewable Rendition**」ページが表示されます。
3. ファイルをプライマリの Web 表示可能レンディションとしてのマルチページ TIFF ファイルに変換するように、「**Convert to multi-page Tiff using Outside In**」を選択します。
4. 「**Update**」をクリックして変更を保存します。

サムネイルの設定

Inbound Refinery には Outside In Image Export が含まれていて、追加のレンディションとしてファイルのサムネイルを作成することができます。サムネイルは、Inbound Refinery でデフォルトで作成できる唯一の追加レンディションです。その他の変換アドオンやカスタム変換を使用すると、追加のレンディションを作成できます。このような変換アドオンがインストールされていると、そのアドオンに対応する追加のオプションを使用できるようになります。詳細は、各変換アドオンのドキュメントを参照してください。

サムネイルを有効化してサムネイル設定を構成するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Conversion Settings**」 → 「**Additional Renditions**」を選択します。「**Additional Renditions**」ページが表示されます。
3. 「**Create Thumbnail Images using Outside In**」を選択します。

4. 「Update」をクリックして変更を保存します。
5. 「Options」をクリックします。「Thumbnail Options」ページが表示されます。
6. サムネイルのオプションを選択します。使用可能なオプションの詳細は、7-17 ページの「Thumbnail Options」ページを参照してください。



注意: Inbound Refinery を UNIX で実行している場合、デフォルトでは、Outside In Image Export は内部グラフィック・コードを使用してフォントやグラフィックをレンダリングします。オペレーティング・システムのネイティブ・グラフィック・サブシステムをかわりに使用するように選択することもできます。詳細は、7-9 ページの「UNIX でのレンダリング・オプションの構成」を参照してください。

7. 「Update」をクリックして変更を保存します。

次に注意事項を示します。

- ❖ ファイルをサムネイル作成のためにリファイナリに送信するには、各コンテンツ・サーバーでファイル・フォーマットと変換を構成する必要があります。詳細は、第6章「ジョブをリファイナリに送信するためのコンテンツ・サーバーの構成」を参照してください。
- ❖ 変換を受け入れるようにリファイナリを構成する必要があります。詳細は、7-6 ページの「受け入れられる変換の設定」を参照してください。
- ❖ コンテンツ・サーバーで表示されるサムネイルのサイズ変更の詳細は、6-17 ページの「サムネイルのサイズ変更」を参照してください。
- ❖ リファイナリでサムネイル作成を無効にしても、すでに作成されているサムネイルはコンテンツ・サーバーの検索結果ページに表示されます。これを表示しないようにするには、<content_server_install_dir>%config% ディレクトリにある config.cfg ファイルで AllowableAdditionalRenditions エントリから THUMBNAIL を削除します。たとえば、AllowableAdditionalRenditions=THUMBNAIL を AllowableAdditionalRenditions= に変更します。

UNIX でのレンダリング・オプションの構成

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ 内部グラフィック・コードを使用したレンダリング (デフォルト・オプション) (7-9 ページ)
- ❖ ネイティブ・グラフィック・サブシステムを使用したレンダリング (7-10 ページ)

内部グラフィック・コードを使用したレンダリング (デフォルト・オプション)

Inbound Refinery を UNIX で実行し、マルチページ TIFF ファイルまたはサムネイルを作成する場合、デフォルトでは、**Outside In Image Export** は内部グラフィック・コードを使用してフォントやグラフィックをレンダリングします。このため、実行している X Window System ディスプレイ・サーバー (X Server) へのアクセスや、Motif (Solaris) または LessTif (Linux) は必要ありません。使用可能フォントを検出できることのみが必要です。フォントは Image Export には含まれていません。

使用可能フォントを Image Export が検出できるように Inbound Refinery を構成するには、次のようにします。

1. Inbound Refinery コンピュータに Inbound Refinery ユーザーとしてログインします。
2. テキスト・エディタを使用して、<refinery_install_dir>/bin ディレクトリにある intradoc.cfg ファイルを開きます。
3. Image Export で使用されるフォント・ディレクトリへのパスを GDFONTPATH 変数に設定します。次に例を示します。

```
GDFONTPATH=/u1/work/idc4/GDFonts
```

GDFONTPATH の設定が処理の環境に組み込まれます。GDFONTPATH 変数が検出されない場合は、現行ディレクトリが使用されます。フォントをコールしても検出できない場合、Image Export はエラーで終了します。サポートされるのは TrueType フォント (*.ttf ファイルまたは *.ttc ファイル) のみです。また、Windows のフォントを UNIX システムにコピーするとき、フォントを表すファイル拡張子 (*.ttf または *.ttc) を小文字にする必要があることに注意してください。こうしないと、使用可能フォントの検索時に検出されません。

4. 変更内容を intradoc.cfg ファイルに保存します。
5. リファイナリを再起動します。



フォント・ディレクトリへのパスは「[Thumbnail Options](#)」ページに表示されます。ただし、このパスを編集するには、intradoc.cfg ファイルの GDFONTPATH 変数を使用する必要があります。

ネイティブ・グラフィック・サブシステムを使用したレンダリング

Image Export が内部グラフィック・コードではなくオペレーティング・システムのネイティブ・グラフィック・サブシステムを使用してフォントやグラフィックをレンダリングするように、Inbound Refinery を構成するには、次のようにします。

1. Inbound Refinery コンピュータに Inbound Refinery ユーザーとしてログインします。
2. Inbound Refinery コンピュータが、実行している X Window System ディスプレイ・サーバー (X Server) にアクセスできて、Motif (Solaris) または LessTif (Linux) が存在していることを確認してください。
3. 次の行を Inbound Refinery ユーザーの .profile 起動スクリプトに入力します。

```
DISPLAY=:0.0
export DISPLAY
```
4. 新しい .profile をソースに指定します (たとえば、/usr/bin/sh で、コマンド `..profile` を実行します)。
5. 次のコマンドを使用して、実行している X Server を使用するための権限を Outside In Image Export に付与します。

```
xhost +localhost
```
6. Inbound Refinery ユーザーがログインしたままの状態でもコンソールをロックします。
7. リファイナリにログインします。
8. 「**Conversion Settings**」 → 「**Additional Renditions**」を選択します。「[Additional Renditions](#)」ページが表示されます。
9. 「**Options**」をクリックします。「[Thumbnail Options](#)」ページが表示されます。
10. 「**Use native operating system's native graphics subsystem**」ラジオ・ボタンを選択します。
11. 「**Update**」をクリックします。

サード・パーティ・アプリケーション設定の構成

「[Third-Party Application Settings](#)」ページを使用して、変換時に使用されるサード・パーティ・アプリケーションの設定を構成します。Inbound Refinery では、サード・パーティ・アプリケーションは使用されません。サード・パーティ・アプリケーションを使用するアドオンがインストールされると、このページで設定が可能になります。詳細は、各変換アドオンのドキュメントを参照してください。

グラフィック変換のタイムアウト設定の構成

グラフィック変換のタイムアウト設定を構成するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Conversion Settings**」 → 「**Timeout Settings**」を選択します。「[Timeout Settings](#)」ページが表示されます。
3. 「**Graphics**」変換の「**Minimum (in minutes)**」、「**Maximum (in minutes)**」および「**Factor**」に値を入力します。詳細は、7-5 ページの「[タイムアウトの計算](#)」を参照してください。
4. 「**Update**」をクリックして変更を保存します。

「CONVERSION LISTING」 ページ

Conversion Listing [quick help](#)

Configure the conversion queue size and type of conversions that **ref1** should accept and attempt to convert. On this page, 0 means there is no limit to the number of jobs accepted.

General Queue Settings

Enter the maximum number of conversions allowed to be queued by ref1.

Enter the number seconds that ref1 should be considered busy when the maximum number of conversions are in the queue(s).

Conversions

<input type="checkbox"/> Accept	Maximum	Conversion	Conversion Description
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text" value="0"/>	Word	MS Word Conversion
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text" value="0"/>	Excel	MS Excel Conversion
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text" value="0"/>	PowerPoint	MS PowerPoint Conversion
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text" value="0"/>	MSProject	MS Project Conversion
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text" value="0"/>	Distiller	Distill PostScript into PDF
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text" value="0"/>	MSOut	MS Publisher Conversion

「Conversion Listing」 ページでは、受け入れられる変換とキューの最大値を設定できます。このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Conversion Listing**」を選択します。



重要: Ichitaro 変換および LegacyCustom 変換は、このバージョンの Inbound Refinery ではサポートされていません。

機能	説明
キューイング可能な変換の最大数を指定するフィールド	リファイナリでキューイング可能な変換ジョブの合計数を設定します。デフォルトは0（無制限）です。

機能	説明
リファイナリをビジー状態とみなす秒数を指定するフィールド	変換の最大数に達したときにリファイナリをビジー状態とみなす秒数を入力します。デフォルトは 120 (秒) です。リファイナリの変換ジョブの最大数に達すると、コンテンツ・サーバーは指定の秒数待機してから、リファイナリとの通信を再試行します。
変換の受け入れを指定するチェックボックス	チェック・ボックスを選択すると、コンテンツ・サーバーから送信されたそのタイプの変換ジョブを受け入れます。チェック・ボックスを選択解除すると、そのタイプの変換をリファイナリが受け入れません。すべてのチェック・ボックスを選択または選択解除するには、列見出しの横のチェック・ボックスを選択または選択解除します。デフォルトではすべての変換が受け入れられます。
最大変換数を指定する列	変換のタイプごとに（リファイナリのすべてのキューに対する）最大ジョブ数を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。
「Conversion」列	リファイナリで有効になっている各変換の名前。コンテンツ・サーバーで有効になっている変換の名前と一致する必要があります。詳細は、 第 6 章「ジョブをリファイナリに送信するためのコンテンツ・サーバーの構成」 を参照してください。
「Conversion Description」列	各変換の説明。
「Update」ボタン	変更内容を設定に保存します。 重要: リファイナリのエージェントである各コンテンツ・サーバーを再起動して、コンテンツ・サーバーのキューイングで変更をすぐに有効にします。コンテンツ・サーバーを再起動しないと、コンテンツ・サーバーがリファイナリを次にポーリングするときまで、リファイナリで受け入れられる変換の変更が認識されません。
「Reset」ボタン	最後に保存された設定に戻します。



注意: コンテンツ・サーバーとリファイナリの設定を使用して変換キューを管理する方法の詳細は、9-5 ページの「[リファイナリの変換キューの管理](#)」を参照してください。

「PRIMARY WEB-VIEWABLE RENDITION」 ページ

Primary Web-Viewable Rendition [quick help](#)

Inbound Refinery will attempt to convert each incoming file using the first selected method that supports conversion of the native file format.

- Convert to PDF using third-party applications [PDF Web-Viewable Options...](#)
- Convert to PDF using Outside In [PDF Web-Viewable Options...](#)
- Convert to PDF using OpenOffice
- Convert to multi-page Tiff using Outside In

- Convert to XML [XML Options...](#)

[Update](#) [Reset](#)

「Primary Web-Viewable Rendition」 ページでは、Inbound Refinery がプライマリの Web 表示可能レンディションを作成するときを使用できる変換方法を選択できます。このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Primary Web Rendition**」を選択します。

Inbound Refinery に含まれている Outside In Image Export を使用すると、ファイルをプライマリの Web 表示可能レンディションとしてマルチページ TIFF ファイルに変換できます。これにより、ユーザーは、TIFF ビューア・プラグインを備えた標準の Web ブラウザでファイルを表示できます。変換アドオンがインストールされていない場合、使用可能な変換方法は、Outside In を使用して、ネイティブ・ファイル・フォーマットをプライマリの Web 表示可能レンディションとしてマルチページ TIFF ファイルに変換する方法のみです。変換アドオンがインストールされている場合は、他の変換方法をこのページで設定できます。たとえば、PDF Converter がインストールされていると、サード・パーティ・アプリケーション、Outside In または OpenOffice を使用してネイティブ・ファイルを PDF に変換するオプションが表示されます。

Inbound Refinery は、各着信ファイルをネイティブ・ファイル・フォーマットに基づいて変換しようとします。最初に選択した方法でそのフォーマットの変換がサポートされない場合、Inbound Refinery は、2 番目に選択した方法でそのフォーマットがサポートされるかどうかを確認します（サポートされない場合はさらに順に確認します）。

Inbound Refinery は、フォーマット変換をサポートしている方法で最初に選択したものを使用してファイルを変換しようとします。

たとえば、PDF Converter コンポーネントをインストールしており、「Convert to PDF using third-party applications」オプションと「Convert to PDF using Outside In」オプションの両方を選択したとします。このとき、Microsoft Word ファイルを変換のためにリファイナリに送信します。Microsoft Word ファイル・フォーマットは、サード・パーティ・アプリケーション（Microsoft Word）を使用した PDF への変換でサポートされるため、Inbound Refinery は「Convert to PDF using third-party applications」の方法を使用して、プライマリの Web 表示可能レンディションとして PDF にファイルを変換しようとします。この方法が失敗した場合、Inbound Refinery は「Convert to PDF using Outside In」の方法を試行しません。ただし、JustWrite ファイルを変換のためにリファイナリに送信した場合、このファイル・フォーマットは「Convert to PDF using third-party applications」の方法を使用した PDF への変換ではサポートされません。したがって、Inbound Refinery は、このフォーマットが「Convert to PDF using Outside In」の方法でサポートされるかどうかを確認します。このフォーマットは Outside In でサポートされるため、Inbound Refinery は Outside In を使用してファイルを PDF に変換しようとします。

機能	説明
「Convert to multi-page Tiff using Outside In」チェック・ボックス	変換アドオンがインストールされていない場合、使用できる変換オプションはこれのみです。このオプションを選択すると、リファイナリは、Outside In による変換でサポートされるすべてのネイティブ・ファイル・フォーマットを、Outside In Image Export を使用してプライマリの Web 表示可能レンディションとしてマルチページ TIFF ファイルに変換しようとします。この変換方法が試行されるのは、ネイティブ・ファイル・フォーマットをサポートする最初の方法である場合のみです。Outside In Image Export を使用してマルチページ TIFF ファイルに変換できるファイル・フォーマットのリストは、 付録 A 「Outside In Image Export で変換されるファイル・フォーマット」 を参照してください。
「Update」ボタン	変更内容を設定に保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存された設定に戻します。

「ADDITIONAL RENDITIONS」 ページ

Additional Renditions [quick help](#)

Inbound Refinery will attempt to create the additional renditions that are selected.

Create Thumbnail Images using Outside In Options...

Create XML renditions for all supported formats XML Options...

Update Reset

「Additional Renditions」ページでは、Inbound Refinery が作成を試行する追加のレンディションを選択できます。このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Additional Renditions**」を選択します。

変換アドオンがインストールされていない場合、使用できる変換方法は、**Outside In** を使用して追加レンディションとしてファイルのサムネイルを作成することのみです。変換アドオンがインストールされている場合は、他の変換方法をこのページで設定できます。たとえば、XML Converter がインストールされている場合、追加レンディションとして XML ファイルを作成するオプションを使用できます。詳細は、各変換アドオンのドキュメントを参照してください。

機能	説明
「Create Thumbnail Images using Outside In」チェック・ボックス	このオプションを選択すると、リファイナリが Outside In Image Export を使用して、リファイナリで処理するすべてのファイルのサムネイルを作成します。
「Options」ボタン	「Thumbnail Options」 ページが表示され、サムネイル・オプションを設定できます。
「Update」ボタン	変更内容を設定に保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存された設定に戻します。

「THUMBNAIL OPTIONS」 ページ

Thumbnail Options [quick help](#)

Create Thumbnail Image from the Native Vault File

Page Number of Native Vault File to Use to Create Thumbnail Image

Thumbnail quality (1-100)

Show Gridlines in Thumbnail Image of Databases

Show Headings in Thumbnail Image of Databases

Show Gridlines in Thumbnail Image of Spreadsheets

Show Headings in Thumbnail Image of Spreadsheets

Use quick sizing

Use smooth sizing

Smooth sizing for grayscale graphics

Produce jpg thumbnails

Produce gif thumbnails

Produce png thumbnails

UNIX Rendering Options

Use native operating system's native graphics subsystem

Use Image Export internal graphics rendering

Font directory used by Image Export internal graphics rendering. (Display only)

「Thumbnail Options」ページでは、サムネイル設定（Inbound Refineryに含まれる Outside In Image Export を使用したサムネイル作成）を構成できます。このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」→「**Additional Renditions**」を選択してから、「Create Thumbnail Images using Outside In」の「Options」をクリックします。

機能	説明
「Create Thumbnail Image from the Native Vault File」チェック・ボックス	サムネイル・イメージをネイティブ・ファイルから作成するか、プライマリの Web 表示可能ファイルから作成するかを指定します。
「Page Number of Native Vault File to Use to Create Thumbnail Image」フィールド	サムネイル・イメージの作成に使用されるネイティブ・ファイルのページを指定します。デフォルト設定は 1 です。ネイティブ・ファイルの最初のページがサムネイル・イメージの作成に使用されます。
「Thumbnail Quality (1-100)」フィールド	サムネイルのイメージ品質を指定します。1～100の範囲で任意の数を使用できます。1が最低、100が最高の品質を示します。品質を上げると、圧縮率が低くなり、サムネイル・ファイルのサイズが大きくなります。デフォルト設定は 100 です。
「Show Gridlines in Thumbnail Image of Databases」チェック・ボックス	データベースのサムネイル・イメージにグリッド線を入れるかどうかを指定します。このオプションを選択すると、グリッド線が入ります。
「Show Headings in Thumbnail Image of Databases」チェック・ボックス	データベースのサムネイル・イメージに見出しを入れるかどうかを指定します。このオプションを選択すると、見出しが入ります。
「Show Gridlines in Thumbnail Image of Spreadsheets」チェック・ボックス	スプレッドシートのサムネイル・イメージにグリッド線を入れるかどうかを指定します。このオプションを選択すると、グリッド線が入ります。
「Show Headings in Thumbnail Image of Spreadsheets」チェック・ボックス	スプレッドシートのサムネイル・イメージに見出しを入れるかどうかを指定します。このオプションを選択すると、見出しが入ります。
「Use quick sizing」ボタン	このオプションを選択すると、カラー・グラフィックの変換が最速で行われます。ただし、変換されたグラフィックの品質は低くなります。

機能	説明
「Use smooth sizing radio」ボタン	このオプションを選択すると、元のグラフィックがより正確に表現されます。ただし、必要な処理が複雑になるため変換速度は少し低下します。これがデフォルト設定です。
「Smooth sizing for grayscale graphics」ボタン	このオプションを選択すると、グレースケール・グラフィックではスムーズ・サイジング・オプション、カラー・グラフィックではクイック・サイジング・オプションが使用されます。
「Produce jpg thumbnails」ボタン	すべてのサムネイルを JPG ファイルとして作成することを指定します。これは、デフォルトのサムネイル・ファイル・タイプ設定です。
「Produce gif thumbnails」ボタン	すべてのサムネイルを GIF ファイルとして作成することを指定します。
「Produce png thumbnails」ボタン	すべてのサムネイルを PNG ファイルとして作成することを指定します。
「Use native operating system's native graphics subsystem」ラジオ・ボタン (UNIX で実行している場合のみ使用可能)	この UNIX レンダリング・オプションを選択すると、 Outside In Image Export が、オペレーティング・システムのネイティブ・グラフィック・サブシステム (UNIX プラットフォームの X11) を使用してフォントやグラフィックをレンダリングすることが指定されます。 注意: このオプションが機能するのは、少なくとも 1 つの適切な出力ソリューションが存在する場合のみであることに注意してください。たとえば、UNIX \$DISPLAY 変数が有効な X Server を指していないが、 Image Export で必要な OSGD モジュールまたは WV_GD モジュール (あるいはその両方) が存在している場合、 Image Export のデフォルトは Image Export レンダリング・コードになります。
「Use Image Export internal graphics rendering」ラジオ・ボタン (UNIX で実行している場合のみ使用可能)	この UNIX レンダリング・オプションを選択すると、 Outside In Image Export が、内部グラフィック・コードを使用してフォントやグラフィックをレンダリングしようとするのが指定されます。これはデフォルト・オプションです。

機能	説明
「Font directory used by Image Export internal graphics rendering」フィールド（表示専用）	<p>Outside In Image Export が UNIX での内部グラフィック・レンダリングで使用するフォント・ディレクトリが表示されます（「Use Image Export internal graphics rendering」ラジオ・ボタンが選択されている場合）。フォント・ディレクトリのパスはこのページでは編集できません。編集するには、<refinery_install_dir>/bin ディレクトリにある <code>intradoc.cfg</code> ファイルで <code>GDFONTPATH</code> 変数を設定します。<code>GDFONTPATH</code> の設定が処理の環境に組み込まれます。</p> <p>注意：フォントは Image Export には含まれていません。Image Export が内部グラフィック・コードを使用してフォントとグラフィックをレンダリングしようとする場合、使用可能フォントをシステムが検出できる必要があります。サポートされるのは TrueType フォント（*.ttf ファイルまたは *.ttc ファイル）のみです。<code>GDFONTPATH</code> 変数が検出されない場合は、現行ディレクトリが使用されます。フォントをコールしても検出できない場合、Image Export はエラーで終了します。また、Windows のフォントを UNIX システムにコピーするとき、フォントを表すファイル拡張子（*.ttf または *.ttc）を小文字にする必要があることに注意してください。こうしないと、使用可能フォントの検索時に検出されません。</p>
「Update」ボタン	変更内容を設定に保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存された設定に戻します。

「THIRD-PARTY APPLICATION SETTINGS」 ページ

Third-Party Application Settings [quick help](#)

The configuration options listed below allow you to change settings that affect how external, third-party applications perform conversion operations.

OpenOffice

Configuration options that affect communication with the OpenOffice application.

Conversion Name: OpenOfficeToPDF Options...

CVista PdfCompressor

Configuration options that affect the conversion of TIFF files to PDF files with the PdfCompressor application.

Conversion Name: TIFFConversion Options...

Distiller Engine

Configuration options that affect the engine used for PostScript to PDF conversion and PDF optimization.

Conversion Name: *Multiple Conversions* Options...

Microsoft Word

Configuration options that affect the conversion of Word documents with the Word application.

Conversion Name: Word Options...

「Third-Party Application Settings」 ページでは、変換時に使用されるサード・パーティ・アプリケーションの設定を構成します。このページにアクセスするには、「Conversion Settings」 → 「Third-Party Application Settings」を選択します。

サード・パーティ・アプリケーションを使用する変換アドオンがインストールされると、このページにエントリが追加されます。各エントリには「Options」ボタンがあり、これをクリックすると、そのアプリケーションの構成オプションを含むページが表示されます。詳細は、各変換アドオンのドキュメントを参照してください。ほとんどのサード・パーティ・アプリケーションのオプションは、PDF Converter および Tiff Converter アドオンに関連しています。ただし、他のサード・パーティ・アプリケーションを使用する変換を制御するために、必要に応じてオプションを追加することが可能です。

「TIMEOUT SETTINGS」 ページ

Timeout Settings [quick help](#)

Timeout values for different conversion operations can be adjusted using the settings below. For details on how these settings are used to calculate the timeout value, click Quick Help.

	Minimum (minutes)	Maximum (minutes)	Factor
Graphics	<input type="text" value="5"/>	<input type="text" value="60"/>	<input type="text" value="3"/>
Tiff to PDF Conversion	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="3"/>
Native to PostScript	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="3"/>
PostScript to PDF	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="20"/>	<input type="text" value="4"/>
FrameMaker to PostScript	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="1"/>
PDF Post Production	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="1"/>

「Timeout Settings」 ページでは、タイムアウト設定を構成できます。詳細は、7-5 ページの「[タイムアウトの計算](#)」を参照してください。このページにアクセスするには、「**Conversion Settings**」 → 「**Timeout Settings**」を選択します。

Inbound Refinery に適用されるのは、グラフィック変換のタイムアウト設定のみです。追加のタイムアウト構成を必要とするアドオンがインストールされると、このページに設定が追加されます。詳細は、各変換アドオンのドキュメントを参照してください。

機能	説明
タイムアウトの「Minimum」、「Maximum」および「Factor」フィールド	<p>Inbound Refinery が、変換処理の完了を待機する時間を指定します。タイムアウト値（分）は次の方法で計算されます。</p> $\text{タイムアウト値 [分]} = (\text{[バイト単位のファイル・サイズ]} \times \text{タイムアウト係数}) / 60,000$ <p>たとえば、100,000 バイトのファイルを変換する場合、タイムアウト係数を 1 に設定すると、システムは変換処理が完了するまでに 1 分 40 秒しか待機しません (100,000 x 1 / 60,000 = 10/6)。処理されるコンテンツ・アイテムには、最低でも「Minimum」列に示される時間（分）が割り当てられますが、「Maximum」列の時間（分）を超えることはありません。計算されるタイムアウト値が最小値よりも小さい場合は、最小値が適用されます。計算されるタイムアウト値が最大値よりも大きい場合は、最大値が適用されます。</p>
「Update」ボタン	変更内容を設定に保存します。
「Reset」ボタン	最後に保存された設定に戻します。

リファイナリの変換設定の構成

8

リファイナリの状態の監視

概要

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [エージェントについて](#) (8-2 ページ)
- ❖ [リファイナリ・ログについて](#) (8-2 ページ)

タスク

- ❖ [リファイナリの状態の表示](#) (8-4 ページ)
- ❖ [リファイナリ・ログの表示](#) (8-4 ページ)
- ❖ [コンソール出力の表示](#) (8-4 ページ)
- ❖ [エージェントの状態の表示](#) (8-5 ページ)
- ❖ [エージェント・キューの表示](#) (8-5 ページ)
- ❖ [変換履歴の表示](#) (8-5 ページ)
- ❖ [エージェント・ログの表示](#) (8-6 ページ)

インタフェース

- ❖ [「Refinery Status」 ページ](#) (8-6 ページ)
- ❖ [「Refinery Logs」 ページ](#) (8-8 ページ)

- ❖ 「[Console Output](#)」 ページ (8-9 ページ)
- ❖ 「[Agent Status](#)」 ページ (8-10 ページ)
- ❖ 「[Items In Queue](#)」 ページ (8-11 ページ)
- ❖ 「[Conversion History](#)」 ページ (8-12 ページ)
 - 「[Conversion Detail](#)」 ページ (8-13 ページ)
- ❖ 「[Agent Logs](#)」 ページ (8-14 ページ)

エージェントについて

エージェントは、変換ジョブをリファイナリに送信する、コンテンツ・サーバーなどのエンティティです。リファイナリでは、変換の状態の情報とログをエージェントごとに分け、情報を確認しやすく、詳細を検索しやすくしています。

リファイナリ・ログについて

リファイナリに対して作成されるログ・ファイルには次の2つのタイプがあります。

- ❖ **リファイナリ・ログ**: リファイナリ・ログには、リファイナリ機能の一般的な情報が含まれます。エージェントのために実行される変換固有の情報（起動情報など）はありません。リファイナリが実行されると、1日に1つのログ・ファイルが生成されます。
- ❖ **リファイナリ・エージェント・ログ**: リファイナリ・エージェント・ログには、変換ジョブをリファイナリに送信するエージェントのために実行される変換固有の情報が含まれます。エージェントが少なくとも1つの変換ジョブをリファイナリに送ると、エージェントごとに1日に1つのログ・ファイルが生成されます。

ログのエントリは日時順にリストされます。エントリはイベントが発生すると該当するログ・ファイルに随時追加されます。次のタイプのログ・エントリが生成されます。

ログ・エントリ	説明
Info	状態情報を表示します。たとえば、起動情報または変換エンジン・アクションの説明です。
Error	発生したエラーを表示します。



注意: リファイナリ・ログ・エントリに付いているタイム・スタンプは、ログ・エントリが作成されたときを示します。必ずしもアクションが発生したときではありません。

詳細ロギングを有効にすることができます。詳細ロギングが有効になっていると、一般的なエージェントの状態情報、各変換エンジン・アクションの詳細な説明（たとえば、変換が起動された時刻、ファイルの詳細、変換ステップの詳細、変換結果など）およびエラーが、リファイナリ・エージェント・ログに記録されます。詳細ロギングが無効な場合は、一般的なエージェントの状態情報とエラーのみがリファイナリ・エージェント・ログに記録されます。詳細は、9-9 ページの「[詳細ロギングの有効化](#)」を参照してください。

ログ・ファイルには「Details」リンクが含まれることがあります。「Details」リンクをクリックすると、ログの詳細の表示と非表示が切り替わります。通常、ログの詳細は、スタック・ダンプまたはエラーが発生したコードへのトレース・バックです。

図 8-1 Inbound Refinery ログ・ファイルのサンプル

Inbound Refinery-- Log File Created: 11/30/06 11:07 AM Modified: 11/30/06 5:32 PM		
Type	Time	Description [Details]
Info	11/30/06 4:03 PM	The refinery accepted the job '165' from agent 'stellent_3'
Info	11/30/06 5:32 PM	'NativeOsUtils' component, '060913 (build \$Rev: 48765 \$)' version, extends NativeOsUtils feature(s)
Info	11/30/06 5:32 PM	'PDFConverterBasic' component, '2006_11_07(8.0 dev build 6)' version, extends NativeConversion feature(s)
Info	11/30/06 5:32 PM	'OpenOfficeConversion' component, '2006_11_1(build 4)' version, extends OpenOfficeConversion feature(s)
Error	11/30/06 5:32 PM	The required printer 'IDC PDF Converter' is not already installed. Queue monitoring will be turned off. [Details]
Info	11/30/06 5:32 PM	Server version 8.0-IR-dev ready and waiting for connection on port 5556, PID 2688.

リファイナリの状態の表示

すべてのリファイナリ・エージェントについて変換の現行の状態を表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. メイン・メニューの「**Home**」をクリックするか、ナビゲーション・メニューで「**Status**」 → 「**Refinery Status**」を選択します。「[Refinery Status](#)」ページが表示されます。



重要: リファイナリによって各エージェントが作成されるのは、エージェントが最初の変換ジョブをリファイナリに送信したときです。それまでは、リファイナリにはエージェントの情報はありません。

リファイナリ・ログの表示

リファイナリ・ログ・ファイルを表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. メイン・メニューの「**Home**」をクリックして「**Refinery Logs**」タブを選択するか、ナビゲーション・メニューで「**Status**」 → 「**Refinery Status**」を選択して「**Refinery Logs**」タブを選択します。「[Refinery Logs](#)」ページが表示されます。
3. ログのリンクをクリックすると、リファイナリ・ログが表示されます。リファイナリ・ログの詳細は、8-2 ページの「[リファイナリ・ログについて](#)」を参照してください。

コンソール出力の表示

コンソール出力を表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. メイン・メニューの「**Home**」をクリックして「**Console Output**」タブを選択するか、ナビゲーション・メニューで「**Status**」 → 「**Refinery Status**」を選択して「**Console Output**」タブを選択します。「[Console Output](#)」ページが表示されます。
 - 「**Update**」をクリックしてコンソール出力をリフレッシュします。
 - 「**Clear**」をクリックしてコンソール出力をクリアします。

エージェントの状態の表示

特定のリファイナリ・エージェントについて変換の現行の状態を表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Status**」→「<agent_name>」を選択するか、「[Refinery Status](#)」ページでエージェントの「**Actions**」メニューから「**View Detailed Status**」を選択します。「[Agent Status](#)」ページが表示されます。

エージェント・キューの表示

特定のリファイナリ・エージェントについて、変換前キューと変換後キューにあるアイテムを表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Status**」→「<agent_name>」を選択して「**Items in Queue**」タブを選択するか、「[Refinery Status](#)」ページでエージェントの「**Actions**」メニューから「**View Items In Queue**」を選択します。「[Items In Queue](#)」ページが表示されます。
3. 「**Refresh**」をクリックしてページの情報を更新します。

変換履歴の表示

特定のリファイナリ・エージェントについて変換履歴を表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Status**」→「<agent_name>」を選択して「**Conversion History**」タブを選択するか、「[Refinery Status](#)」ページでエージェントの「**Actions**」メニューから「**View Conversion History**」を選択します。「[Conversion History](#)」ページが表示されます。
3. 「**Content ID**」リンクをクリックすると、「[Conversion Detail](#)」ページが表示されます。

エージェント・ログの表示

特定のリファイナリ・エージェントについてログ・ファイルを表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Status**」 → 「<agent_name>」を選択して「**Agent Logs**」タブを選択するか、「**Refinery Status**」ページでエージェントの「**Actions**」メニューから「**View Agent Logs**」を選択します。「**Agent Logs**」ページが表示されます。
3. ログのリンクをクリックすると、リファイナリ・エージェント・ログが表示されます。リファイナリ・エージェント・ログの詳細は、8-2 ページの「**リファイナリ・ログについて**」を参照してください。



注意: 詳細ロギングを有効にすると、リファイナリ・エージェント・ログに各変換エンジン・アクションの詳しい説明を記録することができます。詳細は、9-9 ページの「**詳細ロギングの有効化**」を参照してください。

「REFINERY STATUS」 ページ

Agent Name	Current Status	Actions
cs1	Converting Word..	

「Refinery Status」ページでは、リファイナリ・エージェントの変換の状態をすべて表示できます。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

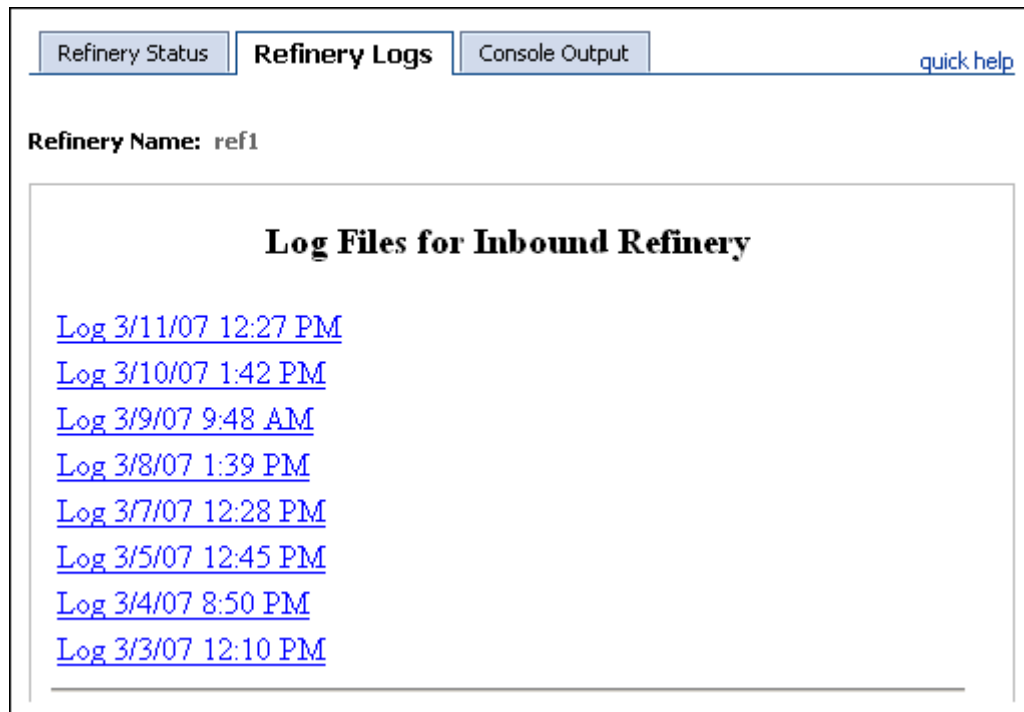
- ❖ メイン・メニューの「**Home**」をクリックします。
- ❖ ナビゲーション・メニューで「**Status**」 → 「**Refinery Status**」を選択します。

機能	説明
「Agent Name」列	少なくとも1つの変換ジョブをリファイナリに送信したエージェントの名前。
「Current Status」列	エージェントの現行の状態。
「Actions」メニュー	次のいずれかのアクションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 「View Detailed Status」: リファイナリ・エージェントの「Agent Status」ページが表示されます。 • 「View Items In Queue」: リファイナリ・エージェントの「Items In Queue」ページが表示されます。 • 「View Conversion History」: リファイナリ・エージェントの「Conversion History」ページが表示されます。 • 「View Agent Logs」: リファイナリ・エージェントの「Agent Logs」ページが表示されます。



重要: リファイナリによって各エージェントが作成されるのは、エージェントが最初の変換ジョブをリファイナリに送信したときです。それまでは、リファイナリにはエージェントの情報はありません。

「REFINERY LOGS」 ページ

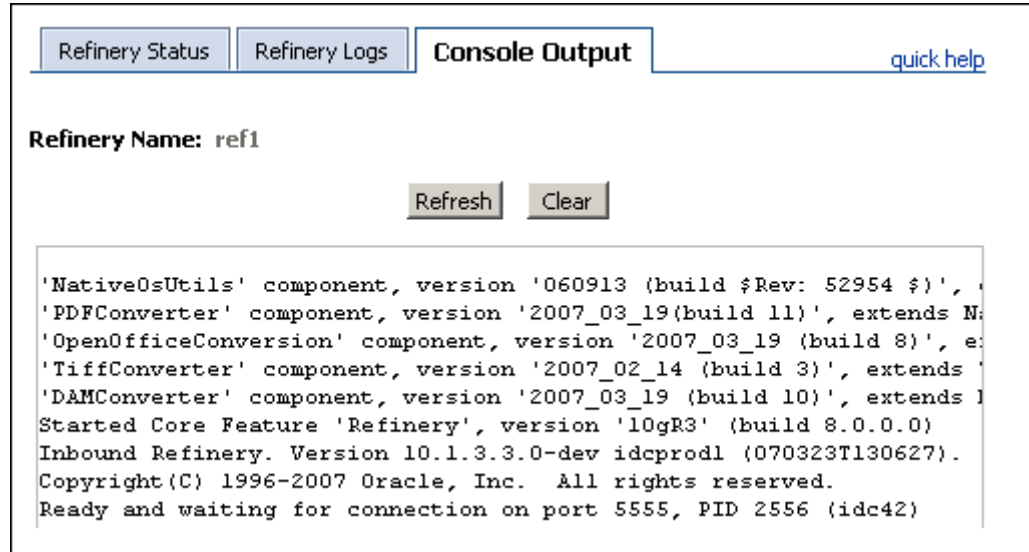


「Refinery Logs」 ページでは、リファイナリ・ログを表示できます。リファイナリ・ログの詳細は、8-2 ページの「[リファイナリ・ログについて](#)」を参照してください。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ メイン・メニューの「**Home**」をクリックし、「**Refinery Logs**」タブを選択します。
- ❖ ナビゲーション・メニューで「**Status**」 → 「**Refinery Status**」を選択し、「**Refinery Logs**」タブを選択します。

機能	説明
リファイナリ・ログのリンク	リンクをクリックすると、リファイナリ・ログが表示されます。
「Details」リンク	リファイナリ・ログが表示されているときに「Details」リンクをクリックすると、ログの詳細の表示と非表示が切り替わります。通常、ログの詳細は、スタック・ダンプまたはエラーが発生したコードへのトレース・バックです。

「CONSOLE OUTPUT」 ページ



「Console Output」ページでは、リファイナリのコンソール出力を表示できます。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ メイン・メニューの「Home」をクリックし、「Console Output」タブを選択します。
- ❖ ナビゲーション・メニューで「Status」→「Refinery Status」を選択し、「Console Output」タブを選択します。

機能	説明
「Refresh」ボタン	コンソール出力を更新します。
「Clear」ボタン	コンソール出力をクリアします。

「AGENT STATUS」 ページ

Agent Status Items In Queue Conversion History Agent Logs [quick help](#)

Agent Name: cs1

Queue Monitor Status: Conversion queues are being monitored normally.

Current Status: Converting Word..

Currently Converting:

Content ID	Conversion Job ID	Title	Native File	Content Type
ref1_000025	43	doc222	c:/ucm/ref1/vault/	ADACCT

「Agent Status」 ページでは、特定のエージェントについて現行の変換の状態を表示できます。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ ナビゲーション・メニューで「Status」 → 「<agent_name>」を選択します。
- ❖ 「Refinery Status」 ページでエージェントの「Actions」メニューから「View Detailed Status」を選択します。

機能	説明
「Agent Name」	少なくとも1つの変換ジョブをリファイナリに送信したエージェント（たとえば、コンテンツ・サーバー）の名前。
「Current Status」	エージェントの現行の状態。
「Content ID」列	現在リファイナリがエージェントのために変換しているコンテンツ・アイテムのコンテンツ ID。
「Conversion Job ID」列	コンテンツ・アイテムの変換ジョブ ID。
「Title」列	コンテンツ・アイテムのタイトル。
「Native File」列	ネイティブ・ファイルの名前。
「Type」列	コンテンツ・アイテムを変換するために割り当てられている変換タイプ。

「ITEMS IN QUEUE」 ページ

Agent Status	Items In Queue	Conversion History	Agent Logs	quick help		
Agent Name: cs1		<input type="button" value="Refresh"/>				
Pre-Converted Queue: 2 items						
Conversion J	Content ID	Title	Content Type	Security Grou	Account	Conversion
49	ref1_000031	video2	ADACCT	Public		Digital Media
50	ref1_000032	ppt1	ADACCT	Public		PowerPoint
Post-Converted Queue: 1 item						
Conversion J	Content ID	Title	Content Type	Security Grou	Account	Conversion
48	ref1_000030	doc1	ADACCT	Public		Word

「Items In Queue」 ページでは、エージェントの変換前キューおよび変換後キューのアイテムを表示できます。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ ナビゲーション・メニューで「Status」 → 「<agent_name>」を選択して、「Items In Queue」タブを選択します。
- ❖ 「Refinery Status」 ページでエージェントの「Actions」メニューから「View Items In Queue」を選択します。

機能	説明
「Agent Name」	少なくとも1つの変換ジョブをリファインナリに送信したエージェント（たとえば、コンテンツ・サーバー）の名前。
「Pre-Converted Queue」	エージェントの変換前キューで、リファインナリによる変換を待機しているアイテムを表示します。
「Post-Converted Queue」	エージェントの変換後キューにあるアイテムを表示します。これらは、リファインナリによって変換されたアイテムで、エージェントに戻されるのを待機しています。
「Refresh」 ボタン	このページのキューの状態を更新します。

「CONVERSION HISTORY」 ページ

Content ID	Conversion Job ID	Title	Conversion Type	Conversion Status
refinery1	1	refinery1	Word	Success
ref2	2	ref2	Excel	Success
0005	3	0005	Word	Success
0006	4	0006	ImageThumbnail	Success
0007	5	0007	ImageThumbnail	Success

「Conversion History」 ページでは、特定のエージェントについて過去の変換の状態を表示できます。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ ナビゲーション・メニューで「Status」 → 「<agent_name>」を選択して、「Conversion History」タブを選択します。
- ❖ 「Refinery Status」 ページでエージェントの「Actions」メニューから「View Conversion History」を選択します。

機能	説明
「Agent Name」	変換ジョブをリファインナリに送信したエージェント（たとえば、コンテンツ・サーバー）の名前。
「Content ID」列	変換されたコンテンツ・アイテムのコンテンツ ID。コンテンツ ID をクリックすると、「Conversion Detail」 ページが表示されます。
「Conversion Job ID」列	変換されたコンテンツ・アイテムの変換ジョブ ID。
「Title」列	変換されたコンテンツ・アイテムのタイトル。
「Conversion Type」列	コンテンツ・アイテムを変換するために使用された変換タイプ。
「Conversion Status」列	変換の状態。

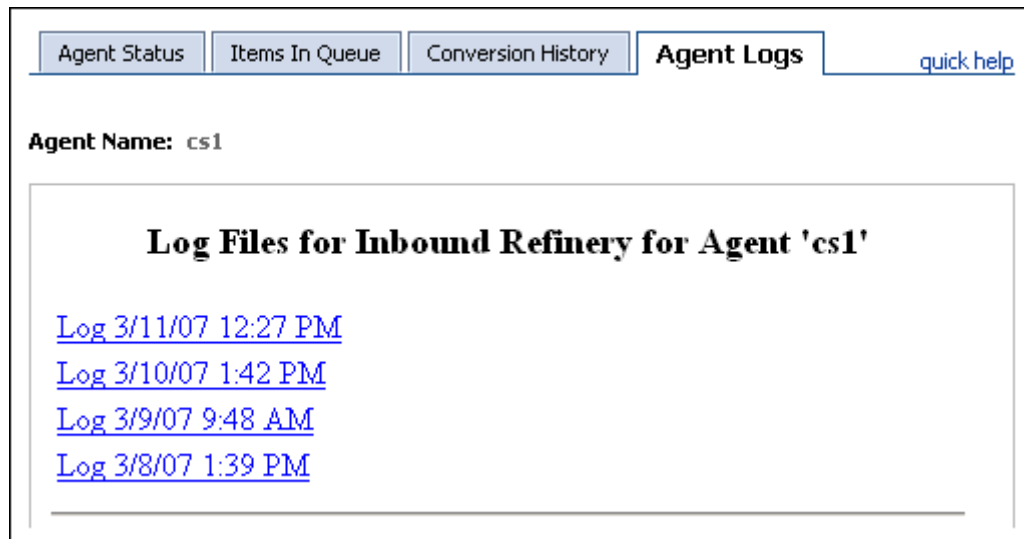
「Conversion Detail」 ページ

Conversion Detail	
Content ID:	ref1_000031
Conversion Job ID:	49
Title:	video2
Content Type:	ADACCT
Revision Label:	1
Security Group:	Public
Account:	
Conversion:	Digital Media Video
Message:	Success
Release Date:	March 23, 2007 6:13 PM
Time Converted:	March 23, 2007 6:18 PM
Extra Conversion Parameters:	

「Conversion Detail」 ページでは、特定の変換の詳細を表示できます。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ ナビゲーション・メニューで「**Status**」 → 「<agent_name>」を選択して、「**Conversion History**」タブを選択し、コンテンツ ID をクリックします。
- ❖ 「[Refinery Status](#)」 ページでエージェントの「**Actions**」メニューから「**View Conversion History**」を選択し、「[Conversion History](#)」 ページでコンテンツ ID をクリックします。

「AGENT LOGS」 ページ



「Agent Logs」 ページでは、特定のリファイナリ・エージェントのログを表示できます。このページにアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ❖ ナビゲーション・メニューで「Status」 → 「<agent_name>」を選択して、「Agent Logs」タブを選択します。
- ❖ 「Refinery Status」 ページでエージェントの「Actions」メニューから「View Agent Logs」を選択します。

機能	説明
リファイナリ・エージェント・ログのリンク	リンクをクリックすると、リファイナリ・エージェント・ログが表示されます。
「Details」リンク	リファイナリ・エージェント・ログが表示されているときに「Details」リンクをクリックすると、ログの詳細の表示と非表示が切り替わります。通常、ログの詳細は、スタック・ダンプまたはエラーが発生したコードへのトレース・バックです。



注意: 詳細ロギングを有効にすると、リファイナリ・エージェント・ログに各変換エンジン・アクションの詳しい説明を記録することができます。詳細は、9-9 ページの「[詳細ロギングの有効化](#)」を参照してください。

9

リファイナリ管理の実行

概要

この項の内容は次のとおりです。

概念

- ❖ [リファイナリのユーザーについて](#) (9-2 ページ)

タスク

- ❖ [ユーザー管理の実行](#) (9-2 ページ)
- ❖ [リファイナリの変換キューの管理](#) (9-5 ページ)
- ❖ [エージェント管理の実行](#) (9-9 ページ)
- ❖ [リファイナリ構成情報の表示](#) (9-10 ページ)
- ❖ [リファイナリのシステム監査情報の表示](#) (9-11 ページ)
- ❖ [リファイナリ・プロバイダの管理](#) (9-12 ページ)
- ❖ [Web サーバー・フィルタの構成](#) (9-12 ページ)
- ❖ [管理サーバーの使用](#) (9-12 ページ)
- ❖ [動的および静的なレイアウト・ファイルのパブリッシュ](#) (9-13 ページ)
- ❖ [管理ユーティリティの使用](#) (9-13 ページ)
- ❖ [アクティブ・ウイルス・スキャンと Inbound Refinery](#) (9-15 ページ)
- ❖ [日付フォーマットの変更](#) (9-16 ページ)
- ❖ [タイムゾーンの設定](#) (9-17 ページ)

インタフェース

- ❖ [「User Profile」 ページ](#) (9-18 ページ)
- ❖ [「Agent Management」 ページ](#) (9-19 ページ)
- ❖ [「Delete Agent」 ページ](#) (9-20 ページ)
- ❖ [「Configuration Information」 ページ](#) (9-21 ページ)
- ❖ [「System Audit Information」 ページ](#) (9-22 ページ)
- ❖ [「Providers」 ページ](#) (9-24 ページ)
- ❖ [「Configure Web Server Filter」 ページ](#) (9-25 ページ)
- ❖ [管理サーバー](#) (9-26 ページ)

ユーザー管理の実行

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [リファイナリのユーザーについて](#) (9-2 ページ)
- ❖ [ユーザー・プロファイルの編集](#) (9-3 ページ)
- ❖ [リファイナリの認証およびユーザーの管理](#) (9-3 ページ)

リファイナリのユーザーについて

リファイナリのユーザーを認証するには次の2つの方法があります。

- ❖ リファイナリは自らの認証を管理できます。この場合、リファイナリのユーザーは `refadmin` のみになります。`refadmin` ユーザーには、`admin`、`sysmanager` および `refineryadmin` という3つのロールがあります。
- ❖ コンテンツ・サーバーは、リファイナリの認証を管理できます。この場合、コンテンツ・サーバーはリファイナリのユーザー・ベースを所有します。つまり、デフォルトの管理者ユーザー・アカウントは `refadmin` ではなく `sysadmin` になります。さらに、コンテンツ・サーバーのユーザーをリファイナリのサブ管理者として構成し、リファイナリにログインして管理する権限を付与できます。

リファイナリの認証およびユーザーの管理の詳細は、9-3 ページの [「リファイナリの認証およびユーザーの管理」](#) を参照してください。

ユーザー・プロファイルの編集

リファイナリ・ユーザーのパスワードを変更し設定（レイアウトおよびスキン）を表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。リファイナリが自らの認証を管理している場合は、**refadmin** ユーザーとしてログインする必要があります。コンテンツ・サーバーがリファイナリの認証を管理している場合は、**sysadmin** ユーザーとしてログインするか、リファイナリのサブ管理者となるよう構成されたユーザーとしてログインする必要があります。詳細は、9-3 ページの「[リファイナリの認証およびユーザーの管理](#)」を参照してください。
2. メイン・メニューの「**User Profile**」をクリックします。「**User Profile**」ページが表示されます。
3. パスワードを変更できるのは、リファイナリに **refadmin** ユーザーとしてログインした場合のみです。**refadmin** ユーザーのデフォルト・パスワードは **idc** です。コンテンツ・サーバーの **sysadmin** ユーザーまたはリファイナリのサブ管理者としてリファイナリにログインした場合、ユーザーのパスワードは変更できません。コンテンツ・サーバーでのみ、**sysadmin** ユーザーおよびリファイナリのサブ管理者のパスワードを変更できます。
4. リファイナリのレイアウトとスキンはすべてのユーザーについて変更できます。デフォルトは次のとおりです。
 - **Layout:** Trays
 - **Skin:** Oracle
5. 最後に保存された設定に戻すには、「**Reset**」をクリックします。
6. 「**Update**」をクリックして変更を保存します。



重要: **refadmin** ユーザーまたは **sysadmin** ユーザーを使用している場合、パスワードをデフォルトから変更することを強くお勧めします。

リファイナリの認証およびユーザーの管理

デフォルトでは、リファイナリは自らの認証を管理し、ユーザーは **refadmin** のみです。ただし、インストール中またはインストール後に、リファイナリの認証を管理するようにコンテンツ・サーバーを構成できます（コンテンツ・サーバーがリファイナリのユーザー・ベースを所有します）。

リファイナリの認証およびリファイナリ・ユーザーを管理するようにコンテンツ・サーバーを構成するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。

2. 「Administration」 → 「Providers」 を選択します。「Providers」 ページが表示されます。
3. 「Providers」 表で、編集するリファイナリ・プロバイダについて、「Actions」 列の「Info」 をクリックします。「Provider Information」 ページが表示されます。



注意: リファイナリをコンテンツ・サーバーに対するプロバイダとして追加する方法の詳細は、5-9 ページの「リファイナリ・プロバイダの構成」を参照してください。

4. 「Edit」 をクリックします。「Add Outgoing Provider」 または 「Edit Outgoing Provider」 ページが表示されます。
5. 「Proxied」 チェック・ボックスを選択すると、コンテンツ・サーバーはリファイナリの認証を管理できます。コンテンツ・サーバーはリファイナリのユーザー・ベースを所有するようになります。「Proxied」 チェック・ボックスを選択しないと、リファイナリが自ら認証を管理し、ユーザーは **refadmin** のみになります。
6. 「Update」 をクリックして変更内容を保存し、「Providers」 ページに戻ります。
7. コンテンツ・サーバーを再起動します。
8. リファイナリのデフォルトのシステム管理ユーザーが、**sysadmin** ユーザーになりました。他のコンテンツ・サーバー・ユーザーをリファイナリのサブ管理者として構成する（リファイナリにログインして管理する権限を付与する）には、次のようにします。
 - a. コンテンツ・サーバーのユーザー管理アプレットを起動します。
 - b. 「Security」 → 「Permissions by Role」 を選択します。「Permissions by Role」 画面が表示されます。
 - c. 「Add New Role」 をクリックします。
 - d. ロールの名前を **refineryadmin** とします。



重要: ロールの名前は正確に **refineryadmin** とする必要があります。

- e. 「OK」 をクリックします。
- f. **Public** グループと **Secure** グループの両方について **refineryadmin** ロールに **Read (R)** 権限を付与します。オプションで、アプレット権限を付与することもできます。
- g. 「Close」 をクリックして、「Permissions by Role」 画面を終了します。
- h. コンテンツ・サーバーを再起動します。
- i. リファイナリを再起動します。
- j. **Web** サーバーを再起動します。



重要: 変更を SecurityInfo.hda ファイルに適用するには、Web サーバーを再起動する必要があります。また、コンテンツ・サーバーとリファイナリを再起動した後で、Web サーバーを再起動するようにしてください。

- k. ユーザー管理のメイン画面で、コンテンツ・サーバーを選択して「Edit」をクリックします。「Edit User」画面が表示されます。
- l. 「Roles」タブを選択します。
- m. 「Add Role」をクリックします。
- n. refineryadmin ロールを選択します。
- o. 「OK」をクリックします。
- p. 手順 k ～ o を繰り返して、refineryadmin ロールをその他のユーザーに追加します。refineryadmin ロールを持つユーザーは、リファイナリにログインして管理することができます。
- q. 「OK」をクリックして「Edit User」画面を終了します。

リファイナリの変換キューの管理

リファイナリは、コンテンツ・サーバーに対するプロバイダとして設定されます。ファイルがコンテンツ・サーバーにチェックインされると、ネイティブ・ファイルのコピーが vault ディレクトリ（ネイティブ・ファイル・リポジトリ）に格納されます。ネイティブ・ファイルは、ファイルが最初に作成されたときのフォーマットです（たとえば、Microsoft Word）。

ファイル・フォーマットが変換されるように設定されている場合は、コンテンツ・サーバーは変換前キューに変換ジョブを作成します。次に、コンテンツ・サーバーは、アクティブなリファイナリ・プロバイダ（変換を受け入れるように構成されている、ビジー状態ではないリファイナリ）のいずれかに変換ジョブを配信しようとします。コンテンツ・サーバーは変換パラメータをアクティブなリファイナリに送信します。

リファイナリは、変換パラメータを受け取ると、次のデータをコンテンツ・サーバーに戻します。

❖ JobAcceptStatus

状態	説明	コンテンツ・サーバーの処理
ERROR	リクエストの処理中に予期しないエラーが発生しました。	コンテンツ・アイテムが WWW 生成状態のままになり、コンテンツ・サーバーの変換前キューから削除されます。

状態	説明	コンテンツ・サーバーの処理
NEVER_ACCEPT	リファイナリが、この変換を受け入れるように構成されていません。このジョブを受け入れることはありません。	変換ジョブが変換前キューからクリアされるまで、リファイナリ・プロバイダが使用不可とマークされます。
ACCEPT	リファイナリが変換ジョブを受け入れます。	ジョブは変換前キューから削除されてリファイナリに転送され、変換されることとなります。
BUSY	リファイナリは変換ジョブを受け入れることができますが、キューの最大限度または特定の変換に対する変換ジョブの最大数に達しています。	コンテンツ・サーバーに指定した RefineryBusyTimeSeconds が経過するまで、リファイナリ・プロバイダは使用されません。

- ❖ **JobAcceptStatusMsg:** リファイナリの状態を説明する文字列。リファイナリとコンテンツ・サーバーの両方でロギングされます。
- ❖ **JobCanAccept:** ジョブが受け入れられたかどうかを示すブール値。
- ❖ **RefineryBusyTimeSeconds:** リファイナリを使用しないことが望ましい秒数（これは強制されないため、リファイナリはリクエストの受入れを停止しません）。

リファイナリがジョブを受け入れない場合、コンテンツ・サーバーは、使用可能な次のリファイナリに対して試行します。リファイナリがジョブを受け入れるか、最大転送時間に達するまで、コンテンツ・サーバーはジョブの転送試行を続けます。最大転送時間に達すると、ジョブがコンテンツ・サーバーの変換前キューから削除され、コンテンツ・アイテムは WWW 生成状態のままになります。

リファイナリがジョブを受け入れると、コンテンツ・サーバーは、変換データと変換対象ファイルを含む ZIP ファイルをリファイナリにアップロードします。また、コンテンツ・サーバーは、変換ジョブの追跡に使用するエントリを **RefineryJobs** 表に入れます。リファイナリは、変換ジョブを変換前キューに入れます。

次に、リファイナリは、指定された変換を実行しようとします。必要であれば、適切な変換アドオンをコールします。変換ジョブの処理を終了すると、変換ジョブを変換後キューに入れます。コンテンツ・サーバーはリファイナリを定期的にポーリングして、**RefineryJobs** 表の変換ジョブが完了したかどうかを確認します。リファイナリが変換ジョブの処理を完了したことを報告すると、コンテンツ・サーバーは変換済ファイル（たとえば、Web 表示可能なサムネイル・ファイルや PDF ファイル）をリファイナリからダウンロードし、変換ジョブを変換後キューに入れ、必要であれば変換後機能を起動します。

リファイナリのキュー管理設定は、コンテンツ・サーバーとリファイナリの両方で構成できます。次のコンテンツ・サーバーのページを使用して、リファイナリのキューを管理できます。

- ❖ 「[Refinery Conversion Options](#)」 ページ: このページには、コンテンツ・サーバーとすべてのリファイナリ・プロバイダとの相互作用に影響する設定が含まれます。
 - **Seconds between successive transfer attempts:** 各変換ジョブの連続転送試行間隔 (秒) を設定できます。デフォルトでは、コンテンツ・サーバーは 10 秒間待機してから、変換ジョブをいずれかのリファイナリ・プロバイダに送信しようとします。
 - **Minutes allowed to transfer a single job:** 各変換ジョブの転送にかけられる時間 (分) を設定できます。デフォルトでは、コンテンツ・サーバーは変換ジョブをいずれかのリファイナリ・プロバイダへ 30 分間で転送しようとします。
 - **Native file compression threshold:** ネイティブ・ファイルの圧縮に関するしきい値サイズ (MB 単位) を設定できます。デフォルトのしきい値サイズは 1024MB (1GB) です。ネイティブ・ファイルがしきい値サイズを超えないかぎり、ファイルは圧縮されてからコンテンツ・サーバーによってリファイナリに転送されます。この設定により、非常に大きなファイル (たとえば、大きなビデオ・ファイルなど) を圧縮するためのオーバーヘッドを回避できます。すべてのネイティブ・ファイルを転送前に圧縮しない場合は、ネイティブ・ファイルの圧縮のしきい値サイズを 0 に設定します。
 - **When the time for transferring a job expires, the conversion should fail:** 変換ジョブの最大転送時間に達した場合、変換ジョブはコンテンツ・サーバーの変換前キューから削除され、コンテンツ・アイテムの状態が WWW 生成のままになります。この場合に、変換ジョブを失敗させるかどうかを指定できます。変換ジョブを失敗させるように指定した場合、コンテンツ・アイテムは WWW 生成状態のままになります。また、変換エラーと「Resubmit」ボタンが「Content Information」ページに表示されます。これを使用して、ユーザーは、コンテンツ・アイテムを変換のために再発行できます。
 - **When a conversion sent to an Inbound Refinery fails, set the conversion to 'Refinery Passthru':** 失敗した変換をコンテンツ・サーバーで処理する方法を指定できます。ファイルがリファイナリに送信されてから変換が失敗した場合、リファイナリ通過を有効にすることで、ネイティブ・ファイルのコピーを `weblayout` ディレクトリに配置するようにコンテンツ・サーバーを構成できます。



注意: ファイルが変換のためにリファイナリに送信されると、ネイティブ・ファイルのコピーのかわりに HCST ファイルを使用することはできません。リファイナリに送信されないファイルをコンテンツ・サーバーで処理する方法の構成の詳細は、6-12 ページの「[PassThru ファイルに関するコンテンツ・サーバーの構成](#)」を参照してください。

- ❖ 「[Add Outgoing Provider](#)」または「[Edit Outgoing Provider](#)」ページ: このページでは、個々のリファイナリ・プロバイダの設定を指定できます。
 - **Handles Inbound Refinery Conversion Jobs:** プロバイダで変換ジョブを処理するかどうかを指定できます。このオプションを選択しないと、コンテンツ・サーバーはこのプロバイダとの間で変換ジョブを転送しません。
 - **Inbound Refinery Read Only Mode:** コンテンツ・サーバーが新しい変換ジョブをリファイナリ・プロバイダに送信しないようにするには、このオプションを使用できます。ただし、リファイナリ・プロバイダは、変換ジョブが終了するとジョブを戻します。

次のリファイナリのページには、リファイナリのキューを管理するための情報と設定が含まれます。

- ❖ 「[Items In Queue](#)」ページ: このページでは、特定のリファイナリ・エージェント（コンテンツ・サーバーなど）について変換前キューと変換後キューのアイテムを表示できます。
- ❖ 「[Conversion Listing](#)」ページ: このページでは、特定のリファイナリ・エージェント（コンテンツ・サーバーなど）について変換前キューと変換後キューのアイテムを表示できます。
 - **Maximum number of conversions allowed to be queued:** リファイナリによってキューイング可能な変換ジョブの合計数を設定できます。デフォルトは0（無制限）です。
 - **Number of seconds the refinery should be considered busy:** 変換の最大数に達したときに、リファイナリをビジーとみなす秒数を入力できます。デフォルトは120（秒）です。リファイナリの変換ジョブの最大数に達すると、コンテンツ・サーバーは指定の秒数待機してから、リファイナリとの通信を再試行します。
 - **Maximum conversions:** 変換のタイプごとに（リファイナリのすべてのキューに対する）最大ジョブ数を指定できます。デフォルトは0（無制限）です。

エージェント管理の実行

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [詳細ロギングの有効化](#) (9-9 ページ)
- ❖ [エージェントの削除](#) (9-9 ページ)

詳細ロギングの有効化

リファイナリ・エージェントごとに詳細ロギングを有効にすることができます。詳細ロギングが有効になっていると、一般的なエージェントの状態情報、各変換エンジン・アクションの詳細な説明（たとえば、変換が起動された時刻、ファイルの詳細、変換ステップの詳細、変換結果など）およびエラーが、リファイナリ・エージェント・ログに記録されます。詳細ロギングが無効な場合は、一般的なエージェントの状態情報とエラーのみがリファイナリ・エージェント・ログに記録されます。

リファイナリ・エージェントについて詳細ロギングを有効にするには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Refinery Administration**」 → 「**Agent Management**」を選択します。「[Agent Management](#)」ページが表示されます。
3. リファイナリ・エージェントの「**Enable Verbose Logging**」チェック・ボックスを選択します。
4. 最後に保存された設定に戻すには、「**Reset**」をクリックします。
5. 「**Update**」をクリックして変更を保存します。

エージェントの削除

リファイナリ・エージェントを削除できるのは、そのリファイナリ・エージェントの変換前キューまたは変換後キューに変換ジョブがない場合のみです。リファイナリ・エージェントを削除するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. 「**Refinery Administration**」 → 「**Agent Management**」を選択します。「[Agent Management](#)」ページが表示されます。
3. リファイナリ・エージェントの「**Actions**」メニューから「**Delete Agent**」を選択します。「[Delete Agent](#)」ページが表示されます。

- リファイナリ・エージェントの変換前キューまたは変換後キューに変換ジョブがある場合、リファイナリ・エージェントは削除できません。リファイナリへの新しい変換ジョブの送信を停止するには、コンテンツ・サーバーでリファイナリ・プロバイダを編集し、「**Inbound Refinery Read Only Mode**」チェック・ボックスを選択します。詳細は、5-11 ページの「[リファイナリ・プロバイダの編集](#)」を参照してください。

キューが空になったら、「**Delete Agent**」をクリックします。

リファイナリ構成情報の表示

Web ベースの Inbound Refinery インタフェースを使用してリファイナリの構成情報を表示するには、次のようにします。

- リファイナリにログインします。
- ナビゲーション・メニューの「**Refinery Administration**」→「**Configuration Information**」を選択します。「[Configuration Information](#)」ページが表示されます。このページでは、主要なシステム設定の概要が表示されます。サーバーのパラメータとオプション、インストール・ディレクトリ、インターネット・プロパティ、データベース・プロパティ、バージョン情報、Java プロパティおよびコンテンツ・セキュリティ・オプションが含まれます。また、インストールされているすべてのサーバー・コンポーネントまたはカスタム・コンポーネントがリストされ、現在有効か無効かも表示されます。



注意：「[Configuration Information](#)」ページは情報提供のみを目的としているため、ここでは設定を変更できません。設定を変更する場合は、別のページで行う必要があります（9-12 ページの「[管理サーバーの使用](#)」および9-14 ページの「[システム・プロパティ・ユーティリティの使用](#)」を参照してください）。

リファイナリのシステム監査情報の表示

Web ベースの Inbound Refinery インタフェースを使用してリファイナリのシステム監査情報を表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**System Audit Information**」を選択します。「**System Audit Information**」ページが表示されます。このページには、リファイナリのシステム監査情報が表示されます。問題のトラブルシューティングやサーバーのパフォーマンス調整を行うときに役立ちます。

このページの「**General Information**」セクションには次の情報が表示されます。

- システムが受け取るリクエストが多すぎないかどうかに関する情報。受け取るリクエストが多すぎる場合、負荷パフォーマンスに関する電子メールがシステム管理者に送信されます。
- システムのメモリー・キャッシュの情報。メモリー不足エラーが発生した場合のトラブルシューティングで役立ちます。これは、多数のユーザーと大容量データを扱うコンテンツ・サーバーを実行するときに重要です。
- 現在実行している Java スレッドに関する情報。これはエラーの原因を判別するときに役立ちます。
- すべての監査メッセージのリスト。

リファイナリのトレースは、セクションごとにアクティブ化できます。アクティブなセクションのトレースが「**Console Output**」ページに表示されます。セクション・トレースは、問題が発生しているサーバーのセクションを判別するとき、または特定のセクションの詳細を表示するときに役立ちます。セクションを追加するには、新たなセクションを加えたカンマ区切りリストを作成します。トレース可能なセクションのリストは、「**Tracing Sections Information**」見出しの横の情報アイコンをクリックすると表示されます。このリストには簡単な説明も含まれます。ワイルド・カード文字*がサポートされます。つまり、`schema*`と指定すると、`schema`で始まるすべてのセクションがトレースされます。

セクションのトレースでは詳細な出力がサポートされる場合もあります。詳細出力がサポートされているアクティブなセクションの詳しいトレースを調べるには、「**Full Verbose Tracing**」を有効にします。



重要: 「**Save**」を選択して「**Update**」をクリックしないかぎり、このページで設定したすべてのオプションは、リファイナリを再起動したときに失われます。

リファイナリ・プロバイダの管理

リファイナリ・プロバイダを構成する必要はありません。Web ベースの Inbound Refinery インタフェースを使用してリファイナリ・プロバイダの情報を表示するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**Providers**」を選択します。「**Providers**」ページが表示されます。

WEB サーバー・フィルタの構成

Web ベースの Inbound Refinery インタフェースを使用してリファイナリの Web サーバー・フィルタを構成するには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**Filter Administration**」を選択します。「**Configure Web Server Filter**」ページが表示されます。このページを使用して、リファイナリに対する Web サーバー・フィルタの通信を構成およびトラブルシューティングします。

管理サーバーの使用

管理サーバーは、リファイナリまたはコンテンツ・サーバーの起動、停止および再起動に使用する管理ツールです。また、多くのシステム設定の確認や編集、およびコンポーネントの管理も可能です。

インストール時に、リファイナリを管理するために管理サーバーをインストールして構成するかどうか、またはリファイナリを同じコンピュータの既存の管理サーバーに追加するかどうかを選択できます。インストール後に、既存の管理サーバーにリファイナリを追加することもできます。詳細は、4-10 ページの「[管理サーバーへのリファイナリの追加](#)」を参照してください。

管理サーバーにアクセスするには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**Admin Server**」を選択します。[管理サーバー](#)が表示されます。



注意: 管理サーバーの使用の詳細は、Content Server に含まれるドキュメントを参照してください。

動的および静的なレイアウト・ファイルの パブリッシュ

動的および静的なレイアウト・ファイルのパブリッシュするには、次のようにします。

1. リファイナリにログインします。
2. 動的なレイアウト・ファイルのパブリッシュするには、「**Refinery Administration**」→「**Actions**」→「**Publish dynamic layout files**」を選択します。
PUBLISH_WEBLAYOUT_FILES サービスが実行されます。すべての動的なリファイナリ・レイアウト・ファイル（.css ファイルおよび .js ファイル）が、`<refinery_install_dir>/shared/config/templates` ディレクトリから `weblayout` ディレクトリにパブリッシュされます。このサービスは、リファイナリをカスタマイズする場合に使用します。



注意: リファイナリを再起動するたびに PUBLISH_WEBLAYOUT_FILES サービスも実行されます。

3. 静的なレイアウト・ファイルのパブリッシュするには、「**Refinery Administration**」→「**Actions**」→「**Publish static layout files**」を選択します。
PUBLISH_STATIC_FILES サービスが実行されます。すべての静的なレイアウト・ファイル（グラフィック・ファイル）が、`<refinery_install_dir>/shared/publish` ディレクトリから `weblayout` ディレクトリにパブリッシュされます。このサービスは、リファイナリをカスタマイズする場合に使用します。



注意: PUBLISH_STATIC_FILES サービスは、リファイナリを再起動する際には実行されません。実行に非常に長い時間がかかるためです。このサービスは、リファイナリをカスタマイズするときに手動で実行する必要があります。



注意: Inbound Refinery のカスタマイズの詳細は、Content Server に含まれるドキュメントを参照してください。

管理ユーティリティの使用

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [システム・プロパティ・ユーティリティの使用](#) (9-14 ページ)
- ❖ [コンポーネント・ウィザード・ユーティリティの使用](#) (9-14 ページ)

システム・プロパティ・ユーティリティの使用

システム・プロパティ・ユーティリティは、サーバーでローカルに実行する必要があるスタンドアロン・アプリケーションです (Java アプレットではありません)。

- ❖ **Microsoft Windows:** 「スタート」 → 「プログラム」 → 「Stellent Content Server」 → 「<refinery_instance>」 → 「Utilities」 → 「System Properties」を選択します。
- ❖ **UNIX:** システム・プロパティ・スクリプトを実行します。これは、Inbound Refinery のインストール・ディレクトリの bin サブディレクトリにあります。

システム・プロパティ・ユーティリティを使用して、次のアプリケーション設定を確認および編集できます。

- インターネット構成の設定 (下の重要な注意事項を参照)
- サーバー構成の設定 (たとえば、システム・ロケールやタイムゾーン)
- ローカライゼーション設定 (ロケールの有効化、無効化または編集)
- 一部の重要なファイルおよびディレクトリのパス

次に重要な注意事項を示します。

- ❖ システム・プロパティを使用して変更できる設定の一部 (特に「Internet」タブのオプション) は、適切なシステム運用にとって重要です。このようなシステムにとって重要な設定を編集するときは、十分に注意してください。誤った値に設定すると、Inbound Refinery システム全体が停止することがあります。
- ❖ システム・プロパティのオプションのほとんどは、管理サーバーを使用して設定することもできます。
- ❖ 変更を行った場合、変更内容を有効にするにはリファイナリを再起動する必要があります。
- ❖ システム・プロパティ・ユーティリティの使用の詳細は、Content Server に含まれるドキュメントを参照してください。

コンポーネント・ウィザード・ユーティリティの使用

コンポーネント・ウィザード・ユーティリティは、カスタム・コンポーネントの作成プロセスを自動化する開発ツールです。コンポーネント・ウィザードを使用すると、新しいコンポーネントの作成、既存のコンポーネントの変更、リファイナリまたはコンテンツ・サーバーで使用するためのコンポーネントのパッケージ化を行うことができます。また、コンポーネント・ウィザードを使用して、リファイナリまたはコンテンツ・サーバーでコンポーネントのインストール、アンインストール、有効化および無効化を行うことができます。



注意: コンポーネント・ウィザード・ユーティリティの使用方法およびコンポーネント開発の詳細は、『Working with Components』やその他の開発者向け Content Server ドキュメントを参照してください。

アクティブ・ウイルス・スキャンと INBOUND REFINERY

Inbound Refinery を Windows で実行するとき、Inbound Refinery および Content Server の一部のディレクトリに対するアクティブ・ウイルス・スキャンのために変換が失敗することがあります。

次の Content Server ディレクトリをアクティブ・ウイルス・スキャンから除外します。

- ❖ `<content_server_install_dir>%<instance_name>%weblayout%`
- ❖ `<content_server_install_dir>%<instance_name>%vault%`
- ❖ `<content_server_install_dir>%<instance_name>%shared%`
- ❖ `<content_server_install_dir>%<instance_name>%data%`
- ❖ `<content_server_install_dir>%<instance_name>%search%`



技術ヒント: `vault%~temp%` ディレクトリは、スキャン対象として最も重要であるため除外しないでください。

次の Inbound Refinery ディレクトリをアクティブ・ウイルス・スキャンから除外します。

- ❖ `<inbound_refinery_install_dir>%vault%temp%`
- ❖ `<inbound_refinery_install_dir>%vault%`
- ❖ `<inbound_refinery_install_dir>%weblayout%`
- ❖ `<inbound_refinery_install_dir>%shared%`
- ❖ `<inbound_refinery_install_dir>%data%`



技術ヒント: これらのディレクトリのいずれかをスキャンする必要がある場合は、ディレクトリのアクティブ・スキャンではなく、Content Server コンピュータおよび Inbound Refinery コンピュータでオフピーク時に物理ディスク・スキャンを実行することをお勧めします。また、最適な結果を得るためには、ローカルのウイルス対策プログラムを使用してローカル・ドライブをスキャンしてください。

日付フォーマットの変更

デフォルトの英語 (U.S.) ロケールでは年を表すために 2 桁 ('yy') が使用され、1969 ~ 2068 の範囲で解釈されます。つまり、65 は 1965 ではなく 2065 とみなされます。英語 (U.S.) ロケールで 1969 よりも前の年を正しく解釈するには、このロケールのデフォルトの日付フォーマットを変更し、4 桁を使用して年を表すようにします ('yyyy')。



注意: 英語 (英国) ロケールは年に 4 桁を使用しているため、この問題は発生しません。

英語 (U.S.) のデフォルト日付フォーマットを変更するには、次のようにします。

1. システム・プロパティ・アプレットを起動します。
 - ❖ **Windows:** Windows の「スタート」メニューで「プログラム」→「Stellent Inbound Refinery」→「[Instance Name]」→「Utilities」→「System Properties」を選択します。
 - ❖ **UNIX:** SystemProperties ユーティリティを起動します。これは、リファイナリのインストール・ディレクトリの /bin サブディレクトリにあります。
2. 「Localization」タブを開きます。
3. ロケールのリストで「English-US」エントリを選択して「**Edit**」をクリックします。「Configure Locale」ダイアログが表示されます。
4. 2 桁 ('yy') ではなく 4 桁 ('yyyy') の年を使用するように日付フォーマットを変更します。
5. 編集が終了したら、「**OK**」をクリックして「Configure Locale」ダイアログを閉じます。
6. 「**OK**」をクリックして変更を適用し、システム・プロパティを終了します。
7. リファイナリを停止して再起動します (これを行わないと変更内容が有効になりません)。

タイムゾーンの設定

Inbound Refinery のインストール時に、選択したシステム・ロケールのデフォルト・タイムゾーンの使用を指定したとします。この場合、インストーラはオペレーティング・システムのタイムゾーンを自動的に検出して、それに応じてリファイナリのタイムゾーンを設定しようとします。特定のシナリオでは、オペレーティング・システムのタイムゾーンが認識できないことがあります。タイムゾーンは UTC タイムゾーン（世界協定時）に設定されます。これは、GMT（グリニッジ標準時）と同じです。

その後、次のようにタイムゾーンを手動で設定する必要があります。

1. システム・プロパティ・アプレットを起動します。
 - ❖ **Windows:** Windows の「スタート」メニューで「プログラム」→「Stellent Inbound Refinery」→「[Instance Name]」→「Utilities」→「System Properties」を選択します。
 - ❖ **UNIX:** SystemProperties ユーティリティを起動します。これは、リファイナリのインストール・ディレクトリの /bin サブディレクトリにあります。
2. 「Server」タブを開きます。
3. 「System Timezone」ドロップダウン・リストからリファイナリで使用するタイムゾーンを選択します。
4. 「OK」をクリックして変更を適用し、システム・プロパティを終了します。
5. リファイナリを停止して再起動します（これを行わないと変更内容が有効になりません）。

「USER PROFILE」 ページ

User Profile [quick help](#)

User Name: sysadmin

Layout:

Skin:

「User Profile」 ページでは、refadmin または sysadmin ユーザーの設定を変更できます。このページにアクセスするには、メイン・メニューの「User Profile」をクリックします。


機能	説明
「Password」 フィールド	refadmin または sysadmin ユーザーの新しいパスワードを入力します。
「Confirm password」 フィールド	refadmin または sysadmin ユーザーの新しいパスワードを確認のために再入力します。
「Layout」 ドロップダウン・メニュー	レイアウトのビューを選択します。デフォルトのビューは「Trays」です。
「Skin」 ドロップダウン・メニュー	レイアウトのスキンを選択します。デフォルトのスキンは「Oracle」です。
「Update」 ボタン	変更内容を設定に保存します。
「Reset」 ボタン	最後に保存された設定に戻します。

「AGENT MANAGEMENT」 ページ

Agent Management [quick help](#)

Refinery Name: ref1

Agent Management

Agent Name	Current Status	Agent Options	Actions
cs1	Idle. Waiting For Content...	<input checked="" type="checkbox"/> Enable Verbose Logging	

「Agent Management」 ページでは、リファイナリの各エージェント（リファイナリに少なくとも1つの変換ジョブを送信したエージェント）の状態を表示できます。また、エージェントの詳細ロギングの有効化やエージェントの削除も行うことができます。このページにアクセスするには、ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**Agent Management**」を選択します。

機能	説明
「Agent Name」列	少なくとも1つの変換ジョブをリファイナリに送信したエージェントの名前。
「Current Status」列	エージェントの現行の状態。
「Agent Options」列	「 Enable Verbose Logging 」チェック・ボックスを選択して、対応するエージェント・ログでの詳細ロギングを有効にします。
「Actions」メニュー	次のいずれかのアクションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 「View Detailed Status」: リファイナリ・エージェントの「Agent Status」ページが表示されます。 • 「View Conversion History」: リファイナリ・エージェントの「Conversion History」ページが表示されます。 • 「View Agent Logs」: リファイナリ・エージェントの「Agent Logs」ページが表示されます。 • 「Delete Agent」: エージェントを削除できる「Delete Agent」ページが表示されます。

機能	説明
「Update」 ボタン	変更内容を設定に保存します。
「Reset」 ボタン	最後に保存された設定に戻します。

「DELETE AGENT」 ページ

Delete Agent [quick help](#)

Agent Name: cs1

Queue Monitor Status: Conversion queues are being monitored normally.

Delete Status: The agent cs1 cannot be deleted when there are items in the conversion queues. Both queues must be empty before proceeding.

Pre-Converted Queue: 2 items

Conversion J	Content ID	Title	Content Type	Security Gro	Account	Conversion
49	ref1_000031	video2	ADACCT	Public		Digital Media
50	ref1_000032	ppt1	ADACCT	Public		PowerPoint

Post-Converted Queue: 0 items

No items to display.

「Delete Agent」 ページでは、リファイナリのエージェントを削除できます。このページにアクセスするには、「[Agent Management](#)」 ページでエージェントの「Actions」メニューから「Delete Agent」を選択します。

機能	説明
エージェントの情報	エージェントの現行の状態について情報が提供されます。エージェントを削除できるのは、変換前キューと変換後キューにジョブがない場合のみです。
「Delete Agent」 ボタン	エージェントを削除します。
「Refresh」 ボタン	このページの情報を更新します。

「CONFIGURATION INFORMATION」 ページ

Configuration Information for ref1

[Administration](#) --> [Configuration Info](#)

System Configuration

Server Name: ref1
Version: 10.1.3.3.0-dev idcprod1 (070309T044801) (Build:7.2.0.177) [Server Configurations](#)

Install Directory: c:/ucm/ref1/ [Directory Details](#)

Features And Components

Number of Installed Features: 6 [Feature Details](#)

Number of Enabled Components: 4 [Enabled Component Details](#)

Number of Disabled Components: 0

Options And Others

Auto Number Prefix:
Use Accounts: FALSE [Server Options](#)
NtlmSecurity Enabled: FALSE

Allow get copy for user with read privilege: FALSE
Allow only original contributor to check out: FALSE [Content Security Details](#)

Java Version: 1.5.0_07 [Java Properties](#)

「Configuration Information」 ページでは、主要なシステム設定の概要が表示されます。サーバーのパラメータとオプション、インストール・ディレクトリ、インターネット・プロパティ、データベース・プロパティ、バージョン情報、Java プロパティおよびコンテンツ・セキュリティ・オプションが含まれます。また、インストールされているすべてのサーバー・コンポーネントまたはカスタム・コンポーネントがリストされ、現在有効か無効かも表示されます。このページにアクセスするには、ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**Configuration Information**」を選択します。



注意: 「Configuration Information」 ページは情報提供のみを目的としているため、ここでは設定を変更できません。設定を変更する場合は、別のページで行う必要があります (9-12 ページの「[管理サーバーの使用](#)」および9-14 ページの「[システム・プロパティ・ユーティリティの使用](#)」を参照してください)。

「SYSTEM AUDIT INFORMATION」 ページ

「System Audit Information」 ページでは、リファイナリのシステム監査情報を表示できます。このページにアクセスするには、ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**System Audit Information**」を選択します。このページには、リファイナリのシステム監査情報が表示されます。問題のトラブルシューティングやサーバーのパフォーマンス調整を行うときに役立ちます。

このページの「General Information」セクションには次の情報が表示されます。

- ❖ システムが受け取るリクエストが多すぎないかどうかに関する情報。受け取るリクエストが多すぎる場合、負荷パフォーマンスに関する電子メールがシステム管理者に送信されます。
- ❖ システムのメモリー・キャッシュの情報。メモリー不足エラーが発生した場合のトラブルシューティングで役立ちます。これは、多数のユーザーと大容量データを扱うコンテンツ・サーバーを実行するときに重要です。
- ❖ 現在実行している Java スレッドに関する情報。これはエラーの原因を判別するとき役に立ちます。

❖ すべての監査メッセージのリスト。

リファイナリのトレースは、セクションごとにアクティブ化できます。アクティブなセクションのトレースが「**Console Output**」ページに表示されます。セクション・トレースは、問題が発生しているサーバーのセクションを判別するとき、または特定のセクションの詳細を表示するときに役立ちます。セクションを追加するには、新たなセクションを加えたカンマ区切りリストを作成します。トレース可能なセクションのリストは、「**Tracing Sections Information**」見出しの横の情報アイコンをクリックすると表示されます。このリストには簡単な説明も含まれます。ワイルド・カード文字*がサポートされます。つまり、**schema***と指定すると、**schema** で始まるすべてのセクションがトレースされます。

セクションのトレースでは詳細な出力がサポートされる場合もあります。詳細出力がサポートされているアクティブなセクションの詳しいトレースを調べるには、「**Full Verbose Tracing**」を有効にします。



重要: 「**Save**」を選択して「**Update**」をクリックしないかぎり、このページで設定したすべてのオプションは、リファイナリを再起動したときに失われます。

「PROVIDERS」 ページ

Providers					
Provider	Description	Type	Connect:	Last Activity Date	Action
SystemServerSocket	System Server Socket	incoming	good	3/11/07 2:57 PM	Info Test
DefaultFileStore	Default File Store Provi	FileStore	good		Test

Create a New Provider		
Provider Type	Description	Action
outgoing	Configuring an outgoing provider.	Add
database	Configuring a database provider.	Add
incoming	Configuring an incoming provider.	Add
preview	Configuring a preview provider.	Add
ldapuser	Configuring an LDAP user provider.	Add

「Providers」 ページでは、リファイナリのプロバイダ情報を表示できます。このページにアクセスするには、ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**Providers**」を選択します。リファイナリ・プロバイダを構成する必要はありません。

「CONFIGURE WEB SERVER FILTER」 ページ

Configure Web Server Filter

Disable GZIP Compression FALSE ▾

By default, the content server compresses the HTML response pages for performance reasons. You may wish to disable it if CGI_RECEIVE_DUMP or CGI_DEBUG is enabled.

Logging Options

CGI_DEBUG

Log summary of data and headers sent between the web server filter and the Content Server.

CGI_SEND_DUMP

Log data and headers sent from the web server filter to the Content Server.

CGI_RECEIVE_DUMP

Log data and headers sent from the Content Server to the web server filter.

「Configure Web Server Filter」 ページでは、リファイナリに対する Web サーバー・フィルタの通信を構成およびトラブルシューティングできます。このページにアクセスするには、ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」 → 「**Filter Administration**」を選択します。

管理サーバー



管理サーバーは、リファイナリまたはコンテンツ・サーバーの起動、停止および再起動に使用する管理ツールです。また、多くのシステム設定の確認や編集、およびコンポーネントの管理も可能です。このページにアクセスするには、ナビゲーション・メニューで「**Refinery Administration**」→「**Admin Server**」を選択します。

インストール時に、リファイナリを管理するために管理サーバーをインストールして構成するかどうか、またはリファイナリを同じコンピュータの既存の管理サーバーに追加するかどうかを選択できます。インストール後に、既存の管理サーバーにリファイナリを追加することもできます。詳細は、4-10 ページの「[管理サーバーへのリファイナリの追加](#)」を参照してください。



注意: 管理サーバーの使用の詳細は、Content Server に含まれるドキュメントを参照してください。

10

INBOUND REFINERY の問題の トラブルシューティング

概要

この項の内容は次のとおりです。

- ❖ [リファイナリの問題のトラブルシューティング・プロセス](#) (10-2 ページ)
- ❖ [リファイナリのインストールの問題](#) (10-4 ページ)
- ❖ [リファイナリの設定と実行の問題](#) (10-5 ページ)
- ❖ [サムネイル作成の問題](#) (10-10 ページ)
- ❖ [ファイル表示の問題](#) (10-10 ページ)

リファイナリの問題のトラブルシューティング・プロセス

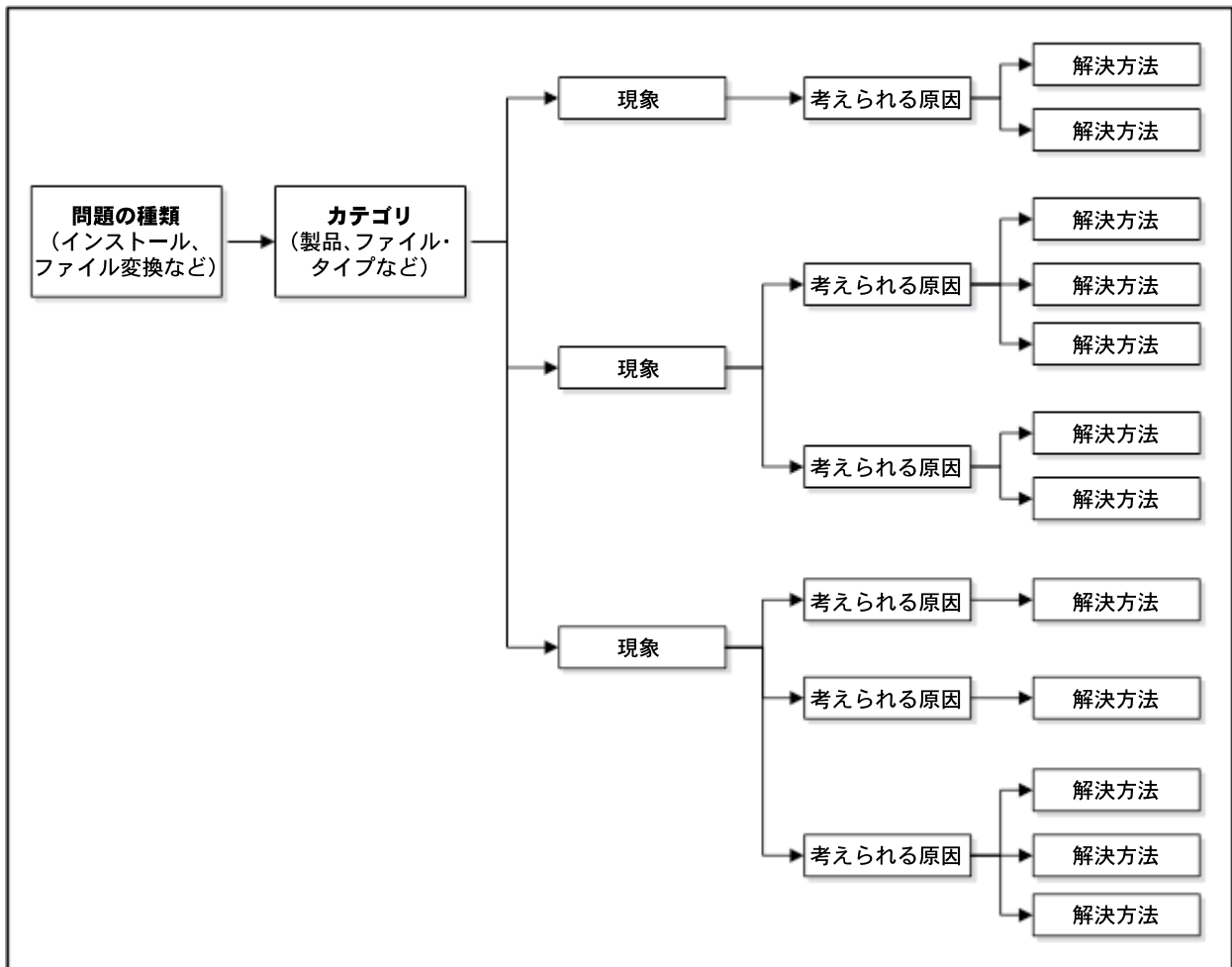
リファイナリの問題をトラブルシューティングするときは、次に示す基本的なトラブルシューティングの手順を実行する必要があります。



注意: 多くの場合、リファイナリの問題のトラブルシューティングを始める前に、変換製品について入手可能な情報をすべて把握しておくが役立ちます。製品のドキュメントを読むことをお勧めします。また、製品のインストール方法、構成方法および処理の仕組みを理解するようにしてください。

1. 発生している問題の種類を特定します。たとえば、発生する問題の種類としては、製品のインストール、製品のアップグレードまたはファイルの変換があります。問題の種類に対応する項に進みます。
2. 問題のカテゴリを特定します。たとえば、どの製品のインストールに問題があるかを確認します。あるいは、変換しようとしているファイルの種類を確認します。該当するカテゴリの項に進みます。
3. 発生している問題の現象を特定します。たとえば、ソフトウェアのインストール時にエラー・メッセージが発生することがあります。あるいは、1つのファイルを変換できないことがあります。または、同じタイプのすべてのファイルを変換できないことがあります。また、ファイルは変換されるが、出力に特定の問題がある場合があります。カテゴリの状態リストから該当する現象を検索します。
4. 現象に対して考えられる原因の表を確認して、推奨されている解決方法を試行します。
5. 推奨されるすべての解決方法を試行しても問題が解決しない場合は、Oracle サポート・サービスに連絡してください。

図 10-1 リファイナリの問題のトラブルシューティング・プロセス



リファイナリのインストールの問題

Inbound Refinery のインストールの問題をトラブルシューティングする際の重要な注意事項を次に示します。

- ❖ Inbound Refinery は、Content Server と同じマシンにインストールすることも、別のマシンにインストールすることもできます。多くの変換が行われる場合は、パフォーマンスを維持するために Inbound Refinery を Content Server マシンとは別にすることをお勧めします。
- ❖ Inbound Refinery のインストールの詳細は、『Inbound Refinery インストールेशन・ガイド』を参照してください。

現在、リファイナリのインストールの問題についての記載はありません。

リファインナリの設定と実行の問題

Inbound Refinery の設定と実行の問題として次のような現象が発生します。

- ❖ [Inbound Refinery がアプリケーションまたはサービスとして実行されない](#) (10-5 ページ)
- ❖ [Inbound Refinery がアプリケーションとして実行されるがサービスとしては実行されない](#) (10-6 ページ)
- ❖ [Inbound Refinery サービスが停止する](#) (10-7 ページ)
- ❖ [インストール後にリファインナリにログインできない](#) (10-8 ページ)
- ❖ [リファインナリ・エラー: Unable to convert, native application reported: "Permission denied"](#) (10-10 ページ)

Inbound Refinery がアプリケーションまたはサービスとして実行されない

Inbound Refinery がアプリケーションとしてもサービスとしても実行されません。Inbound Refinery をコマンドラインから実行しようとする、次のエラーが発生します。

```
Error: Cannot read the config.cfg.
```

考えられる原因	解決方法
Sun Java が Inbound Refinery コンピュータにインストールされていません。Sun Java は、コンテンツ・サーバー・コンピュータと Inbound Refinery コンピュータの両方にインストールする必要があります。	Inbound Refinery を再インストールして Sun JVM を再インストールします。
	<p>コンテンツ・サーバー・コンピュータの Sun Java ファイルを Inbound Refinery コンピュータにコピーします。</p> <pre><refinery_install_dir>%bin%ディレクトリにある intradoc.cfg ファイルを開き、 JAVA_EXE パスが正しいことを確認します。</pre> <p>Sun Java を http://java.sun.com/downloads/ からダウンロードして、Inbound Refinery コンピュータにインストールします。</p> <pre><refinery_install_dir>%bin%ディレクトリにある intradoc.cfg ファイルを開き、 JAVA_EXE パスが正しいことを確認します。</pre>

Inbound Refinery がアプリケーションとして実行されるがサービスとしては実行されない

Inbound Refinery がアプリケーションとして実行されますが、サービスとしては実行されません。場合によっては、サービスを起動したときに次のエラー・メッセージを受け取ります。

Error 1069: The service did not start due to a logon failure.

考えられる原因	解決方法
エラー 1069 を受け取った場合は、Inbound Refinery サービスに関連付けられているユーザーに、サービスとしてログオンする権限が与えられていません。	Inbound Refinery サービスに関連付けられているユーザーが有効であり、サービスとしてログオンする権限を持っていることを確認します。
Inbound Refinery サービスに問題があります。	Inbound Refinery コンピュータを再起動します。
	Inbound Refinery をアプリケーションとして実行してから、サービスとしての実行を再試行します。Inbound Refinery を一度アプリケーションとして実行することで、サービスの問題が解消することがあります。
	Inbound Refinery でサービスを削除してから再び追加します。

Inbound Refinery サービスが停止する

Inbound Refinery サービスを起動すると短期間実行するが、その後失敗して停止します。

考えられる原因	解決方法
リファイナリの intradoc.cfg ファイルの Java オプション設定。	intradoc.cfg ファイルで Inbound Refinery 接続に関する Java オプション設定を変更します。詳細は、10-7 ページの「 intradoc.cfg ファイルでの Java オプションの設定 」を参照してください。

intradoc.cfg ファイルでの Java オプションの設定

1. `<refinery_install_dir>%bin%` ディレクトリにある intradoc.cfg ファイルをテキスト・エディタで開きます。
2. まず次の設定を試行します。
`JAVA_SERVICE_EXTRA_OPTIONS=-Xrs`
3. intradoc.cfg ファイルに対する変更内容を保存して、Inbound Refinery サービスを再起動します。
4. 最初の変更が正しく行われなかった場合は、再度 intradoc.cfg ファイルを開いて次の設定を試行します。
`JvmCommandLine=$JAVA_EXE $JAVA_SERVICE_EXTRA_OPTIONS $APPEND_CLASSPATH $CLASSPATH $STARTUPCLASS`
5. intradoc.cfg ファイルに対する変更内容を保存して、Inbound Refinery サービスを再起動します。

インストール後にリファイナリにログインできない

インストール後にリファイナリにログインしようとする、次のようなエラーを受け取ります。

Content Server Access Denied

Access denied to Content Server managed resource. Error getting user credentials from proxied user cache. Unable to open file c:/ucm/cs1/data/users/proxied/ref1/userdb.txt. c:/ucm/cs1/data/users/proxied/ref1/userdb.txt contains an invalid path.

考えられる原因	解決方法
リファイナリはコンテンツ・サーバーに対してプロキシ設定されていますが、 InboundRefinerySupport コンポーネントがコンテンツ・サーバーでインストールおよび有効化されていません。	コンテンツ・サーバーに InboundRefinerySupport コンポーネントをインストールして有効にします。

ファイルが断続的に WWW 生成状態になる

Inbound Refinery を Windows 2003 で実行するとき、ファイルの状態が断続的に WWW 生成で中断されます。変換エラーはなく、再発行するとファイルが正常に変換されます。

考えられる原因	解決方法
<p>これは、Windows 2003 におけるファイルのロックと削除に関する既知の問題に直結しています。Content Server が UNIX プラットフォームにあり、Windows 2003 マシンとの接続に Samba が使用されるときによく発生します。ただし、Windows 2003 上で Inbound Refinery を使用しており、Inbound Refinery が Content Server とは物理的に別のマシンにある場合にも、この問題が発生することがあります。</p> <p>この Windows 2003 の問題をよく理解するためには、Microsoft Web サイトのナレッジベースにある次の記事を参照してください。</p> <p>http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;885451</p> <p>http://support.microsoft.com/kb/811492</p>	<p>Microsoft のナレッジベースのエントリで説明されている問題が発生していることを確認するために、リモート・クライアントを使用して Windows 2003 マシンのいくつかのファイルを削除します。ファイル削除で最大 40 秒の遅延があれば、Windows 2003 のロックと削除の問題である可能性が高くなります。Microsoft ではこの問題について 2 つの解決方法を示しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows 2003 対象のホットフィックスを用意しており、リクエストがあった場合のみ提供します。ただし、Microsoft では、この問題で深刻な影響がないかぎり、次のサービス・パックまで待つことを薦めています。 2. Microsoft が提案するもう 1 つの解決方法は、Windows 2003 サーバーの便宜的ロックを無効にすることです。この便宜的ロックを無効にする解決方法は、ファイルの書込み時に使用される通常のファイル・ロックには影響しません。便宜的ロックはファイル・ロック・プロセスの速度を低下させるため、問題を引き起こしている場合は無効にしても支障ありません。便宜的ロックの詳細は、Samba ヘルプ・ファイルに含まれています。 <p>Windows 2003 サーバーで便宜的ロックを無効にする方法の詳細は、次に示す Microsoft の記事を参照してください。</p> <p>http://support.microsoft.com/kb/296264</p>

リファイナリ・エラー : Unable to convert, native application reported: "Permission denied"

Inbound Refinery をサービスとして実行していますが、ドキュメントが変換されず、次のエラー・メッセージが Inbound Refinery のログに記録されます。

```
Unable to convert, native application reported: 'Permission denied'
```

通常、このエラーが発生するのは、Samba が使用されており、コンテンツ・サーバーが UNIX、Inbound Refinery が Microsoft Windows にある場合です。

考えられる原因	解決方法
AutoExNT を使用して、マップされたネットワーク・ドライブを介して UNIX/Linux ボリュームを Samba にマップしています。また、Inbound Refinery サービスを実行するユーザーに対して DCOM 権限が適切に設定されていません。	Inbound Refinery サービスを実行するユーザーの DCOM 権限を変更します。詳細は、10-10 ページの「 DCOM 権限の変更 」を参照してください。

DCOM 権限の変更

1. dcmocnfg.exe を起動して、Inbound Refinery サービスを実行するユーザーのユーザー権限を調べます。
2. 「Default Security」タブで、ドメイン・ユーザーを Connect、Access、Launch および Configuration に追加してください。
3. Inbound Refinery サービスを再起動します。

サムネイル作成の問題

現在、サムネイル作成の問題に関する記載はありません。

ファイル表示の問題

現在、ファイル表示の問題に関する記載はありません。



OUTSIDE IN IMAGE EXPORT で 変換されるファイル・フォーマット

概要

Inbound Refinery には Outside In Image Export 8.1.9 が含まれ、次の処理に使用できます。

- ❖ ファイルのサムネイルの作成。サムネイルは、コンテンツの小さなプレビュー・イメージです。
- ❖ マルチページ TIFF ファイルへのファイルの変換。TIFF ビューア・プラグインを備えた標準の Web ブラウザを使用して、ユーザーがファイルを表示できるようになります。

この項では、Windows または UNIX で Outside In Image Export を使用して変換できるファイル・フォーマットを示します。ファイル・フォーマットは次のカテゴリに分類されています。

- ❖ [文書作成のフォーマット](#) (A-2 ページ)
- ❖ [デスクトップ・パブリッシングのフォーマット](#) (A-4 ページ)
- ❖ [データベース・フォーマット](#) (A-5 ページ)
- ❖ [スプレッドシートのフォーマット](#) (A-6 ページ)
- ❖ [プレゼンテーションのフォーマット](#) (A-7 ページ)
- ❖ [グラフィックのフォーマット](#) (A-8 ページ)
- ❖ [圧縮のフォーマット](#) (A-11 ページ)
- ❖ [電子メールのフォーマット](#) (A-11 ページ)
- ❖ [その他のフォーマット](#) (A-13 ページ)

文書作成のフォーマット

変換できる文書作成ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
ANSI テキスト	7 および 8 ビット
ASCII テキスト	7 および 8 ビット
DEC WPS Plus (DX)	バージョン 3.1 まで
DEC WPS Plus (WPL)	バージョン 4.1 まで
DisplayWrite 2 および 3 (TXT)	すべてのバージョン
DisplayWrite 4 および 5	バージョン 2.0 まで
EBCDIC	すべてのバージョン
Enable	バージョン 3.0、4.0 および 4.5
First Choice	バージョン 3.0 まで
Framework	バージョン 3.0
Hangul	バージョン 97 および 2002
IBM FFT	すべてのバージョン
IBM Revisable Form Text	すべてのバージョン
IBM Writing Assistant	バージョン 1.01
ジャストシステム、一太郎	バージョン 4.x ~ 6.x、8.x ~ 13.x および 2004
ジャストライト	バージョン 3.0 まで
Legacy	バージョン 1.1 まで
Lotus AMI/AMI Professional	バージョン 3.1 まで
Lotus Manuscript	バージョン 2.0
Lotus Word Pro (Windows 以外)	バージョン SmartSuite 97、Millennium および Millennium 9.6 (テキストのみ)
Lotus Word Pro (Windows)	バージョン SmartSuite 96 および 97、Millennium、Millennium 9.6
MacWrite II	バージョン 1.1

ファイル・フォーマット	バージョン
MASS11	バージョン 8.0 まで
Microsoft リッチ・テキスト・フォーマット (RTF)	すべてのバージョン
Microsoft Word (DOS)	バージョン 6.0 まで
Microsoft Word (Mac)	バージョン 4.0 ~ 2004
Microsoft Word (Windows)	バージョン 2007 まで
Microsoft WordPad	すべてのバージョン
Microsoft Works (DOS)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Mac)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Windows)	バージョン 4.0 まで
Microsoft Windows Write	バージョン 3.0 まで
MultiMate	バージョン 4.0 まで
Navy DIF	すべてのバージョン
Nota Bene	バージョン 3.0
Novell Perfect Works	バージョン 2.0
Novell/Corel WordPerfect (DOS)	バージョン 6.1 まで
Novell/Corel WordPerfect (Mac)	バージョン 1.02 ~ 3.0
Novell/Corel WordPerfect (Windows)	バージョン 12.0 まで
Office Writer	バージョン 4.0 ~ 6.0
OpenOffice Writer (Windows および UNIX)	OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0
PC-File Letter	バージョン 5.0 まで
PC-File+ Letter	バージョン 3.0 まで
PFS:Write	バージョン A、B および C
Professional Write (DOS)	バージョン 2.1 まで
Professional Write Plus (Windows)	バージョン 1.0
Q&A (DOS)	バージョン 2.0

ファイル・フォーマット	バージョン
Q&A Write (Windows)	バージョン 3.0
Samna Word	バージョン Samna Word IV+ まで
Signature	バージョン 1.0
SmartWare II	バージョン 1.02
Sprint	バージョン 1.0 まで
StarOffice Writer	バージョン 5.2 (テキストのみ) および 6.x ~ 8.x
Total Word	バージョン 1.2
Unicode テキスト	すべてのバージョン
UTF-8	すべてのバージョン
Volkswriter 3 および 4	バージョン 1.0 まで
Wang PC (IWP)	バージョン 2.6 まで
WordMARC	バージョン Composer Plus まで
WordStar (DOS)	バージョン 7.0 まで
WordStar (Windows)	バージョン 1.0
WordStar 2000 (DOS)	バージョン 3.0 まで
XyWrite	バージョン III Plus まで

デスクトップ・パブリッシングのフォーマット

変換できるデスクトップ・パブリッシング・ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
Adobe FrameMaker (MIF)	バージョン 3.0、4.0、5.0、5.5 および 6.0、日本語版 3.0、4.0、5.0 および 6.0 (テキストのみ)

データベース・フォーマット

変換できるデータベース・ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
Access	バージョン 2.0 まで
dBASE	バージョン 5.0 まで
DataEase	バージョン 4.x まで
dBXL	バージョン 1.3
Enable	バージョン 3.0、4.0 および 4.5
First Choice	バージョン 3.0 まで
FoxBase	バージョン 2.1
Framework	バージョン 3.0
Microsoft Works (Windows)	バージョン 4.0 まで
Microsoft Works (DOS)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Mac)	バージョン 2.0 まで
Paradox (DOS)	バージョン 4.0 まで
Paradox (Windows)	バージョン 1.0 まで
Personal R:BASE	バージョン 1.0
R:BASE 5000	バージョン 3.1 まで
R:BASE System V	バージョン 1.0
Reflex	バージョン 2.0
Q & A	バージョン 2.0 まで
SmartWare II	バージョン 1.02

スプレッドシートのフォーマット

変換できるスプレッドシート・ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
Enable	バージョン 3.0、4.0 および 4.5
First Choice	バージョン 3.0 まで
Framework	バージョン 3.0
Lotus 1-2-3 (DOS および Windows)	バージョン 5.0 まで
Lotus 1-2-3 (OS/2)	バージョン 2.0 まで
Lotus 1-2-3 Charts (DOS および Windows)	バージョン 5.0 まで
Lotus 1-2-3 for SmartSuite	バージョン 97 ~ Millennium 9.6
Lotus Symphony	バージョン 1.0、1.1 および 2.0
Mac Works	バージョン 2.0
Microsoft Excel Charts	バージョン 2.x ~ 7.0
Microsoft Excel (Mac)	バージョン 3.0 ~ 4.0、98、2001、2002、2004 および v.X
Microsoft Excel (Windows)	バージョン 2.2 ~ 2007
Microsoft Multiplan	バージョン 4.0
Microsoft Works (Windows)	バージョン 4.0 まで
Microsoft Works (DOS)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Mac)	バージョン 2.0 まで
Mosaic Twin	バージョン 2.5
Novell Perfect Works	バージョン 2.0
PFS:Professional Plan	バージョン 1.0
Quattro Pro (DOS)	バージョン 5.0 まで (テキストのみ)
Quattro Pro (Windows)	バージョン 12.0 まで (テキストのみ)
SmartWare II	バージョン 1.02

ファイル・フォーマット	バージョン
StarOffice/OpenOffice Calc (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 ~ 8.x および OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0 (テキストのみ)
SuperCalc 5	バージョン 4.0
VP Planner 3D	バージョン 1.0

プレゼンテーションのフォーマット

変換できるプレゼンテーション・ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
Corel/Novell Presentations	バージョン 12.0 まで
Harvard Graphics (DOS)	バージョン 2.x および 3.x
Harvard Graphics (Windows)	Windows 版
Freelance (Windows)	バージョン Millennium 9.6 まで
Freelance (OS/2)	バージョン 2.0 まで
Microsoft PowerPoint (Windows)	バージョン 3.0 ~ 2007
Microsoft PowerPoint (Mac)	バージョン 4.0 ~ v.X
StarOffice/OpenOffice Impress (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 (テキストのみ)、6.x ~ 8.x (フル・サポート)、OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0 (テキストのみ)

グラフィックのフォーマット

変換できるグラフィック・ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
Adobe Photoshop (PSD)	すべてのバージョン
Adobe Illustrator	バージョン 7.0 および 9.0
Adobe FrameMaker のグラフィック (FMV)	vector/raster 5.0 まで
Adobe Acrobat (PDF)	バージョン 1.0、2.1、3.0、4.0、5.0、6.0 および 7.0 (日本語版 PDF を含む)
Ami Draw (SDW)	Ami Draw
AutoCAD Interchange および Native Drawing フォーマット (DXF および DWG)	AutoCAD Drawing バージョン 2.5 ~ 2.6、9.0 ~ 14.0、2000i および 2002
AutoCAD Drawing	バージョン 2.5 ~ 2.6、9.0 ~ 14.0、2000i および 2002
AutoShade Rendering (RND)	バージョン 2.0
Binary Group 3 Fax	すべてのバージョン
ビットマップ (BMP、RLE、ICO、CUR、OS/2 DIB および WARP)	すべてのバージョン
CALS Raster (GP4)	Type I および Type II
Corel Clipart フォーマット (CMX)	バージョン 5 ~ 6
Corel Draw (CDR)	バージョン 3.x ~ 8.x
Corel Draw (TIFF ヘッダー付き CDR)	バージョン 2.x ~ 9.x
Computer Graphics Metafile (CGM)	ANSI、CAL S NIST バージョン 3.0
Encapsulated PostScript (EPS)	TIFF ヘッダーのみ
GEM Paint (IMG)	すべてのバージョン
Graphics Environment Mgr (GEM)	ビットマップおよびベクター
Graphics Interchange Format (GIF)	すべてのバージョン

ファイル・フォーマット	バージョン
Hewlett Packard Graphics Language (HPGL)	バージョン 2
IBM Graphics Data Format (GDF)	バージョン 1.0
IBM Picture Interchange Format (PIF)	バージョン 1.0
Initial Graphics Exchange Spec (IGES)	バージョン 5.1
JBIG2	PDF ファイル内の JBIG2 グラフィックの埋込み
JFIF (TIFF フォーマットでない JPEG)	すべてのバージョン
JPEG (EXIF を含む)	すべてのバージョン
Kodak Flash Pix (FPX)	すべてのバージョン
Kodak Photo CD (PCD)	バージョン 1.0
Lotus PIC	すべてのバージョン
Lotus Snapshot	すべてのバージョン
Macintosh PICT1 および PICT2	ビットマップのみ
MacPaint (PNTG)	すべてのバージョン
Micrografx Draw (DRW)	バージョン 4.0 まで
Micrografx Designer (DRW)	バージョン 3.1 まで
Micrografx Designer (DSF)	Windows 95、バージョン 6.0
Novell PerfectWorks (Draw)	バージョン 2.0
OS/2 PM Metafile (MET)	バージョン 3.0
Paint Shop Pro 6 (PSP)	Windows のみ、バージョン 5.0 ~ 6.0
PC Paintbrush (PCX および DCX)	すべてのバージョン
Portable Bitmap (PBM)	すべてのバージョン
Portable Graymap (PGM)	特定のバージョンなし
Portable Network Graphics (PNG)	バージョン 1.0
Portable Pixmap (PPM)	特定のバージョンなし
Postscript (PS)	レベル 1 ~ 2

ファイル・フォーマット	バージョン
Progressive JPEG	特定のバージョンなし
Sun Raster (SRS)	特定のバージョンなし
StarOffice/OpenOffice Draw (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 ~ 8.x および OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0 (テキ ストのみ)
TIFF	バージョン 6 まで
TIFF CCITT Group 3 および 4	バージョン 6 まで
Truevision TGA (TARGA)	バージョン 2
Visio (プレビュー)	バージョン 4
Visio	バージョン 5、2000、2002 および 2003
WBMP	特定のバージョンなし
Windows Enhanced Metafile (EMF)	特定のバージョンなし
Windows Metafile (WMF)	特定のバージョンなし
WordPerfect Graphics (WPG および WPG2)	バージョン 2.0 まで
X-Windows Bitmap (XBM)	x10 と互換性あり
X-Windows Dump (XWD)	x10 と互換性あり
X-Windows Pixmap (XPM)	x10 と互換性あり

圧縮のフォーマット

変換できる圧縮ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
GZIP	
LZA 自己解凍形式の圧縮	
LZH 圧縮	
Microsoft Binder	バージョン 7.0～7 (Binder ファイルに含まれるファイルの変換は Windows のみでサポート)
UUEncode	
UNIX Compress	
UNIX TAR	
ZIP	PKWARE バージョン 2.04g まで

電子メールのフォーマット

変換できる電子メール・ファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
Microsoft Outlook のフォルダ (PST)	Microsoft Outlook フォルダおよび Microsoft Outlook オフライン・フォルダのファイル、バージョン 97、98、2000、2002 および 2003
Microsoft Outlook のメッセージ (MSG)	Microsoft Outlook メッセージおよび Microsoft Outlook フォーム・テンプレート、バージョン 97、98、2000、2002 および 2003
MIME	MIME エンコーディングされたメール・メッセージ。詳細は、A-12 ページの「 MIME サポートの注意事項 」を参照してください。

MIME サポートの注意事項

次に、MIME エンコーディングされたメール・メッセージ・フォーマットのサポートについて詳しい情報を示します。

- ❖ MIME フォーマット
 - EML
 - MHT (Web アーカイブ)
 - NWS (Newsgroup シングルパートおよびマルチパート)
 - Simple Text Mail (RFC 2822 で定義)
- ❖ TNEF フォーマット
- ❖ MIME エンコーディング
 - base64 (RFC 1521 で定義)
 - binary (RFC 1521 で定義)
 - binhex (RFC 1741 で定義)
 - btoa
 - quoted-printable (RFC 1521 で定義)
 - utf-7 (RFC 2152 で定義)
 - uue
 - xxe
 - yenc

また、メッセージ本文をいくつかの方法でエンコーディングできます。次のエンコーディングがサポートされています。

- ❖ Text
- ❖ HTML
- ❖ RTF
- ❖ TNEF
- ❖ text/enriched (RFC1523 で定義)
- ❖ text/richtext (RFC1341 で定義)
- ❖ embedded mail message (RFC 822 で定義)。これは新たなメッセージへのリンクとして処理されます。



注意: MIME メッセージの添付ファイルは多様なフォーマットで格納できます。サポートされるすべての添付ファイルのタイプが処理されます。

その他のフォーマット

変換できるその他のファイル・フォーマットを次に示します。

ファイル・フォーマット	バージョン
実行可能ファイル (EXE、DLL)	
HTML	バージョン 3.0 まで (一部制約あり)
Macromedia Flash	Macromedia Flash 6.x、Macromedia Flash 7.x および Macromedia Flash Lite (テキストのみ)
Microsoft Project	バージョン 98 ~ 2003 (テキストのみ)
MP3	ID3 情報
vCard、vCalendar	バージョン 2.1
Windows 実行可能ファイル	
WML	バージョン 5.2
XML	テキストのみ
Yahoo!Instant Messenger	バージョン 6.x および 7.x

Outside In Image Export で 変換されるファイル・フォーマット

B

サード・パーティ・ライセンス

概要

この付録には、この製品に付属するすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスの説明が含まれます。

- ❖ [Apache Software License](#) (B-1 ページ)
- ❖ [W3C® Software Notice and License](#) (B-2 ページ)
- ❖ [Zlib License](#) (B-4 ページ)
- ❖ [一般的な BSD ライセンス](#) (B-5 ページ)
- ❖ [一般的な MIT ライセンス](#) (B-5 ページ)
- ❖ [Unicode ライセンス](#) (B-6 ページ)
- ❖ [その他の帰属](#) (B-7 ページ)

APACHE SOFTWARE LICENSE

- * Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.
- * Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
- * you may not use this file except in compliance with the License.
- * You may obtain a copy of the License at
- * <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>
- *
- * Unless required by applicable law or agreed to in writing, software

- * distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
- * WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
- * See the License for the specific language governing permissions and
- * limitations under the License.

W3C® SOFTWARE NOTICE AND LICENSE

- * Copyright © 1994-2000 World Wide Web Consortium,
- * (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
- * Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
- * All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>
- *
- * This W3C work (including software, documents, or other related items) is
- * being provided by the copyright holders under the following license. By
- * obtaining, using and/or copying this work, you (the licensee) agree that
- * you have read, understood, and will comply with the following terms and
- * conditions:
- *
- * Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its
- * documentation, with or without modification, for any purpose and without
- * fee or royalty is hereby granted, provided that you include the following
- * on ALL copies of the software and documentation or portions thereof,
- * including modifications, that you make:
- *
- * 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to users of the
- * redistributed or derivative work.
- *
- * 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers, notices, or terms
- * and conditions. If none exist, a short notice of the following form
- * (hypertext is preferred, text is permitted) should be used within the
- * body of any redistributed or derivative code: "Copyright ©
- * [date-of-software] World Wide Web Consortium, (Massachusetts
- * Institute of Technology, Institut National de Recherche en

* Informatique et en Automatique, Keio University).All Rights
* Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>"
*
* 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files, including the
* date changes were made.(We recommend you provide URIs to the location
* from which the code is derived.)
*
* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND COPYRIGHT HOLDERS
* MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT
* NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR
* PURPOSE OR THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT INFRINGE
* ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.
*
* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, SPECIAL OR
* CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE SOFTWARE OR
* DOCUMENTATION.
*
* The name and trademarks of copyright holders may NOT be used in advertising
* or publicity pertaining to the software without specific, written prior
* permission.Title to copyright in this software and any associated
* documentation will at all times remain with copyright holders.
*

ZLIB LICENSE

* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library
version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied
warranty. In no event will the authors be held liable for any damages
arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,
including commercial applications, and to alter it and redistribute it
freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not
claim that you wrote the original software. If you use this software
in a product, an acknowledgment in the product documentation would be
appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be
misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

一般的な BSD ライセンス

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

一般的な MIT ライセンス

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,

DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

UNICODE ライセンス

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>. Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

その他の帰属

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.

FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.

HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.

IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.

Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.

Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.

Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.

Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.

MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.

Portions Copyright © 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

Portions Copyright © 1997 Soft Horizons. All rights reserved.

Portions Copyright © 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.

Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.

Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.

Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.

UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

サード・パーティ・ライセンス

索引

数字

2 桁の年, 9-16

A

「Add File Extensions」または「Edit File Extensions」画面, 6-22

「Add New File Formats」または「Edit File Formats」画面, 6-21

「Add Outgoing Provider」または「Edit Outgoing Provider」ページ, 5-14

「Additional Renditions」ページ, 7-16

「Admin Server」ページ, 9-26

「Agent Logs」ページ, 8-14

「Agent Management」ページ, 9-19

「Agent Status」ページ, 8-10

C

「Configuration Information」ページ, 9-21

「Configure Web Server Filter」ページ, 9-25

「Console Output」ページ, 8-9

Content Server

Inbound Refinery の IP セキュリティ・フィルタの編集, 5-18

PassThru ファイルに関する構成, 6-12

構成のシナリオ, 5-2

リファイナリ・プロバイダ, 5-9

リファイナリ・プロバイダの削除, 5-12

リファイナリ・プロバイダの追加, 5-10

リファイナリ・プロバイダの編集, 5-11

リファイナリ・プロバイダの無効化および有効化, 5-11

リファイナリ変換オプションの構成, 6-13

「Conversion Detail」ページ, 8-13

「Conversion History」ページ, 8-12

「Conversion Listing」ページ, 7-12

D

「Delete Agent」ページ, 9-20

Digital Asset Manager, 説明, 3-3

F

File Formats ウィザード
説明, 6-8

ファイル・フォーマットの管理に使用, 6-8

File Formats ウィザード・ページ, 6-18

「File Formats」画面, 6-20

H

HCST ファイル, PassThru ファイル, 6-12

I

Inbound Refinery

10g リリース 3 での製品の変更点, 2-1

10g リリース 3 でのドキュメントの変更点, 2-2

PDF ドキュメント, 1-3

アクティブ・ウイルス・スキャン, 9-15

インストールと設定の概要, 3-4

インストールの問題, 10-4

オンライン・ヘルプ, 1-3

概要, 3-1

構成のシナリオ, 5-2

コンテンツ・サーバーでの変換オプションの構成, 6-13

コンテンツ・サーバーの IP セキュリティ・フィルタ, 5-18

設定と実行の問題, 10-5

ドキュメント, 1-3

トラブルシューティング・プロセス, 10-2
プロセスの概要, 3-5
変換の失敗に関する構成, 6-13
変換方法, 6-4
リファイナリ・プロバイダ, 5-9
リファイナリ・プロバイダの構成, 5-9
リファイナリ・プロバイダの削除, 5-12
リファイナリ・プロバイダの追加, 5-10
リファイナリ・プロバイダの編集, 5-11
リファイナリ・プロバイダの無効化および有効化,
5-11

「Inbound Refinery Conversion Options」ページ, 6-23,
6-25, 6-26
IP セキュリティ・フィルタ, Inbound Refinery, 5-18
「Items In Queue」ページ, 8-11

L

localhost の IP アドレス (127.0.0.1), 5-18

M

MIME タイプ

Inbound Refinery, 6-2

概要, 6-7

Multipurpose Internet Mail Extension (MIME) タイプ,
「MIME タイプ」を参照

P

PassThru ファイル, 6-12

PDF Converter, 説明, 3-2

PDF ドキュメント, Inbound Refinery, 1-3

「Primary Web-Viewable Rendition」ページ, 7-14

「Provider Information」ページ, 5-17

「Providers」ページ, 5-12, 9-24

R

「Refinery Logs」ページ, 8-8

「Refinery Status」ページ, 8-6

S

「System Audit Information」ページ, 9-22

T

「Third-Party Application Settings」ページ, 7-21

「Thumbnail Options」ページ, 7-17

Tiff Converter, 説明, 3-2

TIFF ファイル, プライマリの Web 表示可能レンディ
ションとしての設定, 7-7

「Timeout Settings」ページ, 7-22

U

UNIX

リファイナリの起動と停止, 4-5

レンダリング・オプションの構成, 7-9

「User Profile」ページ, 9-18

W

Web サーバー, リファイナリ Web サーバー・フィルタ
の構成, 9-12

Windows

アプリケーションとしてのリファイナリの起動、停
止および再起動, 4-4

サービスとしてのリファイナリの起動、停止および
再起動, 4-2

X

XML Converter, 説明, 3-3

あ

アクティブ・ウイルス・スキャン, Inbound Refinery,
9-15

アドオン, 「変換アドオン」を参照

アプリケーション

サード・パーティ・アプリケーション設定の構成,
7-11

リファイナリの起動、停止および再起動, 4-4

アプリケーションとして, Windows での管理サーバ
ーの起動と停止, 4-8

い

インストールの問題, Inbound Refinery, 10-4

う

ウイルス・スキャン, Inbound Refinery, 9-15
 受け入れられる変換, 設定, 7-6
 上書き, 変換, 6-14

え

エージェント

概要, 8-2
 管理, 9-9
 削除, 9-9
 詳細ログインの有効化, 9-9
 状態の表示, 8-5
 変換キューの表示, 8-5
 変換履歴の表示, 8-5
 ログの表示, 8-6

お

オンライン・ヘルプ, Inbound Refinery, 1-3

か

ガイド

このガイドで使用する表記規則, 1-2
 このガイドの概要, 1-1

概要

MIME タイプ, 6-7
 エージェント, 8-2
 このガイド, 1-1
 サムネイル, 7-3
 変換設定, 7-2
 リファイナリのユーザー, 9-2
 リファイナリ・ログ, 8-2

概要, Inbound Refinery のインストールと設定, 3-4

画面

「Add File Extensions」または「Edit File Extensions」, 6-22
 「Add New File Formats」または「Edit File Formats」, 6-21
 「File Formats」, 6-20

監査, 情報の表示, 9-11

管理

ファイル・フォーマット, File Formats ウィザードの使用, 6-8
 ファイル・フォーマット, 構成マネージャの使用, 6-9

リファイナリ・エージェント, 9-9

リファイナリの変換キュー, 9-5

リファイナリのユーザー, 9-2

リファイナリ・プロバイダ, 9-12

管理サーバー

UNIX での起動と停止, 4-9

Windows でのアプリケーションとしての起動と停止, 4-8

Windows でのサービスとしての起動、停止および再起動, 4-7

使用, 9-12

使用によるリファイナリの起動と停止, 4-7

管理ユーティリティ, 使用, 9-13

き

起動

UNIX での管理サーバー, 4-9

Windows アプリケーションとしてのリファイナリ, 4-4

Windows サービスとしてのリファイナリ, 4-2

Windows でのアプリケーションとしての管理サーバー, 4-8

Windows でのサービスとしての管理サーバー, 4-7
 管理サーバーを使用したリファイナリ, 4-9

起動, 構成マネージャ, 6-9

キュー, リファイナリの変換の管理, 9-5

く

グラフィック

UNIX でのレンダリング, 7-9

変換のタイムアウト設定の構成, 7-11

こ

構成

UNIX でのレンダリング・オプション, 7-9

Web サーバー・フィルタ, 9-12

グラフィック変換のタイムアウト設定, 7-11

コンテンツ・サーバーに対するリファイナリの構成のシナリオ, 5-2

サード・パーティ・アプリケーション設定, 7-11

情報の表示, 9-10

リファイナリ・プロバイダ, 5-9

構成マネージャ

起動, 6-9

ファイル・フォーマットの管理に使用, 6-9

コンソール出力, 表示, 8-4
コンテンツ・アイテム, リファイナリ通過と変換失敗,
6-7
コンテンツ・サーバー
デフォルト・パスワード, 4-6
デフォルト・ユーザー名, 4-6
リファイナリのユーザーの認証, 9-3
コンポーネント・ウィザード・ユーティリティ, 使用,
9-14

さ

サード・パーティ・アプリケーション, 設定の構成,
7-11
サービス
Windows での管理サーバーの起動、停止および再
起動, 4-7
リファイナリの起動、停止および再起動, 4-2
再起動
Windows アプリケーションとしてのリファイナリ,
4-4
Windows サービスとしてのリファイナリ, 4-2
Windows でのサービスとしての管理サーバー, 4-7
管理サーバーを使用したリファイナリ, 4-9
サイズ, サムネイル, 6-17
削除
リファイナリ・エージェント, 9-9
リファイナリ・プロバイダ, 5-12
サムネイル
概要, 7-3
サイズの変更, 6-17
設定, 7-7
タイプ, 7-3
サムネイルの問題, 10-10

し

システム・プロパティ・ユーティリティ, 使用, 9-14
システム・ロケール
2桁の年, 9-16
実行
ユーザー管理, 9-2
リファイナリ・エージェント管理, 9-9
実行の問題, Inbound Refinery, 10-5
シナリオ, コンテンツ・サーバーに対するリファイナリ
の構成, 5-2
使用
管理サーバー, 9-12

管理ユーティリティ, 9-13
コンポーネント・ウィザード, 9-14
システム・プロパティ・ユーティリティ, 9-14
詳細ロギング, 有効化, 9-9
状態
エージェントの状態の表示, 8-5
リファイナリの状態の表示, 8-4
情報
リファイナリ構成情報の表示, 9-10
リファイナリのシステム監査情報の表示, 9-11

す

スキャン, ウイルスおよび Inbound Refinery, 9-15

せ

静的なレイアウト・ファイル, パブリッシュ, 9-13
製品の変更点, Inbound Refinery 10g リリース 3, 2-1
設定
受け入れられる変換, 7-6
グラフィック変換のタイムアウト設定の構成,
7-11
サード・パーティ・アプリケーションの構成,
7-11
サムネイル, 7-7
タイムゾーン, 9-17
プライマリの Web 表示可能レンディションとして
のマルチページ TIFF ファイル, 7-7
変換設定について, 7-2
設定の問題, Inbound Refinery, 10-5

た

タイムアウト, 計算, 7-5
タイムアウト設定, グラフィック変換の構成, 7-11
タイムアウトの計算, 7-5
タイムゾーン, 設定, 9-17

つ

追加
管理サーバーへリファイナリ, 4-10
ファイル拡張子, 6-11
ファイル・フォーマット, 6-10
リファイナリ・プロバイダ, 5-10

て

停止

- UNIX での管理サーバー, 4-9
- Windows アプリケーションとしてのリファイナリ,
4-4
- Windows サービスとしてのリファイナリ, 4-2
- Windows でのアプリケーションとしての管理サーバー, 4-8
- Windows でのサービスとしての管理サーバー, 4-7
- 管理サーバーを使用したリファイナリ, 4-9

デフォルト

- パスワード, 4-6
- ユーザー名, 4-6

と

- 動的なレイアウト・ファイル, パブリッシュ, 9-13
- ドキュメント
 - Inbound Refinery, 1-3
 - Inbound Refinery 10g リリース 3 の変更点, 2-2
- 年 (2 桁), 9-16
- トラブルシューティング・プロセス, リファイナリの問題, 10-2

に

- 認証, リファイナリのユーザー, 9-3

は

- パスワード, Inbound Refinery のデフォルト, 4-6
- パブリッシュ, 動的および静的なレイアウト・ファイル, 9-13

ひ

- 日付フォーマット
 - 2 桁の年, 9-16
 - 変更, 9-16
- 表記規則, このガイドで使用, 1-2
- 表示
 - エージェントの状態, 8-5
 - エージェントの変換キュー, 8-5
 - エージェント・ログ, 8-6
 - コンソール出力, 8-4
 - 変換履歴, 8-5
 - リファイナリ構成情報, 9-10

- リファイナリのシステム監査情報, 9-11
- リファイナリの状態, 8-4
- リファイナリ・ログ, 8-4

ふ

- ファイル拡張子
 - 追加, 6-11
 - 編集, 6-11
- ファイル表示の問題, 10-10
- ファイル・フォーマット
 - File Formats ウィザードを使用して管理, 6-8
 - 構成マネージャを使用して管理, 6-9
 - 追加, 6-10
 - 変換方法, 概要, 6-2
 - 編集, 6-10
- フィルタ, リファイナリ Web サーバーについての構成, 9-12
- フォーマット, 日付について変更, 9-16
- フォーマット上書きの許可, 6-14
- フォント, UNIX でのレンダリング, 7-9
- プライマリの Web 表示可能レンディション, マルチページ TIFF ファイルの設定, 7-7
- プロセスの概要, Inbound Refinery, 3-5
- プロバイダ
 - 管理, 9-12
 - リファイナリの構成, 5-9
 - リファイナリ・プロバイダ, 5-9
 - リファイナリ・プロバイダの削除, 5-12
 - リファイナリ・プロバイダの追加, 5-10
 - リファイナリ・プロバイダの編集, 5-11
 - リファイナリ・プロバイダの無効化および有効化, 5-11
- プロファイル, ユーザーについて編集, 9-3

へ

ページ

- 「Add Outgoing Provider」または「Edit Outgoing Provider」, 5-14
- 「Additional Renditions」, 7-16
- 「Admin Server」, 9-26
- 「Agent Logs」, 8-14
- 「Agent Management」, 9-19
- 「Agent Status」, 8-10
- 「Configuration Information」, 9-21
- 「Configure Web Server Filter」, 9-25
- 「Console Output」, 8-9
- 「Conversion Detail」, 8-13

「Conversion History」, 8-12
 「Conversion Listing」, 7-12
 「Delete Agent」, 9-20
 File Formats ウィザード, 6-18
 「Inbound Refinery Conversion Options」, 6-23, 6-25, 6-26
 「Items In Queue」, 8-11
 「Primary Web-Viewable Rendition」, 7-14
 「Provider Information」, 5-17
 「Providers」, 5-12, 9-24
 「Refinery Logs」, 8-8
 「Refinery Status」, 8-6
 「System Audit Information」, 9-22
 「Third-Party Application Settings」, 7-21
 「Thumbnail Options」, 7-17
 「Timeout Settings」, 7-22
 「User Profile」, 9-18

変換
 チェックイン時の上書き, 6-14
 変換履歴の表示, 8-5
 リファイナリで受け入れられる変換の設定, 7-6

変換, Inbound Refinery, 3-1

変換アドオン
 Digital Asset Manager, 3-3
 Inbound Refinery, 3-1
 PDF Converter, 3-2
 Tiff Converter, 3-2
 XML Converter, 3-3

変換オプション, コンテンツ・サーバーでのリファイナリ変換オプションの構成, 6-13

変換キュー, 管理, 9-5

変換設定, 概要, 7-2

変換の失敗, 6-13

変換方法, 説明, 6-4

変更
 サムネイルのサイズ, 6-17
 日付フォーマット, 9-16

変更点
 Inbound Refinery 10g リリース 3 製品, 2-1
 Inbound Refinery 10g リリース 3 ドキュメント, 2-2

編集
 コンテンツ・サーバーの IP セキュリティ・フィルタ, 5-18
 ファイル拡張子, 6-11
 ファイル・フォーマット, 6-10
 ユーザー・プロファイル, 9-3
 リファイナリ・プロバイダ, 5-11

ま

マッピング
 ファイル拡張子とファイル・フォーマット, 6-11
 ファイル・フォーマットと変換, 6-10
 マルチページ TIFF ファイル, プライマリの Web 表示可能レンディションとしての設定, 7-7

む

無効化, リファイナリ・プロバイダ, 5-11

ゆ

有効化
 詳細ロギング, 9-9
 リファイナリ・プロバイダ, 5-11

ユーザー
 概要, 9-2
 管理, 9-3
 管理の実行, 9-2
 プロファイルの編集, 9-3

ユーザー名, Inbound Refinery のデフォルト, 4-6

り

リファイナリ
 UNIX での起動と停止, 4-5
 Web サーバー・フィルタの構成, 9-12
 Windows アプリケーションとしての起動、停止および再起動, 4-4
 Windows サービスとしての起動、停止および再起動, 4-2
 エージェントの状態の表示, 8-5
 エージェントの変換キューの表示, 8-5
 エージェント・ログの表示, 8-6
 管理サーバーの使用, 9-12
 管理サーバーの使用による起動、停止および再起動, 4-9
 管理サーバーの使用による起動と停止, 4-7
 管理サーバーへの追加, 4-10
 構成情報の表示, 9-10
 コンソール出力の表示, 8-4
 システム監査情報の表示, 9-11
 状態の表示, 8-4
 認証およびユーザーの管理, 9-3
 プロバイダ, 5-9
 プロバイダの管理, 9-12

- プロバイダの削除, 5-12
- プロバイダの追加, 5-10
- プロバイダの編集, 5-11
- プロバイダの無効化および有効化, 5-11
- 変換キューの管理, 9-5
- 変換履歴の表示, 8-5
- ユーザーについて, 9-2
- ログオン, 4-6
- ログの表示, 8-4
- リファイナリ・エージェント
 - 管理, 9-9
 - 削除, 9-9
- リファイナリの問題
 - サムネイルの問題, 10-10
 - トラブルシューティング・プロセス, 10-2
 - ファイル表示の問題, 10-10
- リファイナリへのログオン, 4-6
- リファイナリ・ログ, 概要, 8-2

れ

- レンダリング, UNIX でのフォントおよびグラフィック, 7-9
- レンディション, プライマリの Web 表示可能レンディションとしてのマルチページ TIFF ファイルの設定, 7-7

ろ

- ログ
 - エージェント・ログの表示, 8-6
 - 詳細ロギングの有効化, 9-9
 - リファイナリ・ログについて, 8-2
 - リファイナリ・ログの表示, 8-4

